

- 四 同法第七十一條第二項ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ
- 五 同法第七十六條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ
- 第三十二條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ニ報告スヘシ
 - 一 森林法第九條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘ又ハ變更ヲ命シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ施業案ニ關スルトキハ其ノ施業案ヲ添附スヘシ
 - 二 同法第十條第一項ノ規定ニ依リ施業ノ方法ヲ指定シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ指定ヲ要スル理由ヲ具シ施業方法書ヲ添附スヘシ
 - 三 同法第十條第二項、第三十三條又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ森林法第七條ノ規定ニ依リ造林命令ニ關スルトキハ造林方法書ヲ添附スヘシ
 - 四 同法第十一條第一項、第三十四條又ハ第七條第二項ノ規定ニ依リ執行シタル造林ヲ終了セルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ造林費ノ徵收ニ關スル事項ヲ具シ第十八號様式ニ準シテ作成シタル造林事業實行書ヲ添附スヘシ
 - 五 第二號又ハ第三號ノ指定又ハ命令ヲ變更解除シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
 - 六 森林法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
 - 七 同法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應ジタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ使用、變更又ハ除却スヘキ物件、期間、時期、目的、方法等ニ關スル重要ナル事項ヲ具シ且必要ニ應ジ事業計劃書又ハ圖面ヲ添附スヘシ
 - 八 同法第五十五條、第五十七條又ハ第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ニ於テ裁決ヲ爲シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ裁決書ノ謄本ヲ添附スヘシ

九 森林組合ノ設立ヲ許可シタルトキ

- 此ノ場合ニ於テハ組合員ノ數、組合員ノ所有スル森林面積等ヲ具シ且定款ノ寫ヲ添附スヘシ
 - 十 同法第六十八條第三項ノ規定ニ依リ定款變更ノ認可ヲ與ヘタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ變更ニ係ル事項中著シキモノニ關スル理由ヲ具スヘシ
 - 十一 森林法施行規則第三十八條ノ規定ニ依リ事業ノ計劃又ハ設計ヲ認可シタルトキ但シ輕微ナルモノヲ除ク
 - 此ノ場合ニ於テハ計劃又ハ設計ノ大要ヲ具シ又ハ必要ニ應ジ計劃書若ハ設計書ヲ添附スヘシ
 - 十二 森林法施行規則第四十一條第一號若ハ第四號ノ報告又ハ同條第三號中森林組合令第十六條第二號ノ事項ノ報告ヲ受ケタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ報告書寫ヲ添附スヘシ
 - 十三 森林組合ノ合併ヲ認可シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ合併ヲ要スル理由ヲ具シ且合併契約書寫ヲ添附スヘシ
 - 十四 森林法第七十二條第一號又ハ第二號ノ處分ヲ爲シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
 - 十五 森林組合ノ解散ノ届出ヲ受ケタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ解散ノ事由ヲ具スヘシ
 - 十六 森林害蟲等蔓延シ若ハ蔓延ノ虞アルトキ又ハ森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ森林害蟲等ノ驅除豫防ヲ命シ若ハ自ラ之ヲ行ヒタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ害蟲ノ名稱、方言、主ナル被害產物ノ種類、被害ノ狀況、驅除豫防ノ方法ニ關スル事項ヲ具スヘシ
- 附 則

本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(様式略ス)

●森林法施行細則

(明治四十二年五月十一日)
岐阜縣令第十九號

附則 明治四十二年六月縣令第二一號、大正一五年六月第四二號改正

第一條 森林法、森林法施行規則及本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ所轄支廳市町村長ヲ經由スヘシ但シ森林法第二十一條ノ意見書ハ支廳市町村長森林法施行規則第十條ニ依ル異動届ハ支廳長ノ經由ヲ要セス

支廳市町村長ニ於テ前項經由ノ書類ニ對シ意見アルトキハ之ニ副申スヘシ

第二條 市町村其ノ他公共團體組合ヨリ提出スル書類ニシテ其ノ會議ノ決議ヲ經ヘキモノハ其ノ決議錄謄本支廳長ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノナルトキハ其ノ許可書寫ヲ添附スヘシ

第三條 支廳市長ニ於テ森林法第九條、第十條第一項第二項、第十一條、第十三條、第三十三條、第八十一條、第七百七條ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ當廳ニ具申スヘシ

第四條 支廳市長ニ於テ保安林以外ノ森林ニシテ國土保安上開墾ヲ制限又ハ禁止スルノ必要ヲ認メタルトキハ第一號又ハ第二號様式ノ調書ヲ作成シ當廳ニ具申スヘシ

開墾制限又ハ禁止箇所ノ解除ヲ必要ト認メタルトキハ前項ノ手續ニ準シ具申スヘシ

第五條 町村長ニ於テ前二條ノ執行ヲ必要ト認メタルトキハ當廳ニ具申スルコトヲ得

支廳長ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シ當廳ニ進達スヘシ

第六條 森林法施行規則第一條ノ届書ハ其ノ届出事實ノ確定シタル日ヨリ十日以内ニ差出スヘシ

森林法施行規則第五十二條ニ依リ届出タル公有林社寺有林及前項ニ依リ取得ノ届出ヲ爲シタル森林ニシテ地番ノ分合アリタルトキ又ハ面積ニ異動ヲ生シタルトキ亦前項ニ準シ届出ヘシ

第七條 森林法施行規則第二條ノ管理區分書ハ明治四十二年八月三十一日マテニ差出スヘシ此ノ期限内ニ差出スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ期日ヲ定メ延期ノ許可ヲ受クヘシ

本則施行後新ニ取得シタル土地ニアリテハ取得ノ日ヨリ三箇月以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

一筆中管理區分ヲ異ニスルモノハ其ノ區域ヲ明示セル圖面ヲ添附スヘシ

森林法施行規則第二條第三項ニ依ル管理區分ノ變更認可申請書ニハ詳細ナル理由書ヲ添附スヘシ

第八條 森林法施行規則第三條ノ管理方法届書ハ左記各號ノ期限内ニ差出スヘシ

一 森林ニアリテハ明治四十二年十二月三十一日

二 本則施行後新ニ取得シタル森林ニアリテハ取得ノ日ヨリ六箇月以内

三 前條ニヨリ管理區分ノ認可ヲ受ケタルモノニアリテハ其ノ認可後三ヶ月以内管理方法ヲ變更シタルトキハ更ニ方法書ヲ作り三十日以内ニ差出スヘシ

第九條 公共團體又ハ社寺ノ所有ニ屬スル森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ森林法第九條ニ依リ施業案ノ編成又ハ施業要領ノ調製ヲ命スルコトアルヘシ

一 施業案ノ編成ハ面積五百町歩以上ニシテ森林ノ利用セラルル程度ニ至リタリト認メタルモノ

二 施業要領ノ調製ハ面積百町歩以上ニシテ施業案ヲ編成セシムル必要ナシト認メタルモノ

三 面積五百町歩又ハ百町歩ニ滿タスト雖其ノ生立樹種若ハ利用程度ノ關係上等ヨリ施業案ノ編成又ハ施業要領ノ調製ヲ必要ト認メタルモノ

第十條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ前條ノ命令ヲ受ケタルトキハ第三號様式ニ準シ施業案ヲ編成シ又ハ第四號様式ニ準シ施業要領ヲ調製シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ認可ヲ受ケタル施業案又ハ施業要領ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 前條ニ依リ認可ヲ受ケタル施業案、施業要領又ハ森林法施行規則第三條ニ依リ届出タル管理方法ニ依リ立木竹

ノ伐採ヲ爲サムトスルトキハ第五號様式ニ依リ著手一ヶ月前造林ヲ爲シタルトキハ第六號様式ニ依リ事業終了後一ヶ月以内ニ當廳ニ届出ヘシ

第十二條 公有林社寺有林又ハ私有林ニシテ森林法第十條第二項ニ依リ造林命令ヲ受ケタルモノ其ノ命令ニ依リ造林ヲ實行シタルトキハ前條ニ準シ届出ヘシ

第十三條 保安林ノ編入解除ヲ申請セントスル者ハ森林法施行規則第七條ノ規定ノ外其ノ土地ニ就キ登記シタル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ種類及權利者ノ住所氏名ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第十四條 森林法第十三條ニ依リ落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ヲ制限又ハ禁止スル場合及同法第二十五條ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止スル場合ハ縣公報ヲ以テ告示スヘシ

第十五條 森林法第二十六條ノ規定ニ依リ保安林ニ於テ作業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第十六條乃至第二十一條ノ規定ニ從ヒ第七號乃至第十號様式ニ依リ願出ヘシ但シ其ノ森林カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ所有者ノ連署ヲ要ス

第十六條 保安林ノ施業方法ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一 保安林ニ於テハ一箇所(保安林臺帳ノ一筆ヲ一箇所トス)毎ニ施業ヲ爲スヘシ但シ保安林ノ目的ヲ害セスト認ムルトキハ二箇所以上ヲ併合シテ一施業ヲ爲スコトヲ得

二 保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依ルヘシ但シ保安林ノ目的ヲ害セサル程度ニ於テ林種ノ改良其ノ他必要ナル目的ノ爲皆伐ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ面積廣大ナルトキハ之ヲ數個所ニ小分シテ伐採スヘシ

三 保安林一ヶ年間ノ伐採面積(伐採スヘキ立木ノ占領面積)ハ輪伐齡ヲ以テ立木地面積ヲ除シタル商以内トシ伐採區域ハ擇伐ニ在リテハ伐採面積ノ三倍以上ナルヲ要ス但シ保安林ノ目的ヲ害セス且施業上必要ナル場合ニ於テハ隔年作業トナスコトヲ得此ノ場合ニ於テハ喬木ハ五年以内矮木ハ三ヶ年以内トシ其ノ伐採面積ハ一ヶ年間ノ伐採面積ニ隔年ノ年數ヲ乘シタル積ヨリ大ナルヲ得ス

四 特別ニ指定セラレサル保安林ノ輪伐齡ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 喬木ハ三十年以上
一 矮木ハ十年以上
一 竹林ハ三年以上
一 中木ノ上木ハ三十年以上下木ハ十年以上

第十七條 保安林ニ於テ保育ノ爲伐除ヲ要スル木竹又ハ枯損木竹、危險木竹若ハ支障木竹ハ前條ノ制限又ハ施業方法ノ規定、木竹伐採ノ禁止ニ拘ラス伐採スルコトヲ得

第十八條 保安林ニ於テ切芝ノ採取ヲ爲ストキハ必ス水平採取シ其ノ幅チ一尺以内トシ幅二尺以上ノ間隔ヲ保タシムヘシ

第十九條 保安林ニシテ傾斜アル箇所及土砂崩壞ノ虞アル箇所ニ於テハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘スルコトヲ得ス

第二十條 保安林ニ於テ家畜ノ放牧ヲ爲サシムルトキハ放牧地區域外ニ逸出セサル様相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十一條 保安林ノ開墾ハ其ノ開墾ノ爲森林タルヲ失ハサルモノノ外之ヲ許可セス森林法第二十條ノ規定ニ依リ保安林編入ニ關シ告示シタル土地ノ開墾亦同シ

第二十二條 保安林ニ於テ作業ノ制限ヲ超過シ若ハ保護ノ施設ヲ怠リタルトキハ其ノ作業ヲ停止シ又ハ因テ生シタル傷害ニ對シ之カ復舊修理ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 森林法第十條第一項第十三條第二十七條ノ制限若ハ指定ヲ受ケタル場合又ハ同法第二十條第二十五條ノ場合ニ於テ作業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第十五條ノ手續ニ準シ願出ヘシ

第二十四條 森林法第三十二條ノ制限ヲ受ケタル森林ノ開墾ヲ爲サムトスル者ハ第十一號様式ノ願書ニ稅務署土地臺帳ノ謄本ヲ添ヘ願出ヘシ但シ其ノ森林カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ所有者ノ連署ヲ要ス

第二十五條 前條ニ依リ開墾ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ許可ノ日ヨリ滿十ヶ年以内ニ著手セサル部分ニ對シテハ許可ノ效力ヲ失フ

第二十六條 開墾許可後ニ於テ危害ノ虞アリト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ防備工ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ
前項ノ命令ニ關シ損害アルモ當廳ハ賠償ノ責ニ任セス

第二十七條 森林法施行規則第十條ニ依ル異動届ハ其ノ異動事實ノ確定シタル日ヨリ十日以内ニ差出スヘシ地番ノ分合アルモノハ圖書ノ添付ヲ要ス

森林法施行規則第四條及第四十七條ノ異動届亦前項ニ依ルヘシ
市町村長ニ於テ前二項ノ届書ヲ接受シタルトキハ其ノ届書ニ記載ノ事實及圖面ヲ所管ノ公簿ニ照合シ相違ナキヲ認メタル上照査濟ノ旨ヲ朱記認印シテ進達スヘシ

第二十八條 森林法施行規則第十條第二項ノ變更ヲ證スル書面ハ登記濟ノ證書、登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ以テスヘシ
第二十九條 森林法第四十條ノ土地使用又ハ同法第五十八條ノ工作物ノ使用、變更、除却ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ森林法施行規則第二十條第二十一條第二十七條ノ規定ニ依ルノ外申請書ニ添付スヘキ事業計畫書及圖面ハ左ニ記載シタル事項ヲ具シ調製スヘシ

事業計畫書
一 搬出スヘキ物件ノ所在地
二 搬出スヘキ物件ノ種類、數量
三 搬出セムトスル場所
四 搬出ノ方法設備
五 其ノ他土地水流ノ使用ニ關スル重要ノ事項
圖面

使用箇所及其ノ附近ノ地形字地番方位ヲ記シ且ツ必要ノ説明ヲ附スヘシ

第三十條 森林法第四十七條ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ其ノ事業ノ細目ヲ記載シタル設計書ヲ添付シ申請スヘシ

前項ノ設計書ニハ變更セムトスル土地ノ種目、坪數、工作物ノ種類、坪數、附加増置セムトスル物件ノ種類、員數及其ノ設計方法ヲ具シ且必要ニ應ジ圖面ヲ添付スヘシ

第三十一條 森林法第六十一條第一項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ
一 立入ルヘキ土地又ハ目標設置者ハ支障木竹ノ伐採ヲ爲サムトスル土地ノ所在、字、地番、地目、所有者及其ノ他ノ權利者ノ住所、氏名
二 目標ノ種類及設置方法又ハ伐採スヘキ木竹ノ種類、數量
三 時間及期間
四 目的

第三十二條 森林法第六十四條ニ依リ森林組合設立ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ森林法施行規則第三十五條ノ規定ニ依ルノ外左記各號ノ調書ヲ添付スヘシ
一 組合設置後ニ生スヘキ利益
二 組合事業ト組合ニ加入セサル森林トノ關係

第三十三條 森林組合ニ於テ毎年實行シタル事業及其ノ成績ハ年度經過後一ヶ月以内ニ當廳ニ報告スヘシ
第三十四條 森林組合ニ於テ定款ノ規程ニ依リ會議ヲ開カムトスルトキハ五日前ニ其ノ日時及會議ノ目的事項ヲ會議ヲ了シタルトキハ議決又ハ執行セシ顛末ヲ當廳ニ届出ヘシ

第三十五條 森林組合ニ於テ定款ノ規定ニ依リ違約處分ヲ爲シタルトキハ違約者ノ氏名違約事項及處分ノ結果ヲ當廳ニ届出ヘシ
第三十六條 保安林又ハ開墾禁止區域ニ於テハ火入ヲ爲スコトヲ得ス但シ權樹ノ爲柴草等ヲ燒却スル場合ハ此ノ限ニ在ラ

ス
森林火入ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十七條 森林ニ害蟲發生シ又ハ蔓延ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ所轄市町村長若ハ警察官署ニ申告スヘシ
 蟲類以外ノ動物及微菌ノ害ニ付テモ亦同シ

第三十八條 支廳市町村長ニ於テ前條ノ諸害ヲ發見シタルトキ又ハ其ノ申告ヲ受ケタルトキハ直ニ應急驅除豫防ノ方法ヲ講シ一面左ノ事項ヲ調査シ支廳市町村長ハ當廳ニ報告スヘシ但シ支廳管轄區域内ノ町村長ハ支廳長ニ報告スヘシ

一 被害地又ハ害蟲蔓延ノ虞アル土地ノ所在、地番、地目、面積

二 害蟲名又ハ蟲類以外ノ動物名若ハ微菌名

三 被害ノ樹種及狀況

四 被害發生ノ月日又ハ發見ノ月日

五 驅除及豫防ニ對スル措置ヲ爲シタルトキハ其ノ方法及效果

六 被害ノ原因其ノ他被害ノ詳況ヲ知ルニ足ルヘキ事項

第三十九條 野火ノ延燒若ハ土砂崩壞ノ虞アル森林ハ所有者ニ於テ適當ナル火防若ハ砂防ノ設備ヲ爲スヘシ

第四十條 第十五條、第二十三條、第二十四條ノ許可願ハ左ノ期限ニ依ルヘシ但シ第二十三條中森林法第二十條及第二十五條ニ關スルモハ此限ニ在ラス

作業著手時期

願書提出期

一月以降ニ著手セムトスル者 前年十月三十一日

四月以降ニ著手セムトスル者 一月三十一日

七月以降ニ著手セムトスル者 四月三十日

十月以降ニ著手セムトスル者 七月三十一日

第四十一條 第十一條中木竹ノ伐採届出ニ關スル規定及第十五條第二十三條ノ規定ハ明治三十二年(六月)岐阜縣令第四十六號砂防法ニ依ル指定地作業取締規程ニ依リ當廳ノ許可ヲ受クヘキモノナルトキハ之ヲ適用セス但シ保安林ニ關シテハ

第十六條乃至第二十二條ノ規定、森林法第十條第一項第十三條第二十七條ノ制限若ハ指定ヲ受ケタルモノハ其ノ制限又ハ指定ニ依ルコトヲ要ス

第四十二條 森林法第三十二條ノ制限ニシテ當廳ノ許可ヲ要スル森林ニ於テ道路溝渠ノ開鑿、溜地ノ築設、學校、傳染病隔離病舎ノ建設及墓地、火葬場ノ設置又ハ砂防法第二條ニ依ル指定地内ノ開鑿等ノ如キ別段ノ規定ニ依リ出願ヲ要スルモノハ第二十四條ノ出願ヲ要セス

附則

第四十三條 公有林又ハ社寺有林ニシテ本則施行ノ際現ニ貸付、地上權又ハ使用收益權ノ設定、質入及入會ノ慣行アルモノハ其ノ契約書ノ謄本又ハ慣行ヲ詳記シ本則施行後三ヶ月以内ニ代表者ヨリ當廳ニ届出ヘシ

第四十四條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第四十五條 明治三十五年(三月)岐阜縣令第十一號森林開鑿ニ關スル規程、明治三十五年(三月)岐阜縣令第十二號保安林施業規程、明治三十五年(三月)岐阜縣令第十三號保安林編入解除ニ關スル規程ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○第一號様式 (用紙半紙)

森林開鑿制限(禁止)調書

(一) 開鑿制限(禁止)ヲ要スル區域(字以上ノ區域ヲ以テ制限禁止ノ場合)

國	郡	町村	大字	字	備	考
同	同	同	同	同		
同	同	同	同	同		
同	同	同	同	同		
同	同	同	同	同		

(二) 開墾制限(禁止)ヲ要スル事由
 前記ノ土地ハ何々川ノ四方ニ連亘スル一帯ノ區域ニシテ地盤ノ傾斜十五度乃至二十度ナルモ其ノ上層ハ最モ結合カニ乏シキ土壤ニシテ極メテ薄ク其ノ下層ハ總テ粘土板岩ヨリ成ル然ルニ該區域内ニ於ケル燒畑施行ノ實況ヲ見ルニ音ニ耕作上ノ收利尠ナキノミナラス山腹開墾ノ結果トシテ降雨アル毎ニ多量ノ土砂ヲ流出シ甚シキハ上層ト下層トノ結合ヲ破リテ處々地滑ヲ生シ何々河ノ治水ノ影響ヲ生スルコト尠カラサルニ依リ之カ開墾ノ制限(禁止)ヲ爲ス必要アルニ由ル

(三) 制限事項

- 一 開墾ヲナサムトスルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコト
- 二 何々々

○第二號様式 (用紙半紙)

森林開墾制限(禁止)調書

(一) 開墾制限(禁止)ヲ要スル箇所(一箇所毎ニ制限禁止ノ場合)

國	郡	町村	大字	字	地番	地目	面積	積	所有者姓名
同	同	同	同	同	一	山林	一五、〇〇〇〇	〇	國郡(市)町村 何々某(何々森林組合地區内)
同	同	同	同	同	二	同	一〇、〇〇〇〇	〇	同
同	同	同	同	同	三	原野	一〇、〇〇〇〇	〇	同
同	同	同	同	同	四	燒畑	一〇、〇〇〇〇	〇	同

(二) 開墾制限(禁止)ヲ要スル事項

一 何々、、、、、

(三) 制限ヲ要スル事項

一 何々、、、、、

注意

森林組合地區内ノ森林ナルトキハ其ノ旨ヲ所有者欄ニ附記スヘシ

●御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ニ對シ

森林法適用ノ件

(明治四十年十二月二十六日) 農商務省令第二十二號

御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ハ森林法第二十八條ニ依ル損害補償請求ノ場合ニ於テ造林者ノ有スル分收權ノ部分ニ限り私有林ニ關スル規定ヲ適用スルノ外其ノ地籍御料ニ屬スルトキハ御料林ニ關スル規定ヲ適用シ其ノ地籍國ニ屬スルトキハ國有林ニ關スル規定ヲ適用ス

本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●森林法違反事件取扱方ノ件

(明治三十一年三月二十九日) 岐阜地方裁判所檢事局訓第四號

森林法違反事件ニ付キ司法警察處分ヲ行フトキハ森林ノ種類及賦額若クハ伐採シタル木材ノ價額ヲ證スヘキ書類ヲ添付スヘシ

●御料林ヨリ伐出スル木材ニ附スル切判形式

(大正二年四月八日) 宮内省告示第三號

帝室林野管理局ニ於テ御料林ヨリ伐出スル木材ニ附スル切判ノ形式ハ左ノ如シ
但シ下部ノ切判（伐木年度ヲ識別スルモ）ハ十年毎ニ同歸シテ之ヲ使用シ又上部ノ切判（御料林タルコトヲ識別スル爲附スルモ）ノ直下ニ別ニ伐木地ヲ識別スル爲適宜ノ切判ヲ加フ

ク	ニ	大正二年度
ク	V	大正三年度
ク	ト	大正四年度
ク	X	大正五年度
ク	T	大正六年度
ケ	<	大正七年度
ク	+	大正八年度
ク	^	大正九年度
ク	+	大正十年度
ク	⊥	大正十一年度

帝室林野管理局名古屋支局下呂出張所部内御料林ヨリ大正四年度以降官行事業ヲ以テ伐出スル木材ニハ大正二年四月宮内省告示第三號ニ依リ伐出地識別ノ爲左ノ切判ヲ加刻スル旨通知アリタリ
切判 「ケ」

（大正四年三月十日
岐阜縣告示第五十五號）

（明治二十四年六月
岐阜縣令第三十六號）

●民有山地作業取締規則

附節 大正元年一二年縣令第二二號、一五年第四三號改正

- 第一條 木曾川又ハ庄川流域ニ屬スル公有社寺有若ハ私有ノ山地ニ於テ作業ヲ爲サントスルモノハ別紙様式ニ依リ作業地所轄支廳市町村長ヲ經由シ當廳ノ承諾ヲ受クヘシ但シ森林カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ所有者ノ連署ヲ要ス
- 第二條 原野其他地目ノ何タルヲ問ハス其實山地ナルモノハ渾テ此規則ニ依ルヘシ
- 第三條 山地作業トハ樹木ノ皆伐拔伐小柴ノ刈取根株ノ掘取岩石土砂ノ掘取切出其地均シ掘割等渾テ立木地盤ノ現況ヲ變セシムルノ事業ヲ謂フ
- 第四條 土石ノ掘取又ハ切出ノ承認願ニハ其作業地ヨリ河川ニ至ル距離ヲ記シタル明細圖ヲ添付スヘシ
- 第五條 （削除）
- 第六條 本則第一條ニ依リ承認ヲ經タル後ト雖モ水利上障害アルコトヲ發見シタル時ハ其作業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第七條 本則第一條ノ承認ヲ受ケスシテ作業ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

〇(様式)

何川流域山作業地願		大字何地内		作業面積		作業種類		作業期間		願人氏名	
字地番	地目	全面積	作業面積	伐木	皆伐(拔伐)	大正何年何月	大正何年何月迄	何	何	何	何
何 一	山林	二町〇〇〇〇	五〇〇〇	柴刈		大正何年何月	大正何年何月迄	同	同	何	某
何 五	同	五〇〇〇〇	二〇〇〇	柴刈		大正何年何月	大正何年何月迄	同	同	何	某
何 一〇	同	三〇〇〇	〇五〇〇	岩石掘取		大正何年何月	大正何年何月迄	同	同	何	某
何 一〇〇	原野	二〇〇〇	〇三〇〇	岩石切出		同	同	同	同	何	同
何 二〇〇	同	四〇〇〇	〇一〇〇	土砂掘取		同	同	同	同	何	同
何 五〇〇	山林	〇八〇〇	〇八〇〇	地均シ		大正何年何月	大正何年何月迄	何	何	何	某
何 一五〇〇	同	一〇〇〇	一〇〇〇	樹根掘取		同	同	何	何	何	某
何 二七〇〇	同	〇五〇〇	〇五〇〇	掘割		同	同	何	何	何	某

右ノ通作業致度ニ付御承認相成度候也

年 月 日

何市郡何町大字何

某印

同

某印

岐阜縣知事宛

前書ノ通相違無之候也

年 月 日

何市郡何町長 何

某印

(注意)

- 一 作業地同一市町村内ナルトキハ數人分チ一通ニ作成スルモ妨ケナシ
- 二 伐木ノ場合ハ皆伐ナルヤ拔伐ナルヤ作業種類欄ノ左傍ニ附記スヘシ

●森林産物取締規程

(明治四十五年七月一日 岐阜縣令第三十號)

- 第一條 伐木、造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ其ノ森林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ作業地及營業地所轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ變更又ハ使用ヲ廢止シタルトキ亦同シ
- 前項ノ記號又ハ印章ハ森林産物搬出前之ヲ使用スヘシ
- 第二條 他人ノ使用ニ係ル記號、印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第三條 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ森林産物ノ運搬ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第四條 第一條ニ規定シタル營業者ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ森林産物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載スヘシ
- 前項ノ帳簿ハ所轄警察官署ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス

第三編 保安 第六章 産業 第四款 森林

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
舊森林法ノ規定ニ依リ届出タル記號又ハ印章ニシテ本令施行後引續使用セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ作
業地及營業地所轄警察官署ニ其ノ旨届出ヘシ

●森林產物取締規程第一條第一項ノ規定ニ依ル通知ノ件

(明治四十五年七月一日)
岐阜縣訓令甲第四十七號

本年(七月)岐阜縣令第三十號森林產物取締規程第一條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シタルトキハ之ヲ所轄區域内又ハ其
ノ附近ニ在ル小林區署又ハ帝室林野管理局支廳出張所ニ通知スヘシ

●野火取締規則

(明治三十八年五月十日)
岐阜縣令第十九號

- 第一條 山林原野ニ於テ炭燒、灰燒、寄燒其ノ他ノ作業ヲ爲サントスルトキハ火災豫防ノ方法ヲ定メ著手前最寄警察署官
吏ニ口頭又ハ書面ヲ以テ届出ツヘシ
- 第二條 山林原野ニ於テ瀝リニ焚火ヲ爲スヘカラス必要アリテ一時焚火ヲ爲サントスルトキハ他ニ延燒ヲ豫防スヘキ設備
ヲ爲スヘシ
- 第三條 第一條ノ作業人又ハ第二條ノ焚火ヲ爲シタル者ハ火氣ノ全ク熄滅ヲ認メタル後ニアラサレハ其ノ場ヲ去ルヘカラ
ス
- 第四條 山林原野及其ノ接壤地ニ於テ火氣ノ殘留スル吸殻又ハ摺附木等ヲ投棄スヘカラス
- 第五條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●野火取締規則執行心得

(明治三十八年五月十日)
指示警第二三〇號

- 第一 規則第一條ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ必要アルモノハ實地ヲ臨檢シ然ラサルモノハ火災豫防ノ方法ヲ懇篤指示シ
置クヘシ
- 第二 規則第一條ノ他ノ作業トアルハ火防ノ必要アル作業ヲ指シタルモノナレハ單ニ作業所ニ於テ焚火ヲ爲ス如キハ
規則第二條ヲ適用シ第一條ニ依リ届出ヲ爲サシムルニ及ハス
- 第三 規則第一條及第二條ノ延燒ヲ豫防スル設備ノ地勢、地質等ニ依リ一様ナラスト雖モ凡ソ周圍三尺以上ノ燃質物ヲ取
除カシムルヲ要ス
- 第四 規則發布以前ヨリ引續キ作業中ノ者ニ對シテハ其ノ市町村長ト協議シ速カニ火災豫防ノ設備ヲ爲サシメ結果ヲ口頭
又ハ書面ニテ届出シムルノ措置ヲ爲シ違反者ナカラシメンコトヲ努ムヘシ
- 第五 焚火其ノ他ノ取締ニ就テハ便宜ノ際講話ヲ爲シ又ハ要所ニ揭示シ又ハ學校教員ヲシテ兒童ヲ訓戒セシムル等ノ措置
ヲ施シ一般人民ヲシテ規則ノ趣旨ヲ周知セシムルコトヲ計ルヘシ

●山林原野火入取締規程

(明治四十四年八月二十六日)
岐阜縣令第二十七號

- 附則 大正元年一二月縣令第二三號改正
- 第一條 森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於ケル火入ハ左記各號ノ一二該當スル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 造林準備ノ爲ナルトキ
 - 二 防火線ノ設備又ハ手入ノ爲ナルトキ
 - 三 病蟲害驅除ノ爲ナルトキ
 - 四 開墾準備ノ爲ナルトキ

- 五 燒畑ノ爲ナルトキ
- 六 廠根採取ノ爲ナルトキ
- 前項第五號第六號ノ場合ニ於テハ特別ノ事由アルニ非サレハ之ヲ許可セス
- 第二條 森林法施行規則第四十三條第一項ノ規定ニ依リ警察官吏ニ火入許可ノ申請ヲ爲サントスル者ハ第一號様式ノ申請書ニ第二號様式ノ圖面ヲ添附シ其ノ土地所轄警察官署ニ之ヲ差出スヘシ
- 第三條 森林官吏ノ許可ヲ受ケ火入ヲ爲サムトスル者ハ火入ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ其ノ土地所轄警察官署ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第四條 森林法第七十九條ノ規定ニ依ル通知ハ火入ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ
- 第五條 火入ヲ爲サムトスル土地ノ四至境界ニハ防火線ヲ設クヘシ但シ道路河川溪谷等ヲ以テ境界シ延燒ノ虞ナキ地ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 第六條 防火線ハ幅三間以上トシ柴草ヲ刈除シ落葉塵芥ヲ除去スル等延燒其ノ他危害ヲ防止スルニ足ルヘキ設備ヲ爲スヘシ
- 第七條 火入時間ハ日ノ出ヨリ午後十二時迄トス但シ強風ノ日ハ火入ヲ爲スコトヲ得ス火入中風勢不穩ノ兆ヲ來シタルトキハ直ニ消止ムヘシ
- 第八條 火入中ハ其ノ區域内ニ相當ノ人夫ヲ配置シ延燒ノ豫防ヲ爲スヘシ
- 附則
- 第九條 本規定ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 第十條 明治三十二年八月岐阜縣令第六十五號山林原野火入取締規則ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

○第一號様式

山林原野火入許可申請

別記ノ通火入致度候ニ付許可相成度此段申請候也

年 月 日

何(市)郡 何(町)村 願人 氏

年 名 印 齡

警察署(分署)長宛

火 入 地	何(市)郡 何(町)村 大字何字何何番山林(原野)
火入箇所面積	何段何畝歩
土地所有者	何(市)郡 何(町)村 大字何何某
林種區別	普通林(保安林)
火入ノ目的	杉、檜又ハ何々植栽ノ爲(何々)
火入ノ期間	自何年何月何日至何月何日
防火線設備ノ方法	東及北ノ二方ニ幅何間通柴草ヲ刈除シ塵芥等ヲ除去ス(何々)
人夫ノ員數	何 人

○第二號様式



●森林原野火入ニ付〔御料局〕支廳所管出張所へ通報ノ件

(明治三十一年十一月)
指示第二四號

森林法(第三十一條)ノ届出ヲ受ケ又ハ同法施行細則(第十一條)及(明治二十七年)縣令(第四十二號)山野火入取締規則第一條第二條等ニヨリ森林原野火入ノ許可又ハ認可ヲ與ヘ又ハ届出ヲ受領シタル場合ニ於テ其箇所御料地接近ノ地アルトキハ直ニ其旨〔御料局〕支廳所管出張所へ通報セラルヘシ

●森林内ニ於テ樹木燒棄ニ關スル件

(明治三十七年五月)
指示保第四號

森林内ニ於テ作業ノ許可ヲ得テ樹木ヲ伐採シ之チ一箇所ニ集メ燒毀センコトヲ(俗ニ寄セ燒)出願シタルトキハ六課ニ照會ヲ要セス其界限認許シ他ニ延燒スル如キコト無之様相當取締アルヘシ

●林野火災防備ニ關スル件

(明治三十七年十二月二十八日)
岐阜縣訓令第五十三號

林野火入ニ就テハ(明治三十二年)八本縣令第六十五號)山林原野火入取締規則ニ依リ相當取締ヲ爲スハ勿論ナルモ尙本日告諭第五號ヲ發シタルニ付一層該規則ヲ勵行スルト同時ニ野火ノ取締ニ注意シ且左記事項ノ實行ニ努メ以テ災害ヲ未然ニ防止スヘシ

- 一 警察官ハ都市町村吏員ト協力シテ火入及野火ノ取締ヲ勵行スルコト
- 一 被害ノ虞アル町村ニハ林野消防方法ヲ設ケシムルコト
- 一 造林地ニハ必防火線ノ設備ヲ完全ナラシムルコト
- 一 造林地ノ手入れ刈拂ヲ實行セシムルコト
- 一 天然更新ヲナシ得ヘキ山野ニ火入禁止ヲ勸誘スルコト

一、大正...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

● 林裡火災...
● 森林内ニ...

● 森林内ニ...

● 森林火災...
● 森林内ニ...

第五款

● 礦業法 (抄録)

(明治三十八年三月八日
法律第四十五號)

附則 明治四〇年四月法第四一號、四三年三月第一〇號、四四年三月第九號、昭和二年第三六號改正

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内並要塞地帯第一區内ノ場所ハ之ヲ礦區ト爲スコトヲ得ス
陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内並要塞地帯第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ礦區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ礦業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ礦業ヲ爲スコトヲ得ス但所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十四條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ探掘權者ハ施業案ニ依ルニ非ハレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得
前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

第四十六條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及礦業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第五十三條 前條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ礦山監督署長ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得
前項ノ許可ヲ得タル者障礙物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ
第七十二條 礦業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ農商務大臣ハ礦業權者ニ其ノ豫防又ハ礦業
ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ礦山監督署長ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 農商務大臣ハ探掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 礦業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及礦山監督署長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ礦業權ヲ有セ
シ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ礦業權者ト看做ス

第五章 礦夫

第七十五條 探掘權者ハ礦夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ礦山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 礦業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ礦夫名簿ヲ礦業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 礦業權者礦夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由
ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條 礦業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ礦夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ礦夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 礦業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ礦夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺
族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第九十四條 礦業權者有セスシテ礦物ヲ掘採シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ礦業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ〔重禁錮〕又ハ

千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ礦區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル礦物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者
ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ
從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓
以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ礦業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アル
モノハ刑法ニ依ル

第四百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百一條 詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ礦業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脱稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第四百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第四百三條 礦業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ礦業權者ニ適用ス
ヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ礦業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四百四條 礦業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキ
ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第四百五條 前條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス
第四百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

鑛業警察規則

(大正五年八月三日
農商務省令第二十二號)

- 第一條 採掘權者技術管理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ
技術管理者ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ
- 第二條 鑛務署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ採掘權者ニ技術管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 左ノ資格ヲ有スル者ニ非サレハ技術管理者タルコトヲ得ス
 - 一 帝國大學ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
 - 二 實業專門學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ一箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者
 - 三 工業學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ三箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者
 - 四 前各號ノ一ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者又ハ七箇年以上鑛業ノ技術ニ關スル實務ニ從事シタル者
- 第四條 技術管理者ハ鑛業ノ技術ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス
- 第五條 採掘權者二人以上ノ技術管理者ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ區別シ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ
- 第六條 技術管理者ハ鑛務署長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ鑛山ノ技術管理者ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 第七條 採掘權者ハ技術管理者旅行其ノ他ノ事故ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ第三條ノ資格ヲ有スル特定ノ代理者ヲシテ技術管理者ノ爲スヘキ一切ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ代理者ヲシテ職務ヲ行ハシメタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ
- 第八條 鑛業權者本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

前項ノ係員ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第九條 鑛務署長ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ヲ選任、解任又ハ其ノ増員ヲ命スルコトヲ得

第十條 本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ハ左ノ資格ヲ有スル二十歳以上ノ者ヨリ之ヲ選任スヘシ

- 一 帝國大學又ハ實業專門學校ニ於テ擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
- 二 工業學校、徒弟學校、實業補習學校又ハ實業學校ニ類スル各種學校ニ於テ一箇年以上擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ一箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者
- 三 中學校ヲ卒業シ二箇年以上擔任ノ作業ニ從事シタル者
- 四 尋常小學校ヲ卒業シ三箇年以上擔任ノ作業ニ從事シタル者
- 五 前各號ノ一ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者

第十一條 採掘權者ハ保安係員ヲ置キ坑内ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ
鑛務署長必要ト認ムルトキハ試掘權者ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十二條 保安係員ハ毎日一回以上鑛夫ノ就業場所及通行場所並危險ノ虞アル場所ヲ巡視シ危險ノ有無ヲ検査スヘシ但シ瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ鑛夫入坑時前ニ之ヲ爲スヘシ

保安係員ハ保安日誌ヲ作り巡視ノ都度各場所ニ於ケル狀況及危害豫防ニ付爲シタル處置ヲ記入スヘシ

第十三條 保安係員危險又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ作業ノ中止、通行ノ遮斷其ノ他適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ鑛業權者又ハ技術管理者ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ作業ヲ中止シ又ハ通行ヲ遮斷シタル場合ニ於テハ鑛業權者又ハ技術管理者ハ検査ヲ爲シ危險ナシト認メタル後ニ非サレハ再ヒ作業ヲ開始セシメ又ハ遮斷ヲ解クコトヲ得ス但シ危害豫防ノ爲己ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 鑛業權者ハ機械係員ヲ置キ汽罐、汽機、主要扇風機、捲揚裝置其ノ他特別ノ注意ヲ要スル機械及其ノ附屬裝置ヲ管守セシムヘシ

機械係員ハ毎日一回以上前項ノ機械及裝置ヲ監視シ異常アリト認メタルトキハ適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ續業權者又ハ技術管理者ニ報告スヘシ

機械係員ハ機械日誌ヲ作り監視ノ狀況、危害豫防ニ付爲シタル處置、機械ノ修理及休止其ノ他重要ナル事項ヲ記入スヘシ

第十五條 同時ニ五十人以上ノ續夫ヲ入坑セシムル坑内ニ於テハ其ノ奥部ニ於テ連絡シ何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シ各坑口間適當ナル距離ヲ有スル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ

礦務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ同時ニ五十人未滿ノ續夫ヲ入坑セシムル坑内ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十六條 坑道ノ掘進其ノ他掘鑿ヲ爲ス場合ニ於テ多量ノ水又ハ有害瓦斯ノ噴出ニ因リ危害發生ノ虞アルトキハ先進鑽孔ノ穿鑿其ノ他適當ナル處置ヲ爲スヘシ

第十七條 鑿坑ヲ開鑿スル場合ニ於テハ土石其ノ他ノ墜落ニ因ル危害ヲ豫防スル爲適當ナル處置ヲ爲スヘシ

第十八條 落盤ノ虞アル場所ニ於テハ危害豫防ノ爲適當ナル支柱其ノ他ノ設備ヲ爲スヘシ

探炭中支柱ヲ要スル石炭坑ニ於テハ支柱方法ヲ定メ續夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

第十九條 探鑿又ハ掘進中特ニ落盤ノ虞アル場所ニ於テハ支柱材其ノ他坑内支持ニ必要ナル材料ヲ作業上便宜ノ場所ニ豫メ配置スヘシ

第二十條 鑿坑、坑井又ハ四十度以上ノ斜坑ノ坑口及其ノ坑道ト交叉スル箇所ニハ墜落豫防ノ爲蓋、柵圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十一條 坑内ニハ衛生及危害豫防ノ爲必要ナル分量ノ空氣ヲ給送スヘシ

第二十二條 石炭坑内ニ於テ新ニ瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ遲滯ナク之ヲ礦務署長ニ届出ツヘシ

第二十三條 同時ニ五十人以上ノ續夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ於テハ氣壓計及寒暖計ヲ坑口附近適當ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ毎日一回以上其ノ示度ハ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十四條 前條ノ石炭坑ニ於テハ氣流ノ通路及方向、通氣裝置並通氣觀測點ノ位置ヲ坑内實測圖又ハ坑内通氣圖ニ記入スヘシ

第二十五條 第二十三條ノ石炭坑ニ於テハ保安係員ハ毎月一回以上測風器及安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ通氣量ノ測定及瓦斯ノ檢査ヲ爲スヘシ通氣ニ異常アリト認メタルトキハ其ノ都度之ヲ爲スヘシ

保安係員ハ前項ノ測定及檢査ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十六條 礦務署長必要ト認ムルトキハ同時ニ五十人未滿ノ續夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ前二條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十七條 瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ保安係員ハ毎日一回以上安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ其ノ分量ヲ檢定シ其ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十八條 前條ノ石炭坑ニ於テ扇風機ニ依リ坑内部ニ互ル通氣ヲ爲ス場合ニハ水壓計ヲ坑内適當ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ毎日一回以上其ノ觀測ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十九條 鑿坑及坑井ニ架設スル梯子道ニシテ常時通行ニ供スルモノハ傾斜八十度以内ト爲シ少クトモ三十尺毎ニ踏棚ヲ設ケ梯子ノ上端ハ二尺以上之ヲ突出セシメ又ハ之ニ代ルヘキ適當ナル設備ヲ爲スヘシ但シ深百尺以内ノ鑿坑又ハ坑井ニ架設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ梯子ト坑壁トノ間ニ相當ノ間隔ヲ置クヘシ

第三十條 捲揚裝置ニ依リ人ヲ昇降セシムル鑿坑ニハ何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル他ノ坑口ヲ有スル場合ノ外梯子道ヲ架設スヘシ

第三十一條 捲揚裝置ヲ設ケル鑿坑ニ於テ常時通行ニ供スル梯子道ヲ架設スルトキハ其ノ間ニ板仕切其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第三十二條 人ヲ昇降セシムル墜坑捲揚裝置ニハ制動機及深度指示器ヲ備ヘ此捲揚超過ヨリ生スル危害豫防ノ設備ヲ爲シ其ノ捲揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ捲揚臺ヲ支持スル捲網及附屬金具ハ少クとも最大荷重ノ十倍ニ耐ユルモノヲ用ウヘシ
繼合セタル捲網ハ人ヲ昇降セシムル捲揚臺ノ支持ニ用ウルコトヲ得ス

第三十三條 自動車道又ハ捲揚車道ニ使用スル車輛ニハ常該係員又ハ係夫ノ外乘車スルコトヲ得ス但シ前條ノ規定ニ準シ施設ヲ爲スノ外特ニ適當ナル危害豫防ノ方法ヲ設ケ礦務署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 自動車道又ハ捲揚車道ニ依リ車輛ヲ運轉スル場合ニ於テハ逸走豫防ノ爲適當ナル裝置ヲ爲スヘシ

第三十五條 自動車道又ハ捲揚車道ニ敷設スル坑道ヲ通行ニ供スル場合ニ於テハ軌道ノ傍側ニ步道又ハ白色ノ標示ヲ爲シタル回避所ヲ設クヘシ

前項ノ場合ニ於テ礦務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ步道又ハ專用通行坑道ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第三十六條 主要通行坑道ノ分岐點其ノ他必要ナル箇所ニハ其ノ名稱ヲ揭示シ出口ノ方向ヲ指示スヘシ

第三十七條 捲揚用ノ墜坑及坑井並坑内ノ自動車道及捲揚車道ニハ信號裝置ヲ設クヘシ但シ人聲ヲ以テ合圖ヲ爲シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 礦務署長必要ト認ムルトキハ坑ノ内外及坑内主要箇所間ニ電話其ノ他ノ通信裝置ヲ設ケシムルコトヲ得

第三十九條 石炭坑内ニ於テ瓦斯存在ノ虞アル場所ニ在リテハ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス
瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ運搬又ハ通氣ノ關係上同一區域ト認メ得ヘキ區域全部ニ互リ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス火番所又ハ特ニ礦務署長ノ許可ヲ受ケタル區域ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 瓦斯ノ存在スル石炭坑内ニ於テハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ス但シ礦業權者ノ特ニ設ケタル喫煙所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ石炭坑内ニ於テハ當該係員ノ指揮ニ依ル場合ノ外發火具、喫煙具及煙草ヲ携帯スルコトヲ得ス

第四十一條 石油坑口又ハ貯油場ノ周圍五間以内ニ於テハ發火具、裸火其ノ他危險ナル燈火ヲ使用シ又ハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ス製油場又ハ可燃質瓦斯ノ精製場ニ於ケル油類又ハ可燃質瓦斯ノ貯藏又ハ取扱ヲ爲ス場所ノ周圍五間以内亦同シ

第四十二條 安全燈ノ使用ヲ必要トスル石炭坑ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 安全燈係員ヲ置キ安全燈ノ授受、検査及掃除ヲ爲サシムヘシ
- 二 安全燈室ハ採光ニ注意シ成ルヘク不燃質ノ物ヲ以テ建築スヘシ
- 三 坑内ニ於テ使用中ノ安全燈毀損シ若ハ故障ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ交換シ又ハ一定ノ場所ニ於テ點火スル爲適當ナル方法ヲ設クヘシ

第四十三條 前條ノ石炭坑ニ於テハ安全燈係員ハ安全燈ノ解體及掃除ヲ爲シ金網、硝子、燈芯、油壺、油量、鎖鑰、各接合部其他必要ナル部分ヲ検査シ完全ト認メタル後ニ非サレハ之ヲ鑛夫ニ交付スルコトヲ得ス

第四十四條 第四十二條ノ石炭坑ニ於テハ鑛夫ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 安全燈ヲ開キ又ハ之ヲ閉クニ用ウヘキ器具ヲ携帯スルコトヲ得ス
 - 二 安全燈ハ天井ニ接近シ又ハ顛倒若ハ破壊ノ虞アル箇所ニ之ヲ置クコトヲ得ス
 - 三 安全燈ハ濫ニ之ヲ振動シ又ハ傾斜セシムルコトヲ得ス
 - 四 安全燈ハ點火シタル儘之ヲ坑内ニ置去ルコトヲ得ス
 - 五 安全燈ノ火焰ハ濫ニ之ヲ伸大スルコトヲ得ス
 - 六 安全燈ノ火焰伸大シ消火ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ放棄シ又ハ吹消スコトヲ得ス
 - 七 安全燈ノ毀損又ハ故障ヲ發見シタル場合ニ於テハ遲滞ナク消火シ當該係員ノ指揮ヲ受クヘシ
- 安全燈ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ掲クル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ニシテ之ヲ遵守セシムヘシ
- 第四十五條 坑内ニ於テハ燈火用トシテ石油其ノ他揮發性燈油及魚油ヲ使用スルコトヲ得ス但シ特種ノ安全燈ニ使用シ又

ハ他ノ油ニ混シテ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 爆發藥ノ裝填用込物ハ鑛業權者之ヲ鑛夫ニ給與スヘシ

前項ノ込物ハ粘土其ノ他發火ヲ誘起スルノ虞ナキ物ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十七條 爆發藥ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 「ダイナマイト」其ノ他「ナイトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火若ハ汽罐ニ近ケ又ハ直接蒸汽ト接觸セシムル等危險ナル方法ヲ以テ融解スルコトヲ得ス

二 裝填ハ鐵製込棒ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ「ナイトログリセリン」爆發藥又ハ棉火藥ノ裝填ニ込棒ヲ使用スル場合ニ於テハ木製ノモノニ限ル

三 點火ハ豫メ附近ノ鑛夫ニ警告シ安全ト認メタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

四 點火後爆發セサルトキハ少クトモ十五分間ハ其ノ場所ニ近寄ルコトヲ得ス

五 不發ノ裝藥及其ノ込物ハ鑛夫之ヲ掘出スコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受クヘシ

爆發藥ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ掲クル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

第四十八條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ石炭坑ニ對シ發破係員ノ選任ヲ命スルコトヲ得

前項ノ石炭坑ニ於テ發破ヲ行フ場合ニハ點火前發破係員ヲシテ點檢ヲ爲サシムヘシ

第四十九條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ一定種類ノ爆發藥、雷管、導火線及電氣點火器ノ坑内ニ於ケル使用ヲ禁止スルトコトヲ得

トコヲ得

第五十條 不用ニ歸シタル堅坑及四十度以上ノ斜坑ノ坑口ハ之ヲ閉塞シ又ハ堅牢ナル柵圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第五十一條 不用ニ歸シタル坑道又ハ坑内採掘跡ニハ通行遮斷ノ標示ヲ爲シ又ハ柵圍ヲ設クヘシ

第五十二條 原動機、動力傳導裝置其ノ他ノ機械又ハ裝置ノ危險ナル部分ニハ金網、柵圍其ノ他適當ナル豫防設備ヲ爲スヘシ

ハシ

第五十三條 硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトリオン其ノ他之ニ準スヘキ劇性又ハ毒性料品ヲ多量ニ取扱フ場所ニハ傷害又ハ中毒豫防ノ爲適當ナル施設ヲ爲スヘシ

第五十四條 粉塵ヲ多量ニ飛散スル選鑛場、燒鑛場又ハ製鍊場ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 作業場ハ之ヲ清潔ニシ通氣ヲ十分ナラシムヘシ

二 飲料水ヲ多量ニ備置キ粉塵ノ混入セサル設備ヲ爲スヘシ

三 喫飯所及洗面所ハ作業場ト離レタル場所ニ之ヲ設クヘシ

有害ナル瓦斯又ハ粉塵ヲ發散若ハ飛散スル選鑛場、燒鑛場又ハ製鍊場ニ於テハ前項各號ノ外洗面所ニハ石鹼又ハ其ノ代用品其ノ他ノ必要品ヲ備ヘ鑛夫ヲシテ食事前顔及手ヲ洗ヒ含嗽セシムヘシ

第五十五條 汽罐、坑内通氣用主要扇風機、架空索道、堅坑若ハ斜坑ノ捲揚裝置又ハ機關車ヲ運轉スル軌道ヲ設置セムトスルトキハ工作物ノ種類ニ從ヒ左ニ掲クル事項ヲ具シ鑛務署長ニ届出ツヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 汽罐

(一) 使用目的

(二) 種類

(三) 主要部分ノ構造

(四) 爐格面積及傳熱面積

(五) 安全弁ノ種類、直徑、面積及箇數

(六) 水壓試驗ヲ爲シタル年月日及其ノ成績

(七) 最大常用壓力

(八) 製作所名、製作年月及修繕其ノ他履歷ノ概要

(九) 煙突ノ直徑、高及材料

(十) 汽罐ノ正面圖、平面圖、縱斷面圖及各接合部ノ圖面

二

- (十一) 設置場所及建設物、道路、石油坑井等ノ關係ヲ示セル圖面
 - (十二) 工事完成豫定期日
 - 坑内通氣用主要扇風機
 - 一 設置場所
 - 二 種類及大
 - 三 廻轉數及風量
 - 四 最大負壓又ハ正壓
 - 五 原動機ノ種類及實馬力
 - 六 原動機トノ接続方法
 - 七 豫備扇風機及豫備原動機ノ有無
 - 八 排氣口ノ構造
 - 九 工事完成豫定期日
- 架空索道
- 三
- 一 使用目的
 - 二 方式
 - 三 兩極ノ位置及延長
 - 四 最大運搬量
 - 五 綱索ノ種類、直徑及最大抗張力
 - 六 搬器ノ自重及最大積載重量並搬器相互ノ間隔
 - 七 原動機ノ種類及實馬力
 - 八 綱索ノ最大運轉速度

四

- (九) 荷物ノ積卸方法
 - (十) 通路、建設物等ニ對スル危害豫防設備
 - 十一 綫路地形圖
 - 十二 工事完成豫定期日
 - 鑿坑若ハ斜坑ノ捲揚裝置
- 四
- 一 設置場所
 - 二 使用目的
 - 三 捲揚機ノ種類及主要部分ノ大
 - 四 鼓胴ノ形狀及大
 - 五 制動機及深度指示器ノ種類及構造
 - 六 捲揚槽ノ構造及大
 - 七 槽滑車ノ構造及大
 - 八 捲揚臺ノ重量及最大積載重量
 - 九 鑛車ノ重量及積載重量
 - 十 同時ニ捲揚臺ニ搭載シ又ハ捲揚車道ニ於テ連結スル鑛車ノ數
 - 十一 捲揚臺承ノ構造
 - 十二 捲綱ノ種類、構造、大、延長、最大抗張力及製作所名
 - 十三 捲綱緊張ノ角度
 - 十四 最大捲揚速度

- (十五) 堅坑ニ在リテハ其ノ大、深及區別並爲摺ノ種類及構造
 - (十六) 斜坑ニ在リテハ捲揚車道ノ大、長、最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
 - (十七) 人ヲ昇降セシムルモノニ在リテハ安全裝置ノ構造及搭載定員
 - (十八) 堅坑口又ハ斜坑口ニ於ケル裝置ノ配置圖
 - (十九) 捲揚槽、捲揚臺及車輛ノ正面圖、側面圖及平面圖
 - (二十) 堅坑ノ構造及區別ノ説明圖
 - (二十一) 捲揚臺及捲網ノ連接説明圖
 - (二十二) 工事完成豫定期日
- 五 機關車ヲ運轉スル軌道
- (一) 使用目的
 - (二) 兩極ノ位置及延長
 - (三) 最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
 - (四) 橋梁ノ長及構造
 - (五) 機關車ノ種類及重量
 - (六) 制動機ノ種類
 - (七) 車輛ノ自重及最大積載重量又ハ搭載定員
 - (八) 車輛ノ最大連結數及連結方法
 - (九) 線路地形圖
 - (十) 工事完成豫定期日

前項ノ工作物ノ工事完成シタルトキハ其ノ旨鑛務署長ニ届出テ其ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第五十六條 選鑛場(手選鑛場ヲ除ク)、燒鑛場、製鍊場又ハ製油場ヲ設置セムトスルトキハ左ニ掲ケル事項ヲ具シ鑛務署長ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 設置場所
 - 二 取扱元鑛ノ種類及產出鑛山
 - 三 一箇月間ノ取扱元鑛數量
 - 四 一箇月間ノ製品ノ種類及數量
 - 五 操業方法ノ概要
 - 六 原動機ノ種類及實馬力
 - 七 捨石又ハ鑛滓ノ量及處理方法
 - 八 捨石又ハ鑛滓ノ堆積場ノ位置、構造及堆積量
 - 九 廢水ノ量及處理方法
 - 十 燒鑛又ハ製鍊ニ因リ生スル煙ノ煙道、煙塵室並煙突ノ構造、大及材料
 - 十一 燒鑛若ハ製鍊用ノ爐又ハ蒸溜釜ノ種類、大、箇數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
 - 十二 建設物ノ設計概要並略圖及配置圖
 - 十三 附近ノ地形及地種目ヲ示セル地圖
- 前項ノ工作物ノ工事完成シタルトキハ其ノ旨鑛務署長ニ届出テ其ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第五十七條 前條第一項ニ掲ケル事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ鑛務署長ニ届出ツヘシ但シ鑛務署長ニ於テ豫メ變更ノ認可ヲ受クヘキコトヲ命令シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 前項但書ノ場合ニハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第五十八條 第五十五條及第五十六條ノ工作物ノ使用ヲ廢シタルトキハ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ
 第五十九條 鑛務署長ヨリ汽罐其ノ他機械又ハ裝置ニ付検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ豫メ検査ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ
 第六十條 現ニ入坑セル鑛夫ノ員數、氏名及就業場所ハ之ヲ坑外ニ於テ知り得ヘキ方法ヲ設ケヘシ
 第六十一條 探掘權者ハ業務上ノ傷病者ノ救護ニ必要ナル救急治療用具及材料ヲ備フヘシ
 第六十二條 鑛夫ハ濫ニ危害豫防ノ爲就業若ハ通行ヲ禁止セラレタル場所ニ立入り又ハ衛生若ハ危害豫防ニ關スル設備、裝置ヲ毀損又ハ變更スルコトヲ得ス
 第六十三條 鑛業權者ハ技術管理者危險又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ遲滞ナク應急又ハ豫防ノ處置ヲ爲スヘシ
 第六十四條 瓦斯又ハ炭塵ノ爆發、火災、水害其ノ他ノ變災ニ因リ死者又ハ重傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ事由及狀況ヲ鑛務署長ニ急報スヘシ死者又ハ重傷者ヲ生セサル場合ト雖專業ノ全部若ハ一部ヲ休止スルニ至リタルトキ亦同シ
 前項ノ場合ニ於テハ變災ノ經過及之ニ對スル處置ヲ遲滞ナク鑛務署長ニ届出ツヘシ
 第六十五條 死傷病者ニ付テハ別記様式ニ依リ鑛務署長ニ届出ツヘシ
 第六十六條 本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令中鑛夫ノ遵守スヘキ規定ハ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ之ヲ周知セシムヘシ
 第六十七條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ坑内ノ全部又ハ一部ヲ封鎖スルコトヲ得
 第六十八條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ建設物、工作物其ノ他ノ設備ニ付改造、修理其ノ他適當ナル處置ヲ命スルコトヲ得
 第六十九條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ鑛業法第七十二條第一項若ハ第七十四條ニ基ク農商務大臣ノ命令又ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ヲ執行スル爲又ハ衛生上ノ施設、坑口ノ開墾、坑道ノ掘進若ハ捨石、鑛滓、坑水、廢水ノ處理ニ付一定ノ行爲ヲ命シ又ハ禁止若ハ制限スルコトヲ得
 第七十條 鑛務署長ハ實地ノ狀況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ本則ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得
 第七十一條 本則ノ規定ニ違反シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

ス

第七十二條 本則ノ規定ニ依リ從業者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ直接ノ監督者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第七十三條 鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第七十四條 技術管理者ヲ置キタルトキハ技術ニ關スル事項ニ付探掘權者、法定代理人又ハ鑛業代理人ニ準用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ技術管理者ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第七條第一項ノ規定ニ依リ特定ノ代理者ヲシテ職務ヲ行ハシメタルトキハ技術管理者ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ其ノ代理者ニ適用ス
 第七十五條 本則ハ第七十一條乃至第七十四條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス
 附則
 第七十六條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第七十七條 第六條、第三十條、第三十四條、第三十九條第二項、第五十三條及第五十四條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一箇年間、第十條ノ規定ハ三箇年間之ヲ適用セス

砂鑛法 (抄錄)

明治四十二年三月二十五日 法律第十三號

第四節 大正五年三月法第三一號改正
 第十八條 當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得
 當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、捜索及差押ニ關シテハ問接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十九條 權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ砂鑛業採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二十三條ニ於テ準用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入りテ測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ鑛(山監督)署長ノ許可ヲ受ケスシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ノ訊問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十二條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第九十四條ノ規程ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

●砂鑛法施行細則 (抄録)

(明治四十二年六月二十一日 農商務省令第二十六號)

附 明治四四年三月農令第一一號、大正元年一月第二〇號、五年八月第二四號、八年三月第六號、一四年一月農

工省令第一三號改正

第十一條 砂鑛權者其ノ砂鑛區内ニ於テ許可ヲ得タル砂鑛以外ノ砂鑛ヲ採取セムトスルトキハ豫メ砂鑛權ノ表示變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

第十三條 砂鑛權者ハ砂鑛區圖ヲ砂鑛業務所ニ備置クヘシ

第十四條 砂鑛權者ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載シタル砂鑛業明細表ヲ鑛(山監督)署長ニ差出スヘシ

砂鑛權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ砂鑛權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ砂鑛業明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リテ砂鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨テ届出ツヘシ

第二十條 第十一條、第十三條、第十四條ノ規定ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第二十六條、第四十條、第四十一條、第四十三條、第六十一條、第六十三條、第七十條、第八十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シタル者、鑛業法施行

細則第三十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ砂鑛區圖ヲ差出ササルトキ又ハ第三項ノ規定ニ違背シ期間内ニ登録稅ヲ納メサル者、鑛業法施行細則第二十二條及第二十二條ノ二ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ

規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者又ハ第二十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ設計書ヲ提出セサル者又ハ鑛業警察規則第五十五條乃至第五十九條、第六十四條、第六十九條ノ規定ヲ準用スル場合ニ

之ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 鑛業法施行細則第一條乃至第八條、第十一條乃至第十四條、第十六條、第十六條ノ二、第十七條、第二十一條乃至第二十五條、第二十六條、第二十九條乃至第三十一條、第三十四條、第三十六條ノ二、第三十七條、第四十條、第四十一條、第四十三條、第五十四條、第五十七條乃至第六十三條、第六十八條乃至第七十條、第七十三條鑛業警察規則第五十五條乃至第五十九條、第六十四條、第六十九條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

鑛業法施行細則

● 鑛山ニ於ケル變災事件報告ノ件

(明治三十三年八月二十二日) 指示第二〇號

爾今鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ

第一條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第二條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第三條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第四條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第五條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第六條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第七條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第八條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第九條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ
第十條 鑛山ニ於テ變災アリシ節ハ其器ヨリ當官ヘ事實ヲ報告スルト同時ニ同文ヲ以テ直接ニ(東京鑛山監督署長)ヘ通知スヘ

第六款 狩 獵

● 狩獵法

(大正七年四月四日) 法律第三十二號

附則 大正一一年四月法律第七四號改正

第一條 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス
狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣ノヲ定ム

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認メタルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二條 狩獵鳥獸ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス

第三條 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非ザレハ主務大臣ノ定ムル銃器、網、罽繩、篠、鉤又ハ罾ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ網、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 地方長官必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ依ル獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス

甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免狀ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス
主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期間内ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非ザレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 未成年者、白痴者又ハ癡癡者ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ癡癡者ト爲リタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族

二等 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族

三等 一等及二等以外ノ者

五十圓
三十圓
十五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第九條 主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十年以内ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十條 地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ニ掲グル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一 御獵場

二 禁獵區

三 公道

四 公園

五 社寺境内

六 墓地

第十二條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ

前數條ノ規定ニ拘ラス鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ下付ス

第十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥類又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 國、道府縣、郡又ハ市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ獵區ヲ設定スルコトヲ得

第十五條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル民器若ハ陷穽ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第十六條 日出前若ハ日没後、市街其ノ他人家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 欄柵其ノ他ノ圍障又ハ作物アル土地ニ於テハ占有者、共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 獵區ニ於テハ獵區設定者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 狩獵免許ヲ受ケタル者又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セムトスルトキハ狩獵免狀又ハ許可證ヲ携帯スヘシ

警察官吏、憲兵、森林官吏又ハ市町村長ハ前項ノ規定ニ依リ携帯スヘキ狩獵免狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル鳥獸若ハ採取シタル鳥類ノ卵ヲ檢査スルコトヲ得

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條、第十一條、第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者

一 詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者
 第三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反スル犯罪ノ用ニ供シタル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十七條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

一 第一條第一項、第一條、第五條第五項、第十三條、第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第一條第三項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者
 三 銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者
 四 正當ノ事由ナクシテ第十九條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミタル者
 五 狩獵免狀又ハ第十二條第二項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者

第二十三條 御獵場、禁獵區、銃獵禁止區域、獵區又ハ共同狩獵地ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタルトキハ其ノ狩獵免許又ハ許可ハ效力ヲ失フ

第二十五條 第十九條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十六條 本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス
 本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則
 第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム、大正八年八月勅令第三百八十一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行
 第二十八條 明治三十年法律第七號ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 舊法ニ依リ爲シタル許可ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
 舊法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止ノ區域ハ之ヲ本法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止區域ト看做ス

第三十條 本法施行前爲シタル共同狩獵地ノ免許ハ仍其ノ效力ヲ有ス
 前項免許ノ期間ハ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第三十一條 狩獵免許ヲ受ケタル者舊法第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ處罰セラレタルトキハ其ノ狩獵免許ハ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

●狩獵法施行規則

(大正八年八月十六日 農商務省令第二十八號)

附則 大正八年三月農商令第三號、一二年一〇月第一九號、一二年八月第二一號、一四年一〇月農林令第二四號、一五年九月同第二二號改正

第一條 狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ

あはうざり	う	ごゐさぎ	あなさぎ	くまたか
はやぶさ	みさご	きじ	やまざり	うづら
えぞやまざり	こじゆけい	てつけい	かも	あいさ
おん	くひな	ばん	だいぜん	むなぐら
ちざり	しぎ	はさ	ひよざり	つぐみ(さらつぐみ及く ろつぐみヲ除ク)
しろばら	まみちやじない	からす(ほしから すヲ除ク)	かけす(るりかけ ヲ除ク)	しめ
いかる	いすか	ましこ	あざり	ひわ
かはらひわ	うそ	すすめ	にふないすすめ	ほほじろ
みやまほじろ	あなじ	くろじ	かしらだか	のじこ

獸類各種但シカもしか、牝じか及あまみのくろうさぎヲ除ク

第一條ノ二 左ノ鳥獸ハ農林大臣ノ指定シタル區域ニ於テ捕獲スル場合ヲ除クノ外之ヲ捕獲スルコトヲ得ス
こじゆけい てつけい 牝じか

農林大臣前項ノ規定ニ依ル指定ヲ爲シタルトキハ鳥獸ノ名稱及區域ヲ告示スヘシ
第二條 左ノ鳥類ノ狩獵期間ハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄トス
まじり やまじり

左ノ獸類ノ狩獵期間ハ十二月一日ヨリ翌年二月末日迄トス

あなぐま いたち かはをそ きつね
たぬき てん むささび リす しか

第三條 農林大臣狩獵法第一條第三項ノ規定ニ依リ第一項ノ規定ニ依ル鳥獸以外ノ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ
制限シタルトキハ鳥獸ノ名稱、禁止又ハ制限シタル獵法、期間及區域ヲ告示スヘシ

地方長官狩獵法第四條ノ規定ニ依リ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキ亦前項ニ同シ
第四條 狩獵法第三條ノ規定ニ依ル獵具左ノ如シ

- 一 銃器 裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ依リ彈丸ヲ發射スル銃器散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃及剝拔銃クリキジユウシン身ノ空氣銃
- 二 網 罟 籠 罎 網其ノ他ハハリアミ、ツキアミ、ナゲアミ、モチナワ、ナガシモチ、ハリモチナワ
- 三 罎 籠 流 籠 及 張 籠 繩
- 四 獲 高 獲 及 干 本 獲
- 五 鉤 流 鉤
- 六 罎 括 罎、箱、箱、落、壓及虎 挾

第五條 狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ出願シ狩獵免許ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ一等免許ヲ受ケムトスル者ヲ除クノ外狩獵法第八條第一項ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

- 一 免許ノ種類及等級
 - 二 出願者ノ身分、職業、氏名、住所及生年月日
 - 三 狩獵法又ハ本則ノ規定ニ依リ罰金ニ處セラレタルコトノ有無及罰金ニ處セラレタルコトアルトキハ其ノ年月日
- 第六條 狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼附シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ
- 第七條 狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ飼養又ハ有害鳥獸ノ驅除ヲ目的トスル場合ニ於テハ地方長官ニ、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣ニ出願シ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受クヘシ
- 前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 出願者ノ職業、氏名、住所及生年月日
 - 二 捕獲スヘキ鳥獸又ハ採取スヘキ卵ノ種類及員數
 - 三 捕獲又ハ採取ノ目的、期間、區域及方法並學術研究ヲ目的トスルモノニ在リテハ研究事項及方法
- 狩獵法第十一條ニ掲クル場所又ハ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ若ハ卵ヲ採取セムトスル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條 狩獵免許又ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シタルトキハ二週内ニ其ノ旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
新住所地方他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間内ニ免許ノ種類及等級並身分、職業、氏名、住所及生年月日ヲ新住所地方長官ニ届出ツヘシ

第九條 狩獵免許又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ遲滞ナク當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣又ハ地方長官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡ヲ請求スルコトヲ得

狩獵免狀ノ再渡ヲ受ケムトスル者ハ收入印紙ヲ以テ手数料金二圓ヲ納ムヘシ

第十一條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

前項ノ規定ニ依リ狩獵免狀ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ道府縣別種類別員數ヲ、鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ種類別員數及其ノ處置ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ失効前ノ狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ二 飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者ハ左ノ鳥類ニ關スル受渡簿ヲ備ヘ其ノ閉鎖ノ時ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

なしざり	くわくこう	ほささぎす	かはせみ	みみづく
ふくろう	きつつき	ありすひ	ひばり	せきれい
びんすい	たひばり	ひたき	るり	さらつぐみ
くるつぐみ	あかはら	まみじろ	いそひよざり	あかひげ
こまざり	のこま	よしきり	せつか	うぐひす
めぼそ	きくいただき	みそざい	れんじやく	もす
ごじふから	しじふから	やまがら	ひがら	こがら
えなが	ほしがらす	るりかけす	ななが	むくざり
めじろ				

前項ノ受渡簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 讓受ケタル鳥類ノ種類及員數、讓渡人ノ職業、氏名、住所及其ノ捕獲者ナリヤ否ヤノ別竝讓受ノ年月日

二 讓渡シタル鳥類ノ種類、員數及讓渡ノ年月日

三 前二號以外ノ事由ニ因ル鳥類ノ員數ノ異動、其ノ事由及年月日

四 鳥類ノ員數ノ異動アリタル日ニ於ケル鳥類ノ種類別差引現在員數

第十一條ノ三 地方長官ハ鳥獸又ハ獵具ノ地方名稱ニシテ第一條、第二條、第四條又ハ前條ノ施行ノ爲必要ト認ムルモノハ之ヲ告示スヘシ

第十二條 禁獵區ハ御料地又ハ國有地ヲ其ノ區域トセス且其ノ區域ニ府縣以上ニ互ラサル場合ニ於テハ地方長官、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣之ヲ設ケ

農林大臣必要ト認ムルトキハ前項前段ノ場合ニ於テモ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十三條 農林大臣又ハ地方長官禁獵區ヲ設ケタルトキハ其ノ區域及存續期間ヲ告示スヘシ禁獵區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域若ハ存續期間ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條 農林大臣又ハ地方長官ハ禁獵區ヲ表示スル爲其ノ周圍ノ隅角及見易キ場所ニ百二十間ヲ超エサル間隔ヲ以テ木標ヲ設ケヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ其ノ區域分明ナル場合ニ於テハ木標ノ間隔ヲ延長シ又ハ制札ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

土地所有者ノ出願ニ依リ設ケタル禁獵區ニ付テハ農林大臣又ハ地方長官ハ出願者チシテ前項ノ木標又ハ制札ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ銃獵禁止區域ヲ表示スル爲其ノ場所ニ制札ヲ設ケヘシ

第十六條 獵區ノ存續期間ハ二十年以内トス

前項ノ期間ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 獵區ハ三百町歩以上ノ面積タルコトヲ要ス但シ農林大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 獵區ハ其ノ區域内ノ土地ノ上ニ登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス
第十九條 獵區設定者第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ狩獵者ノ員數ヲ制限シタル場合ニ於テ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル狩獵ノ承認ヲ受ケムトスル者ノ員數其ノ制限ヲ超過シタルトキハ抽籤ノ方法ニ依ルニ非サレハ狩獵者ヲ定ムルコトヲ得ス

第二十條 獵區設定者ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條 獵區設定者狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付スヘシ

第二十二條 獵區設定者ハ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ受ケル者ヲシテ承認料ヲ納付セシムルコトヲ得
前項ノ承認料ハ一日ニ付五圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 獵區内ニ於テ狩獵又ハ狩獵法第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲サムトスルトキハ第二十一條ノ承認證ヲ携帯スヘシ

第二十四條 獵區設定者ハ狩獵日、狩獵者ノ員數又ハ狩獵者ニ對シ其ノ捕獲スヘキ鳥獸ノ種類及員數、獵具、獵法、捕獲區域其ノ他狩獵ニ關スル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 獵區ヲ設定セムトスル者ハ入獵規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
一 獵區ノ名稱

二 獵區ト爲サムトスル土地ノ地目別面積、水面ノ面積及其ノ面積三百町歩ニ滿タサルトキハ其ノ事由

三 獵區ノ存續期間

四 獵區ト爲サムトスル區域ニ於ケル過去一年ノ季節別鳥獸棲息狀況及其ノ以前ニ於ケル概況

五 一狩獵期間當ノ月別狩獵者(甲、乙種別)及捕獲鳥獸(種別)見込數

六 鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲スヤ否ヤノ別及之ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ方法

七 獵區内ニ棲息スル鳥獸ニ因ル損害ノ補償ニ關スル事項

八 獵區設定ニ要スル費用及一年當收支概算

九 第二十二條第二項但書ノ規定ニ依ル承認料ヲ納付セシムルモノニ在リテハ其ノ事由

十 管理者又ハ巡守ヲ置クヤ否ヤノ別及之ヲ置クモノニ在リテハ其ノ員數

前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面、第十八條ノ同意證スル書面並獵區設定ニ關スル決議ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

獵區設定者第一項第三號、第六號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十六條 入獵規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 事務所ノ位置

二 獵區ノ區域

三 第二十四條ノ規定ニ依ル制限

四 入獵申込ノ手續

五 第十九條ノ規定ニ依ル抽籤ノ方法

六 入獵承認ノ通知方法

七 第二十二條ノ規定ニ依ル承認料及其ノ納付ノ方法

八 承認證ノ交付、携帯及提示ニ關スル事項

九 案内者又ハ勢子ヲ置クモノニ在リテハ之ニ關スル事項

十 入獵者、其ノ從者、獵區管理者、巡守、案内者又ハ勢子ニ徽章ヲ佩用セシムルモノニ在リテハ其ノ旨及雅形
十一 退獵ノ手續

十一 入獵規程違反者ニ對スル處置

獵區設定者前項第二號、第三號、第五號、第七號、第九號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ新ニ設ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前條第一項第二號、第四號、第五號、第八號及第二項ノ規定ハ第一項第二號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於ケル認可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第二十八條 入獵規程ヲ變更シタルトキハ第二十六條第二項ニ掲ケル事項ニ關スルモノヲ除クノ外遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ第二十五條第一項第一號又ハ第十號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十九條 農林大臣獵區ノ設定又ハ其ノ存續期間ノ更新ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スヘシ告示シタル事項ニ付變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 獵區ノ名稱

二 事務所ノ位置

三 獵區ノ區域

四 獵區ノ存續期間

五 承認料

六 狩獵ニ關スル制限

第三十條 獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ置クコトヲ得

獵區設定者管理者又ハ巡守ヲ置キタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ農林大臣ニ届出テ且證票ヲ携帯セシムヘシ

第三十一條 獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對シ第二十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條 獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必要ナル標識ヲ設ケヘシ

第三十二條ノ二 獵區設定者ハ前年四月十六日ヨリ其ノ年四月十五日迄ノ間ニ於ケル獵區ノ成績ヲ様式第一號及第二號ニ依リ毎年四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第三十二條ノ三 獵區設定者ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間狩獵ノ停止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前二項ノ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十三條 獵區設定者獵區ヲ廢止セムトスルトキハ廢止ノ日ヨリ三十日前ニ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條 農林大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者ニ對シ獵區設定ノ認可ヲ取消シ第二十五條第一項第三號、第六號、第七號、第十號ノ事項又ハ入獵規程ノ變更、有害鳥獸ノ驅除一定ノ期間ノ狩獵ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

農林大臣獵區設定ノ認可ヲ取消シ又ハ狩獵ノ停止ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十五條 第九條第一項第十一條又ハ第十一條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條 本則ニ依リ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十七條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則

第三十八條 本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正八年九月一日ヨリ施行)

大正 年度狩獵區成績表(其ノ二)

何々獵區

收 入				支 出			
科 目	金 額	内	入 譯	科 目	金 額	内	出 譯
承認料				管理者手當			
案 內 料				書記手當			
勢子賃銀				巡守手當			
案 內 料				案內者賃銀			
勢子賃銀				備 人 料			
通 信 料				勢子賃銀			
何				消耗品費			
何				通 信 料			
何				鳥獸保護蕃殖費			
計				損害補償費			
				何			
				計			

● 狩獵法施行細則

(大正八年九月二十五日 岐阜縣令第四十二號)

附則

大正一〇年九月縣令第三九號、一一年一〇月第四六號、一四年一二月第五七號改正

第一條 狩獵法(以下單ニ法ト稱ス)同法施行規則(以下規則ト稱ス)及本則ニ依リ地方長官ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ書式第一號ノ願書ニ市町村長ノ納稅額證明書ヲ受ケ差出スヘシ

第三條 規則第七條ニ依ル飼養又ハ有害鳥獸驅除ノ許可願書ニハ同條所定事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 區域ノ圖面及面積

二 飼養ノ場合ハ飼養場所及現ニ飼養中ノモノアラハ其ノ種類員數

三 有害鳥獸驅除ノ場合ハ被害物ノ主ナルモノ並被害ノ狀況

第四條 規則第十一條第二項ノ屆書ハ様式第一號又ハ第二號ニ依リ差出スヘシ

狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ノ飼養ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出様式第四號ノ飼養證ノ下附ヲ受ケヘシ飼養證ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ノ飼養ヲ廢止シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ十日以内ニ飼養證ヲ返納スヘシ

規則第十一條ノ二ノ規定ニ依リ飼鳥ノ賣買ヲ業ト爲サムトスル者ハ開業ノ日ヨリ十日以内ニ住所地ノ所轄警察官署ニ住所氏名ヲ届出スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四條ノ二 狩獵免狀ノ下附ヲ受ケタルモノハ免狀返納ト同時ニ當該狩獵期間内使用シタル獵具ノ種類、捕獲シタル鳥獸ノ種類員數並捕獲地(縣名)ヲ様式第三號ニ依リ届出ヘシ

第五條 法第十三條ノ許可願書ニハ鳥獸ノ種類、員數、捕獲年月日、讓渡讓受ノ目的、飼養場所ヲ具シ雙方連署ノ上讓渡人所轄警察官署ニ差出スヘシ

飼養鳥獸ヲ他人ニ委託セムトスルトキハ前項ニ準ジ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 土地所有者禁獵區ノ設置ヲ地方長官ニ出願セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シタル上願書ヲ差出スヘシ

一 禁獵區ノ區域、地目、面積、圍面(規則第十四條ニ依ル木標ノ位置及間隔ヲモ表示スヘシ)

二 禁獵期間

三 禁獵理由並ニ鳥獸ノ蕃息狀況

前項第一號第二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シ第一號ニ在リテハ關係圍面ヲ添附當廳ニ出願スヘシ但シ期間更新願ハ期間滿了ノ日ヨリ一箇月前迄ニ出願スヘシ

第七條 狩獵ニ關スル團體ヲ組織シタルトキハ十日以内ニ其ノ代表者ヨリ規約寫並役員ノ住所氏名團體ノ總員數ヲ届出ヘシ役員ノ異動規約ノ變更及團體ヲ解散シタルトキ亦同シ

第八條 規則第九條ノ届書ニハ種別、番號、下付年月日並事由ヲ記載スヘシ

第九條 法第七條第二項ニ依リ免許ヲ取消サレタルトキハ精神病者ニ在リテハ監護法ニ依ル看護義務者、本人死亡失踪ノ場合ハ戶籍法上ノ届出義務者ヨリ免狀ヲ返納スヘシ

前項ノ規定ハ飼養證返納ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 飼養證ハ警察官吏ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條ノ二 剝製ヲ業トスルモノ狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ノ剝製ヲ爲サントスルトキハ遲滞ナク其ノ種類、員數、捕獲場所、所有者ノ住所氏名ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十一條 第四條、第四條ノ二、第五條第二項、第七條、第九條、第十條、第十條ノ二ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

第十一條ノ二 狩獵法第四條ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタルモノハ科料ニ處シ之ニ使用シタル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニキテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

附則

第十二條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十三條 現ニ狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ヲ飼養スルモノハ左記事項ヲ具シ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出飼養證ノ下付ヲ受クヘシ

- 一 飼養者ノ住所職業氏名年齢
- 二 種類雌雄及牝牡ノ別並員數
- 三 飼養ノ目的及場所

○書式第一號

狩獵免許願

收入印紙(消印チナスヘカラス)

本籍 何縣何郡(市)何町(村)大字何々番戶(地)
 寄留 何縣何郡(市)何町(村)大字何々番戶(地)
 戶主(戶主何某何男又ハ何々)何職 何 某

何年何月何日生
 當 何年何箇月

- 一 狩獵法同法施行規則及細則ニ依リ罰金ノ刑ヲ受ケタルコトナシ(又ハ狩獵法第何條ニ依リ何年何月何日何裁判所ニ於テ罰金何圓ニ處セララル)
- 二 戶主何某ハ所得稅何程ヲ納ム(又ハ納メス)

第三編 保安 第六章 産業 第六款 狩獵

三 自分ハ所得稅何程ヲ納ム(又ハ納メス)
 甲(乙)種何等免狀下附相成度此段奉願候也
 大正何年何月何日

知事宛

前書ノ納稅額ニ相違ナキコト(又ハ前書ノ納稅額ナキコト)ヲ證明候也(一等免狀ヲ受クルモノハ證明ノ必要ナシ)
 大正何年何月何日

何郡(市)町(村)長 何

某 印

○様式第一號

鳥獸捕獲(卵採取)屆
 自大正何年何月何日
 至大正何年何月何日

鳥獸(卵・雛)名	員數	飼養場所	捕獲(採取)地名

右及御届候也

年 月 日

知事宛

何縣何郡何市町村字何番戶

何 某

○様式第二號

有害鳥獸捕獲屆
 自大正何年何月何日
 至大正何年何月何日

鳥獸名	員數	捕獲地

右及御届候也

年 月 日

知事宛

何縣何郡何市町村字何番戶

何 某

○様式第三號

狩獵鳥獸捕獲屆
 自 年 月 日
 至 年 月 日

獵具ノ名稱	鳥獸名	員數	捕獲地ノ縣名

右及御届候也

年 月 日

知事宛

住所氏名

第三編 保安 第六章 産業 第六款 狩獵

三寸五分

警察署		第 條	
年月日		飼養證	
住所	職業	姓名	

内面

飼養開始	年月日
飼養目的	
飼養場所	
鳥獸名	雌雄
牝牡	別員數

千十四

●狩獵法取扱手續

附註

大正一一年一〇月訓令甲第四八號、一四年一二月第三五號改正

(大正八年九月二十五日
岐阜縣訓令甲第三十一號)

- 第一條 狩獵願ヲ受理シタルトキハ願書記載ノ事實ヲ調査シ免狀ヲ下付スヘシ但シ乙種狩獵免許願ニアリテハ狩獵法(以下單ニ法ト稱ス)第七條ニ該當スル者ニアラサルヤチモ調査スヘシ
- 第二條 免許稅タル收入印紙ハ免狀下付後直ニ黑肉ヲ以テ第一號雜形ノ消印チ爲スヘシ
- 第三條 前項手續ヲ終リタルトキハ願書ニ下付年月日及免狀番號ヲ記入スヘシ
- 第四條 獵狩法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第十條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ再渡ノ手續ヲ爲スヘシ但シ鳥獸捕獲許可證ニアリテハシ鳥獸捕獲許可證ニアリテハ警察部ニ進達スヘシ
- 第五條 規則第八條ニ依リ住所若ハ氏名ノ異動ヲ届出テタルトキハ免狀ヲ訂正下付スヘシ但シ鳥獸捕獲許可證ニアリテハ警察部ニ進達スヘシ
- 第六條 前項ノ場合ニ於テ所轄外ヨリ轉入セシモノハ其ノ旨舊住所地所轄警察官署ニ通報スヘシ
- 第七條 狩獵免狀亡失ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度第二號樣式ニ依リ警察部ニ報告スヘシ
- 第八條 規則第十一條ニ依ル鳥獸捕獲許可證ノ返納、同條第二項ノ届出又ハ鳥獸捕獲許可證亡失ノ届出ヲ受ケタルトキハ警察部ニ進達スヘシ
- 第九條 警察官署ニハ第三號樣式ノ免狀原簿ヲ備ヘ免狀ノ下附再渡者ハ訂正ノ都度整理スヘシ
- 第十條 乙種狩獵免許ヲ受ケタルモノ白痴者又ハ癡癡者ト爲リタル者ハ醫證ヲ添ヘ速ニ報告スヘシ
- 第十一條 規則第七條ニ據リ知事ニ差出スヘキ願書ヲ受理シタルトキハ所定事項ノ外出願者ノ性行經歷ヲ調査シ意見ヲ付シ警察部ニ進達スヘシ
- 第十二條 禁獵區ニ關スル願書ヲ受理シタルトキハ實地踏査シ慣行アルモノハ其ノ由來等ヲ調査意見ヲ附シ進達スヘシ

年許可證返日納	獵許可證番類號	實效屆出同上	鳥獸驅除捕獲豫定種類員數	區域	期間	許可年月日	捕獲出願者住所氏名	年許可證返日納	獵許可證番類號
年許可證返日納	獵許可證番類號	實效屆出同上	鳥獸驅除捕獲豫定種類員數	區域	期間	許可年月日	捕獲出願者住所氏名	年許可證返日納	獵許可證番類號

記載例

一 有害鳥獸、飼養鳥獸(卵採取)ニ區分シ口紙ヲ付シ置クヘシ

○第八號樣式

備考	鳥獸保護方法	木標ノ員數	理由	期間	廢止年月日	設定年月日	土地所有者	面積	區域	禁獵區原簿

○第九號樣式

面積	區域	銃獵禁止區域原簿

土地所有者	設定年月日	廢止年月日	理由	制札ノ員數	備考

○第一〇號樣式

獵區原簿						
設定許可年月日	獵區	獵定者	名稱	事務所位置	區域	面積
期限	承認料額	鳥獸保護法	鳥獸棲息	鳥獸狀況	管理場所ノ氏名	巡守ノ住所氏名

○第一一號樣式

飼鳥賣買業者名簿

住所	氏名	備考

●狩獵法施行ニ付キ心得方

(大正八年十月六日 岐阜縣訓令甲第三十二號)

附註 大正一一年一〇月訓令甲第四九號、一四年一二月第三六號改正

一 狩獵法第八條ノ適用方ニ付テハ左ノ如ク取扱フヘシ

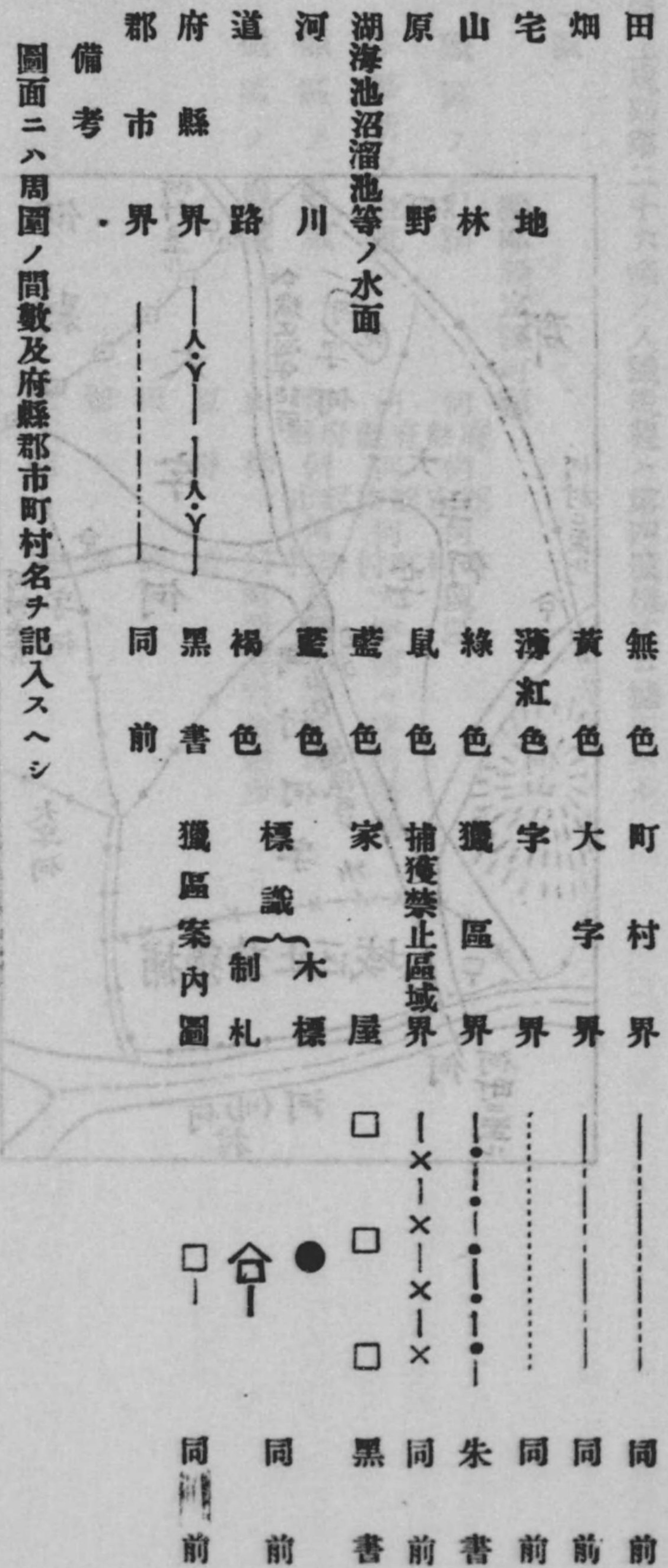
イ 戶主カ所得稅ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メサル場合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戶主ノ納稅額ニ依ル

ロ 戶主並家族カ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納稅額カ戶主ノ納稅額ヨリ少ナキトキハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戶主ノ納稅額ニ依ルヘク家族ノ納稅額カ戶主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戶主ノ納ムヘキ免許稅ハ戶主ノ納稅額ニ依リ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ其ノ納稅額ニ依ル

二 御獵場、御料林野、御料牧場、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムルトキハ當該管理官廳ハ所屬公務員ニ狩獵法施行規則第七條ニ依ル鳥獸捕獲許可證ニ準シタル證票ヲ交付ス其ノ證票ハ地方長官ノ下附スヘキ許可證ニ代ルモノトス

三 狩獵法施行規則第二十五條ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ獵區設定認可願ハ左記第一號同第二號ニ據ルヘシ
四 同上規則第五條第二項ニ依リ狩獵出願者ヨリ(一)等免狀ヲ除ク)納稅額ノ證明ヲ請フ者アルトキハ市町村長ハ之ヲ調査シ證明スヘシ

○凡 例



○第三號

飼鳥受渡簿

最初受渡許可 警察官署名及指令 番號並其年月日	種類性別員數	讓受ノ 年月日	讓渡人ノ職業住所氏名 及捕獲者ナリヤノ別	讓渡ノ 年月日	讓受人ノ 住所氏名	其他 動ノ	現在員數
愛知縣笠島警察署 指令第 號大正十 四年十二月十日	鶯 雄 一羽	大正十四年 十二月二十 日買受	名古屋市中區中町古 物商何某捕獲者ナリ	大正十四 年十二月 三十日	岐阜市司 町何某	異 動ノ	ナ シ

○第四號

獵區ノ入獵規程

第一章 事務所ノ位置及獵區ノ區域

第一條 本獵區ハ事務所ヲ何府縣何郡市何町村大字何字何番地ニ置ク

(註) 巡守詰所ヲ置クトキハ其ノ位置ヲモ記載スルコト

第二條 本獵區ノ區域ハ何府縣何郡市何町村一圓又ハ何府縣何郡市何町村一圓但シ大字何字何番地ヲ除ク又ハ何府縣何郡市何町村大字何字何番地トシ木標ヲ以テ分界シ制札及獵區案内圖ヲ建テ之ヲ表示ス

第二章 狩獵ニ關スル制限

第三條 本獵區ハ狩獵日ヲ狩獵期間中ノ毎何曜日(何曜日ヲ除ク)ニ制限ス但シ已ムテ得サル事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ臨時狩獵日ヲ變更スルコトアルヘシ
前項但書ノ場合ニ於テハ少クモ七日前ニ本獵區事務所ノ揭示板及何新聞ニ之ヲ公告ス

第三編 保安 第六章 產業 第六款 狩獵

第四條 本獵區ハ狩獵者ノ員數チ一日何人ニ制限ス

第五條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ唯まじ及唯やまじリ又ハ何々ノ捕獲ヲ禁止ス

第六條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ其ノ捕獲シ得ヘキまじ、やまじリ又ハ何々ノ員數チ一人一日ニ付合計何多又ハ何頭ニ制限ス

第七條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ獵具獵法ヲ左ノ如ク制限ス

- 一 何種獵具及何々ノ使用ヲ禁止ス
- 二 銃器チ口径十二番以下ノ單發及二連發ニ制限ス
- 三 獵犬ノ使用チ一人何頭ニ制限ス

第八條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ大字何字何(面積何百何十何町何段何畝何歩)ニ於ケル鳥獸ノ捕獲ヲ禁止ス

前項ノ區域ハ木標ヲ以テ分界シ制札ヲ建テ之ヲ表示ス

狩獵者又ハ其ノ從者ハ第一項ノ區域ニ立入り若ハ其ノ區域ニ於ケル鳥獸ヲ驅逐シ又ハ驅逐セシムルコトヲ得ス

第九條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ豫備銃ノ携帶ヲ禁止シ隨伴シ得ヘキ從者ノ員數チ一人ニ制限ス

第三章 入獵申込及入獵承認

第十條 本獵區ニ於テ狩獵セムトスル者ハ狩獵日ヨリ五日前迄ニ狩獵免狀寫ニ通信料金參錢(電信通知ヲ希望スル者ハ金參拾錢)ヲ添ヘ書面ヲ以テ本獵區事務所ニ申込ムヘシ

第十一條 前條ニ依ル申込者ノ員數第四條ノ制限ヲ超過シタルトキハ本獵區管理者ハ狩獵日ヨリ四日前何曜日午前十時迄ニ本獵區事務所ニ於テ獵區役員二名以上立會ノ上抽籤チ行ヒ狩獵者ヲ決定シ直ニ郵便(電報)ヲ以テ申込者ニ狩獵ノ諾否(被承認者ニハ入獵規程ヲ送付ス)ヲ通知ス

申込者ノ員數第四條ノ制限ヲ超過セサルトキハ直ニ申込者ヲ狩獵者ト決定シ前項ノ規定ニ準シ申込者ニ通知ス

第十二條 前條ノ抽籤ハ方一尺ノ木製函ノ一側ニ直徑三寸ノ孔ヲ穿チタルモノニ申込順ニ依ル番號ヲ記載シタル木片ヲ容

レ管理者其ノ中ヨリ一片宛何枚ヲ引出シ其ノ番號ニ該當スル申込者ヲ以テ狩獵者ト定ム

第十三條 狩獵申込者ハ本獵區管理者ニ申出テ抽籤ニ立會スルコトヲ得

第十四條 本獵區ハ承認料チ一人一日金何圓トス

第十五條 第十一條ノ規定ニ依リ承諾ノ通知ヲ受ケタル者ハ狩獵日ノ前日午後四時迄ニ承認料ヲ本獵區事務所ニ納付スヘシ

前項ノ納付ヲ爲ササルトキハ其ノ承認ヲ無効トス

第十六條 狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ本獵區ニ於テ狩獵日ヲ變更シタル場合ノ外之ヲ返付セス

第十七條 狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ鳥獸ヲ捕獲セムトスルトキハ鳥獸捕獲許可證寫ニ通信料ヲ添ヘ捕獲日ヲ指定シ其ノ捕獲ノ目的ニシテ學術研究又ハ有害鳥獸驅除ニ在ラサルモノニ在リテハ第十四條ノ承認料ヲ添ヘ本獵區事務所ニ申込ミ入獵ノ承認ヲ受クヘシ

第四章

第十七條 第十五條ノ規定ニ依リ承認料ヲ納付シタル狩獵者ハ入獵當日又ハ其ノ前日本獵區事務所ニ出頭シ狩獵免狀ヲ提示シタル上様式第一號ニ依ル承認證、様式第二號ニ依ル入獵徽章及獵區案内圖ノ交付ヲ受クヘシ

第十六條 規定ニ依リ入獵承認ヲ受ケタル者ハ鳥獸ヲ捕獲セムトスル當日又ハ其ノ前日本獵區事務所ニ出頭シ鳥獸捕獲許可證ヲ提示シタル上承認證並入獵徽章及獵區案内圖ノ交付ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ニ依ル承認證ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ交付セス

- 一 入獵セムトスル者承認證ノ名義人ニ非ラサルトキ
- 二 承認證ノ交付ヲ受ケムトスル者ノ氏名ト狩獵免狀ノ氏名ト符合セサルトキ

第十八條 入獵者ハ入獵中狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證並承認證ヲ携帶スヘシ

入獵者本獵區管理者又ハ巡守ヨリ承認證ノ提示ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 本獵區管理者又ハ巡守ニハ様式第三號ニ依ル管理者證票又ハ巡守證票ヲ携帯セシメ且様式第四號ニ依ル管理者徽章又ハ巡守徽章ヲ佩用セシムヘシ

第二十條 本獵區ハ案内者又ハ勢子何名ヲ置キ入獵者ノ求ニ依リ案内(又ハ獲物ノ狩立)ニ從事セシムルコトヲ得入獵者前項ノ案内者又ハ勢子ヲ要スルトキハ案内者又ハ勢子一人一日ニ付案内料(又ハ勢子賃銀)金何圓ヲ添ヘ其ノ旨本獵區事務所ニ申込ムヘシ

第一項ノ案内者(又ハ勢子)ニハ様式第五號ニ依ル案内者徽章(又ハ勢子徽章)ヲ佩用セシム

「第二十條」本獵區ニ案内者又ハ勢子何名ヲ置キ第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ承認料ヲ納付シタル入獵者ニハ一人ニ付一人ヲ(又ハ何人ニ付何人ノ割合ヲ以テ)付シ無料ニテ入獵者ノ案内(又ハ獲物ノ狩立)ニ從事セシムルコトヲ得前項以外ノ入獵者ニシテ本獵區管理者ニ於テ案内者(又ハ勢子)ヲ付スルノ必要アリト認メタルトキハ之ヲ付シ案内者(又ハ勢子)一人一日ニ付案内料(又ハ勢子賃銀)金何圓ヲ納付セシム

前二項ノ案内者(又ハ勢子)ニハ様式第五號ニ依ル案内者徽章(又ハ勢子徽章)ヲ佩用セシム

(註) 本條ハ鳥獸保護、危險防止又ハ獵法上ノ必要等特別ノ事由ニ因リ入獵者ニ對シ必ス案内者(又ハ勢子)ヲ付スルノ必要アル獵區ニ於ケル一例ヲ示セルモノトス

第二十一條 入獵者從者ヲ隨伴セムトスルトキハ其ノ旨ヲ本獵區事務所ニ申出テ様式第六號ニ依ル從者徽章ノ交付ヲ受クヘシ

第二十二條 入獵中入獵者ハ入獵徽章ヲ從者ハ從者徽章ヲ左胸部ニ佩用スヘシ

第二十三條 入獵者ハ獵區内ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ農作物若ハ竹木等ヲ損傷スヘカラス

第二十四條 承認證、入獵徽章又ハ從者徽章ヲ亡失シタルトキハ入獵者ハ直ニ本獵區事務所ニ届出テ實費金何錢ヲ納メ其ノ再交付ヲ受クヘシ

第二十五條 入獵者退獵セムトスルトキハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ種類別員數ヲ承認證ノ裏面相當欄ニ記入シ入獵徽章及從

者徽章ト共ニ本獵區事務所ニ返付スヘシ

第五章 違反者ニ對スル處置

第二十六條 本獵區内ニ於テ狩獵法令ニ違反シタル者ニ對シテハ直ニ退獵ヲ命シ且所轄警察官署ニ届出ツルモノトス

第二十七條 狩獵者第五條乃至第九條ノ制限ニ違反シタルトキハ直ニ退獵ヲ命シ左ノ區別ニ從ヒ過意金ヲ徵收シ尙ホ違反

行爲ニ因リテ捕獲シタル鳥獸ヲ沒收ス

一 第五條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタルトキ 一羽ニ付 金參圓

二 第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキ 金拾圓

三 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ 金五圓

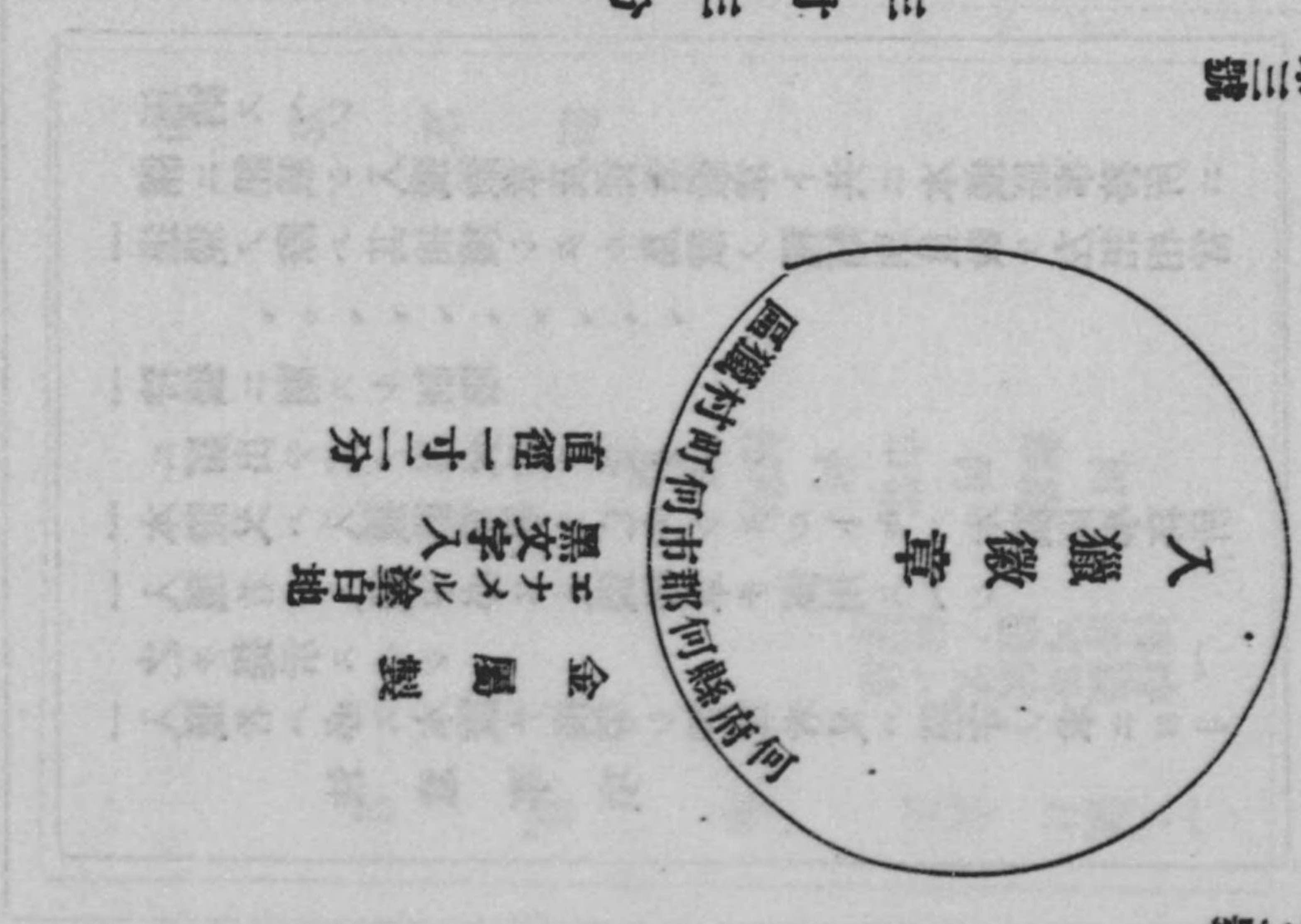
第二十八條 第十八條、第二十二條及第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ直ニ退獵ヲ命スルコトアルヘシ

第二十九條 第五條乃至第九條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ次回ヨリ其ノ入獵ヲ拒絕スルコトアルヘシ

表 分二寸二

第	號
獵區管理者(巡守)證票	何府何郡何町何村何獵區
管理者(巡守)何	某

第三號

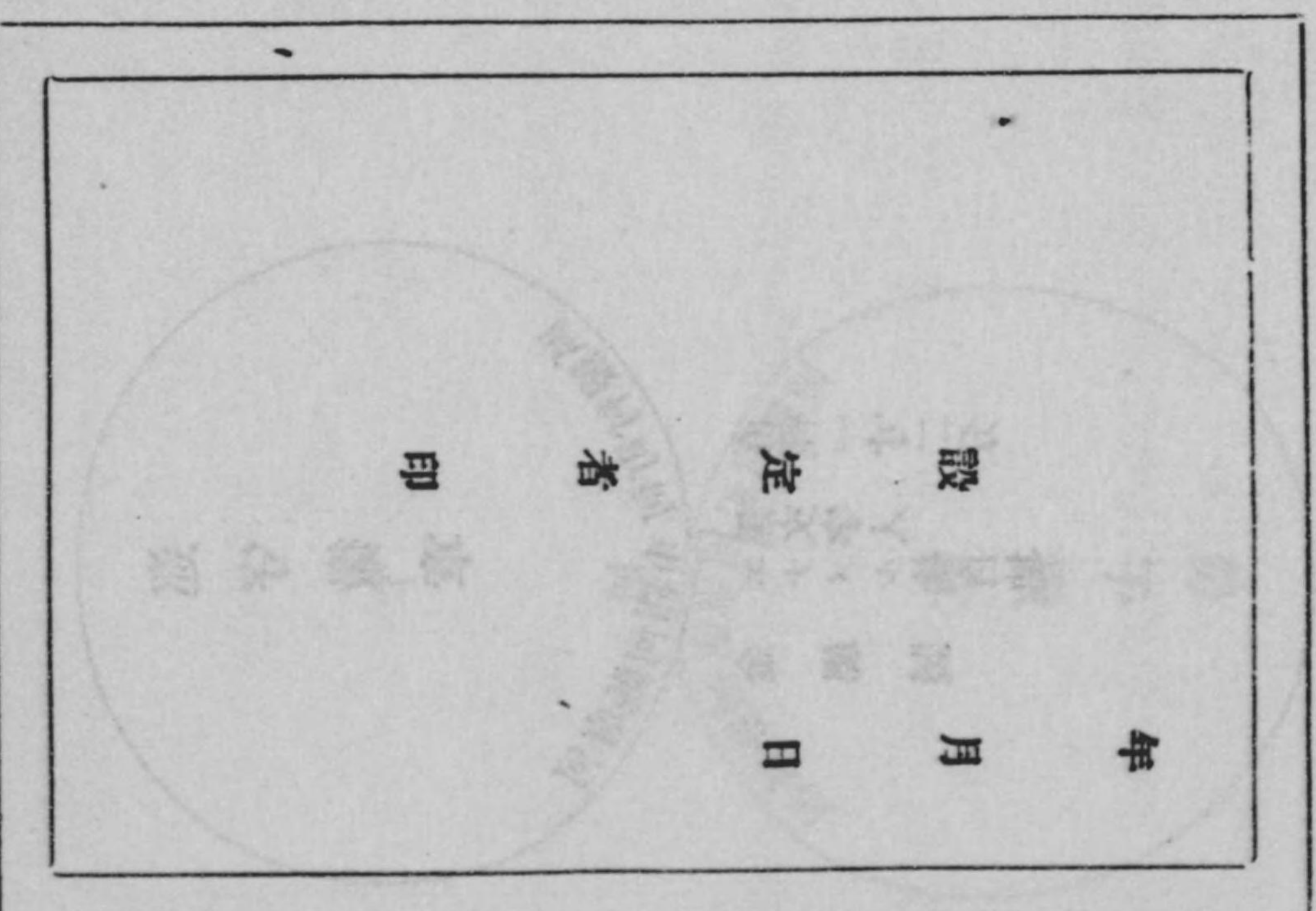


第二號

三寸三分



第四號



裏



第五號

金屬製
エナメル塗青地
白文字入
直徑一寸二分



金屬製
エナメル塗白地
黒文字入
直徑一寸二分



第六號

金屬製
エナメル塗黃地
白文字入
直徑一寸二分



同上

●狩獵法施行規則指定鳥獸類ノ方言

(大正十四年十二月九日 岐阜縣告示第三百六十一號)

狩獵法施行規則第一條第二條ニ規定セル鳥獸類ノ方言左ノ如シ

一 狩獵鳥獸中

鳥名	方言
くひな	かはちやほ
にうないすゞめ	よしはらすゞめ
つぐみ	つむぎ、つぐめ
まみちやじない	まみじろしな
いかる	めじろみやま
しぎ	いからこ、まめまわし
ほゝじろ	しげ
しろはら	ひさゝ、やますゞめ
かけす	みやま、しな
ひわ	かしざり
あなぐま	ひば
たぬき	方言
むさび	しくま、さゝぐま
	むじな、はちむじな
	よふすま、ばんざり

二 捕獲ヲ禁シタル獸類中

獸名	方言
かもしか	くらし、にく

●狩獵法施行細則等改正ニ關スル件

(大正十一年十月十八日 保第一〇九〇四號)

本月十一日本縣令第四十六號ヲ以テ狩獵法施行細則改正相成尙ホ同法取扱手續等改正相成候ニ就テハ左ノ事項御注意相成度此段及通知候也

左記

- 一 有害鳥獸驅除ヲ他人ノ農作物アル場所ニ於テ行ハントスルモノハ願書ニハ作主又ハ代表者ノ承諾書並ニ手當報酬等ヲ受クルモノハ其ノ金額等ノ證明書添付ノコト
- 二 狩獵免狀返納ト同時ニ捕獲鳥獸ノ種類員數等ヲ届出サシムルヲ以テ狩獵者ヲシテ平素手帳等ニ捕獲ノ都度記入セシメ置カシムルコト
- 三 鳥獸名ハ免狀裏面ニアル鳥獸名ヲ用ユルコト
- 四 獵具ノ種類ハ單ニ銃器、網ト記入セス、銃ナラハ三十番村田銃又ハ十二番グリナ二連銃、網ナラハ罟罟、霞網等ト記入セシムルコト
- 五 若シ縣外ニ於テ捕獲セシトキハ何縣ト員數ノ下ニ附記セシメラレ縣内ニ於テ捕獲セシモノハ別ニ縣内ト記入ヲ要セス
- 六 鳥獸製者名簿ハ其ノ管内ニ於テ野生鳥獸ノ標本作製ヲ營業トスルモノヲ登載ノコト
- 七 剥製ヲ業トスルモノ保護鳥獸ノ剥製届出ハ口頭ヲ以テ受持巡查ニ爲サシムルモ差支ナシ
- 八 保護鳥獸飼養用紙ハ當部ニ於テ作製シ配付スルヲ以テ豫メ所要數ヲ請求ノコト
- 九 保護鳥獸ヲ現ニ飼養中ノ者ヨリ飼養證ノ下附ヲ請求セシトキハ受持巡查ヲシテ果シテ現ニ飼養セルヲ種類員數ヲ精査
- 十 上下附スルコト

六 既設ノ狩獵團體ニシテ既ニ規約寫等屆濟ノモノハ更ニ届出ヲ要セス第七條ノ役員ノ住所氏名ハ會長副會長迄トスルコト

七 狩獵法取扱手續第十條ニ依リ鳥獸飼養者名簿ヲ整理セシトキハ其ノ月末毎ニ當部ニ報告ノコト

八 細則第四號ノ二ノ狩獵鳥獸捕獲届ハ全部ヲ取纏メテ毎年五月末日迄ニ當部ニ進達ノコト

●皇族御遊獵ノ件

皇族ニ於テ御遊獵相成候節ハ狩獵規則遵守可相成ハ勿論ニ有之候得共右ハ免狀御携帶ニ及ハサル義ニ付別段狩獵免狀交附不相成候御出獵ノ際不都合無之様取扱フヘシ

●外交官狩獵ニ關スル件

帝國ニ駐在スル外國大使、公使、領事官及其ノ廳附屬ノ外國官吏ハ一般外國人ト同シク免許稅ヲ納付シテ狩獵免許ヲ受クヘキモノトシテ取扱フヘシ

●禁獵區設定

一 禁獵區域
 岐阜市ノ内
 金華山、駿河山、逢日洞、鏡岩、新開洞、上加納山、藤右衛門洞
 稻葉郡北長森村大字岩戸ノ内
 東山、西山
 總段別四百二十四町三段三畝十八步

(大正八年十月十八日
 農第一一八六八號農商務大臣内訓)

(大正九年十二月二十七日
 農商務省告示第二八五號)

一 禁獵期間

自大正九年十二月二十四日至同十九年十二月二十三日

(大正九年十二月二十七日
 農商務省告示第二八五號)

一 禁獵區域

惠那郡岩村町ノ内
 城山御料林
 同郡本郷村大字富田ノ内
 水晶山
 總段別三百八十六町二段四畝二十一歩

一 禁獵期間

自大正九年十二月二十四日至同十九年十二月二十三日

(大正十三年十二月二十四日
 農商務省告示第二八八號)

狩獵法第一條第三項ニ依リ左ノ通獸類ノ捕獲ヲ禁止ス

一 鹿

禁止ノ區域 岐阜縣揖斐郡春日村、宮地村、本郷村、八幡村及不破郡赤坂町、青墓村、府中村ノ一圓

(大正五年十一月六日
 岐阜縣告示第三三三號)

一 禁獵區域

第三編 保安 第六章 産業 第六款 狩獵

養老郡一ノ瀬村字宇多仁地内山林

總段別四町一段二畝二十三歩

禁獵期間

自大正五年十一月六日至同十五年十一月五日

(大正九年七月二十八日
岐阜縣告示第二五四號)

禁獵區域

武儀郡洞戸村大字栗原地内

夕谷、榎谷、鵜谷、脇谷、前山、底津ノ内

總段別百五十三町四段九畝十七歩

禁獵期間

自大正九年七月二十八日至同十九年七月二十七日

(大正九年十月十三日
岐阜縣告示第三五七號)

禁獵區域

山縣郡上伊自良村大字長瀧字釜ヶ谷ノ内

總段別四町八段歩

禁獵期間

自大正九年十月六日至同十九年十月五日

(大正十年三月二十三日
岐阜縣告示第一〇七號)

禁獵區域

加茂郡東白川村大字越原字岩倉及上高旗地内

總段別十五町七段三歩

禁獵期間

自大正十年四月一日至同二十年三月三十一日

(大正十年八月二十四日
岐阜縣告示第三〇〇號)

禁獵區域

不破郡宮代村字笹石子谷及御前谷、峯地内

總段別四十五町六段三畝三歩

禁獵期間

自大正十年九月一日至同二十年八月三十一日

(大正十年八月二十四日
岐阜縣告示第三〇一號)

禁獵區域

不破郡赤坂町字勝山

總段別七町八段七畝二十九歩

禁獵期間

第三編 保安 第六章 産業 第六款 狩獵

第三編 保安 第六章 產業 第六款 狩獵

千四十四

自大正十年九月一日至同二十年八月三十一日

(大正十年八月二十四日
岐阜縣告示第三〇二號)

一 禁獵區域

山縣郡大桑村字斧田東畑、西市場、斧田中畑ノ内
總段別二十五町七段二十五步

一 禁獵期間

自大正十年九月一日至同二十年八月三十一日

(大正十年九月二十八日
岐阜縣告示第三四三號)

一 禁獵區域

武儀郡下有知村字龍ヶ池地内
總段別二町六段三畝六步

一 禁獵期間

自大正十年十月一日至同二十年九月三十日

(大正十一年八月九日
岐阜縣告示第二五四號)

一 禁獵區域

加茂郡八百津町字臨津山
總段別百一町九段四畝二十一步

(大正十年三月二十三日
岐阜縣告示第一〇七號)

一 禁獵期間

自大正十一年八月一日至同十六年七月三十一日

(大正十二年一月十日
岐阜縣告示第三號)

一 禁獵區域

大野郡宮村地内山林
字田ノ洞、五料洞、枯木ヶ洞、カシヶ洞、車ヶ洞、寺洞、山伏、下渡瀬、橋詰、亀ヶ平、砂畑
以上總段別二百六十四町九畝十六步

一 禁獵期間

自大正十二年一月一日至同十七年十二月三十一日

(大正十二年一月二十四日
岐阜縣告示第二八號)

一 禁獵區域

揖斐郡小島村大字上野地内
總段別百五町一段六步

一 禁獵期間

自大正十二年二月一日至同十七年一月三十一日

(大正十二年八月八日
岐阜縣告示第三〇六號)

一 禁獵區域

第三編 保安 第六章 產業 第六款 狩獵

千四十五

第三編 保安 第六章 産業 第六款 狩獵

千四十六

惠那郡坂下町字高峯山ノ内

地番 段 別

- 五一四五ノ一 百九町三段九畝二十四步
- 五一四六ノ一 百六町步
- 五一四六ノ二 三町四段步

總段別二百八十八町七反九畝二十四步

一 禁獵期間

自大正十二年八月一日至同十七年七月三十一日

(大正十四年七月八日 岐阜縣告示第二百一十一號)

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一 禁獵區域

岐阜縣山縣郡高富町字日洞一圓 山林七十一町八段步

一 禁獵期間

自大正十四年七月八日 至同二十一年七月七日 七箇年間

(大正十五年三月十三日 岐阜縣告示第九十七號)

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一 禁獵區域

岐阜縣稻葉郡方縣村一圓

一 禁獵期間

自大正十五年四月三十一日 至大正二十二年三月三十一日 七箇年間

(大正十五年六月二日 岐阜縣告示第百六十六號)

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一 禁獵區域

岐阜縣羽島郡川島村一圓

一 禁獵期間

自大正十五年六月一日 至大正二十二年五月三十一日 七箇年

(大正十五年十一月十七日 岐阜縣告示第五百四號)

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一 禁獵區域

本巢郡根尾村ノ内 大字奥谷、同口谷

同 東坂屋ノ内 字尾開谷

同 大井ノ内 字脇津、降り尾、西ノ谷、品ヶ原、糠塚大谷筋、村出、柿ヶ平、鰻尾、中野

以上一圓總面積 千八百八十八町九段三畝十二步

一 禁獵期間

自大正十五年十一月二十日 至大正二十二年十一月十九日 七箇年間

第三編 保安 第六章 産業 第六款 狩獵

千四十七

銃獵禁止區域設定

(明治三十四年十月十六日 設定)

一 禁止區域

養老郡池邊村上多度村下多度村ニ跨ル下池及其ノ周圍三百間以内

(大正十三年十一月二十六日 岐阜縣告示第四百四十七號)

〔沿革〕大正一五年一月告示第一五號改正

狩獵法第十條ニ依リ左ノ場所ニ於テ銃獵ヲ禁止ス

一 銃獵禁止ノ區域

惠那郡蛭川村大同電力木曾川大井發電所堰堤ヨリ上流、中津町ヨリ苗木町ニ通スル玉藏橋ニ至ル木曾川流域、付知川ハ河口ヨリ上流苗木町ヨリ福岡村ニ通スル知原橋ニ至ル流域及兩川共其周圍百間以内

一 銃獵禁止期間

自大正十三年十二月一日 滿十箇年間
至大正二十三年十一月三十日

獵區設定

(大正十一年十二月四日 農商務省告示第三六一號)

- 一 獵區ノ名稱 揖斐郡大和横藏村兩村聯合獵區
- 二 事務所ノ位置 同村大和村役場
- 三 獵區ノ區域 大和村大字極樂寺同上方同若松一圓横藏村一圓
- 四 獵區ノ存續期間 自大正十一年十二月四日 至同二十一年十二月三日

(對農商務省告示第六十六號 大正十五年六月二日)

- 五 入獵承認料 一人一日金二圓
- 六 制 限 十番以上ノ大口徑銃、五連發銃及網六反以上竝獵笛ヲ使用スルコトヲ得ス 雌雄ヲ捕獲スルコトヲ得ス

雌雄ヲ捕獲スルコトヲ得ス

(大正十二年四月十三日 農商務省告示第八六號)

- 一 獵區ノ名稱 不破郡岩手村獵區
- 二 事務所ノ位置 同郡同村役場
- 三 獵區ノ區域 同村一圓
- 四 獵區ノ存續期間 自大正十二年四月十三日 至同二十二年四月十二日
- 五 入獵承認料 一人一日金二圓
- 六 制 限 十番以上ノ大口徑銃、五連發銃及銃器以外ノ獵具竝獵笛ヲ使用スルコトヲ得ス 雌雄ヲ捕獲スルコトヲ得ス

雌雄ヲ捕獲スルコトヲ得ス

(大正十二年十月二十四日 農商務省告示第二五〇號)

- 一 獵區ノ名稱 揖斐郡小島村獵區
- 二 事務所ノ位置 同郡同村役場
- 三 獵區ノ區域 同村一圓
- 四 獵區ノ存續期間 自大正十二年十月二十四日 至同二十二年十月二十三日
- 五 入獵承認料 一人一日金二圓
- 六 制 限 イ、獵具ハ銃器ニ限リ十番以上ノ大口徑銃及五連發銃ヲ使用スルコトヲ得ス

ロ、雌雉ヲ捕獲スルコトヲ得ス
ハ、笛獵ヲ爲スコト及一人ニテ三頭以上ノ獵犬ヲ使用スルコトヲ得ス

(大正十三年十二月十七日
農商務省告示第二百七十九號)

岐阜縣養老郡多良村申請獵區設定並狩獵法施行規則第二十四條ニ依ル制限ノ件大正十三年十二月十五日左ノ通認可セリ

- 一 獵區ノ名稱 岐阜縣養老郡多良村獵區
- 二 事務所ノ位置 岐阜縣養老郡多良村役場
- 三 獵區ノ區域 岐阜縣養老郡多良村ノ内大字前ヶ瀬ヲ除キタル地域一圓
- 四 獵區ノ存續期間 自大正十三年十二月十七日
至大正十三年十二月十六日
- 五 狩獵法施行規則第二十二條ノ承認料額 一人一日金貳圓
- 六 狩獵法施行規則第二十四條ニ依ル制限
 - イ、鹿ノ捕獲ヲ禁止ス
 - ロ、一人一日雉、鷓鴣合計十羽以上捕獲スルコトヲ禁止ス
 - ハ、甲種獵具及十番以上ノ大口徑銃並一人三頭以上ノ獵犬ノ使用ヲ禁止ス
 - ニ、養利山(面積六百町步)ニ於テハ鳥獸ノ捕獲ヲ禁止ス

● 獵銃射擊場設定

稻葉郡日野村字舟伏山々林内百二十坪

(大正九年十月二十九日
指令保第一〇五〇九號)
岐阜縣獵友俱樂部主幹篠田一願出

土岐郡多治見町字龍洞山林二百坪

(大正十年九月
指令保第七七〇三號)
多治見獵友會長山田晋二願出

安八郡神戸町大字神戸小字堤外揖斐川通河川敷地内ノ河原九十坪

(大正十二年二月二十四日
指令保第三二四號)
大安獵友會長伊藤基樹願出

稻葉郡北長森村大字北一色字香掛地内百二十坪

(大正十二年四月二十一日
指令保第一九八三號)
岐阜獵友會長五島周太郎願出

● 捕獸器取締ノ件

今般左記兩名ヨリ輸入販賣ニ係ル米國製捕獸器(Animal Traps)ハ狩獵法第十五條ノ危險ナル器ノ部類ニ屬スル疑アルヲ以テ右ニ該當スルヤ否ヤ危險ナラスト認定相成候ハハ各府縣ニ通牒アリ度旨願出ニ對シ農商務省ニ於テハ開キタル民ノ長徑三寸五分以下ノ「ピクタートラップ」及同四寸以下ノ「ジャンプトラップ」即チ兩式共ニ零號及一號ヲ除クノ外ハ狩獵法第十五條ニ依リ取締ヲ要スルモノト決定相成候趣ニ候條此旨及通達候也

左記

一 願出人 神奈川縣橫濱市住吉町一丁目 吉川 米次郎

第三編 保安 第六章 産業 第六款 狩獵

同 市相生町二丁目 阿部 孝一

一 捕獸器

ビクダートラツプ 開キタル鼠ノ直徑	ツヤンプトラツプ 開キタル鼠ノ直徑
零號 三吋二分ノ一	零號 四吋
一號 四吋	一號 四吋四分ノ三
一號半 四吋八分ノ五	一號半 五吋四分ノ一
二號 四吋八分ノ五	二號 五吋四分ノ三

● 危険ナル鼠ニ關スル件

(大正十二年三月十七日 保第一二三〇一號)

從來山間部ニ於テ猛獸類捕獲ノ爲メ行ハルル左記構造ノ壓ト稱スル獵具ハ狩獵法第十五條ノ危険ナル鼠ニ該當スルヲ以テ充分取締相成度此旨及通牒候也

左記

- 一 長サ六尺以上ノ丸太(末口三寸位)等ノ材木十數本ヲ竝ヘ藤蓆等ニテ頑固ニ組合セ篋様ノモノトシ其ノ幅ハ四尺内外アリ其上ニ岩石十數個重量凡百四五十貫位ヲ載ス前方入口ノ高サ四尺以上アリ後方ハ地上ニ密著ス其下ニ肉片ヲ餌トシテ置クトキハ獸類入り來リテ餌ヲ引クト同時ニ右重量ノモノ落下シ壓殺サルルニ至ルモノ

● 狩獵願書ニ關スル件

(大正十五年十二月二十二日 保第一五二二七號)

- 一 狩獵免許願書ハ願人ニ於テ收入印紙ヲ貼付シ差出スヘキハ狩獵法ノ示ス處ナルニモ不拘印紙拂底等ノ場合ニ便宜上一時現金ニテ受理シ警察署ニ於テ印紙ヲ調達スル向アルヤニ及聞候如斯ハ繁雜ニ流レ種々弊害ノ伴フ虞アルヲ以テ將來

- ハ必ス印紙貼用ノモノヲ受理セラレタシ
- 二 保存期間中ノ狩獵免許願書綴ハ署長ノ手許ニ於テ保管スルカ其他適當ノ方法ニテ嚴密ニ保管セラレヘシ
- 三 狩獵免許願書綴ハ一ケ年保存ニテ狩獵期間ノ終了ノ翌日即チ四月十六日ヨリ翌年四月十六日迄カ保存期間ナルヲ以テ其翌日四月十六日ニ於テ該願書綴ヲ署長立會ノ上焼却シ客年五月十八日保親第二九號ニ基キ今後嚴重執行ノ上報告セラルヘシ

● 狩獵免狀下附ノ件

(大正十五年八月三十日 保第一〇九七三號)

狩獵免狀下附方左記ノ通ニ候條及通知候也

左記

- 一 狩獵ハ住所ニ於テ免許ヲ受クヘキコトハ法ノ示ス處ニシテ住所トハ一定ノ住所ト解スヘキモノナレハ一定ノ住所ナキ流浪中ノ坑夫等ノ如キモノカ一時狩獵期ニ於テ工事等ニ雇ハレ其ノ部内ニ在リト雖モ住所ト見ルコトヲ得サルヲ以テ免狀下附セサルヲ可トス
- 一 本年度ヨリ狩獵免狀番號ノ上ニ警察署ノ地名ヲ記入シ甲乙種別ニ其署ニ於テ左表ノ如ク番號ヲ記入セラレタシ

大垣 第一號

甲種 狩獵 免狀	乙種 狩獵 免狀
三等	三等

多治見 第一號

甲種 狩獵 免狀	乙種 狩獵 免狀
三等	三等

- 一 免狀下附ノ際ニ願人ニ對シ免狀返納期ニハ同時ニ捕獲届ヲ失念セサル様周知セシメラレタシ
- 一 毎年十一月末日現在ノ免狀下付數ヲ十二月十日迄ニ報告スヘシ

●狩獵免狀取扱ニ關スル件

(大正十五年十一月九日 保第一三四七三號)

狩獵免狀ニ關シ左ノ通取扱ハルヘシ

左記

- 一 狩獵免狀受拂報告書ハ毎年四月二十日迄ニ提出セラルヘシ同免狀ノ殘部(書損等ヲ含ム)モ同時ニ返納ノコト
 - 二 各狩獵者ヨリ返納セシ免狀ハ毎年五月末日迄ニ取纏メ提出セラルヘシ
 - 三 大正十四年度以前ニ配付セシ免狀ノ殘部(書損ヲ含ム)及同年度以前ニ各狩獵者ヨリ返納セシ狩獵免狀アラハ此際全部提出セラルヘシ
- 既ニ燒却済ノモノハ其旨報告ノコト

●狩獵免狀ニ關スル件

(大正十二年二月十九日 保第八九五號)

狩獵免狀ハ出獵ノ際必ス携帯スヘキ關係上遺失スルモノ多ク大正十年度ニ於テ遺失セルモノノ數八十三枚ニ及ヒ其内免狀返納期ニ至リ遺失届ヲ爲シタルモノ四十七人有之推測スルニ既ニ狩獵期中ニ遺失セルヲ知り乍ラ再下附ノ手續ヲ厭ヒテ之ヲ秘シ居リ返納ノ止ムナキニ至リ遺失届ヲ爲スノ疑有之候條狩獵期間中ニ狩獵者ニ就キ免狀ノ有無取調方一層勵行相成様致度此旨及通達候也

●狩獵免狀及鳥獸捕獲許可證亡失ノ際公告ノ件

(大正十年六月十八日 農第八七五六號農務局長通牒)

狩獵法施行規則第九條第二項ニ依リ地方長官ノ爲ス公告ハ從來官報ニ依リタル向多キモ近來官報掲載事項増加シ適當ノ時期ニ於テ掲載スルコト困難ナルヲ以テ爾今貴廳ニ於テ官報以外ノ適當ノ方法ニ依リ公告相成度依命此段及通牒候也

●狩獵鳥獸捕獲届ニ關スル件

(大正十二年九月二十日 無號)

本縣令第四十二號狩獵法施行細則第四條ノ二ニ依ル鳥獸捕獲ノ届出ニ關シテハ既ニ前年度ニ於テ正確記入方ニ就テ御高配ノ事ト存候ヘ共尙本年ハ左記各項ニ御注意ノ上狩獵免狀下附ノ際說示相成様致度此段通牒候也

追テ届出用紙ハ獵期中適當ノ時期ニ於テ狩獵人員ニ應シ發送仕ルヘク申添候

左記

- 一 届出ニ關シテハ本縣内ニ於ケル鳥獸ノ分布棲息ノ多少並ニ狩獵ニ依ル生産價值ヲ知ラント欲スルモノニシテ税額ノ増徴、狩獵期間ノ短縮問題等ニハ更ニ關係ナキヲ以テ誤解ナキ機説示相成タシ
 - 一 獵具ノ種類並ニ捕獲狩獵鳥獸ハ成ルヘク届出用紙記載例ニ注意ノ上記入セシメラレタキコト
 - 一 止ムテ得サル場合ノ外代筆セシメス成ルヘク本人ニ記入届出テシムルコト
 - 一 同一人ニテ二ツ以上ノ獵法ニテ鳥獸捕獲ノ場合ハ獵法ヲ一々記入セシメラレタキコト
- (例セハ露網ト共ニ高篠子本篠或ハ兎罟等ヲ使用シ鳥獸ヲ捕獲スル如キ場合)

●狩獵取締ニ關スル件

(大正九年二月二十八日 保第三三七一號警察部長通牒)

舊狩獵法施行規則第二十八條ニ依レハ雉、鷓雉ハ三月一日ヨリ十月三十一日迄捕獲ヲ禁セラレ居リ候處新狩獵法施行規則第二條ハ雉、鷓雉ノミナラス獸類ノ内貍、類、羚羊、狐、鹿、狸、貂、鼯鼠、獺、栗鼠ヲモ狩獵期間ハ十二月一日ヨリ翌年二月末日迄ト限定セラレ其理由ハ鳥獸ノ蕃殖保護ヲ目的トセラルルモノニ有之近時鳥獸ノ數大ニ減少スルニ到リ其ノ取締ヲ必要ト認メラレ候條三月一日以後該鳥獸ヲ捕獲スルカ如キコトナキヤ嚴重取締ノ上法ノ目的ヲ達スルニ努メラレ度此旨及通牒候也

(大正九年四月七日 保第三五三二號警察部長通達)

狩獵取締ニ關シテハ最近及通牒候處依然密獵ヲ敢テ爲スモノ少カラス殊ニ狩獵法施行規則第二條ニ依リ制限シタル獸類ハ昨今毛皮ノ價格暴騰シ昨年ノ二倍乃至三倍ヲ示シ居ルヲ以テ密獵者多ク甚數ハ爆發物(方言ハツバ)ヲ使用セルモノアルヤニ聞キ及ヒ候右獸類ハ森林業上有益ナルノミナラス毛皮獸トシテ貴重ナル獸類ニ有之候而シテ狩獵期以外ニ採取シタル毛皮ハ品質粗惡ニシテ毛皮ノ利用トシテ適當ナラサル義ニ付一層嚴重ノ取締ヲ勵行セラルヘク其筋ヨリ通牒有之候條此旨及通達候也

(大正九年九月二十二日 保第九四三五號)

狩獵取締上ノ必要事項左ノ通り及通牒候也

記

- 一 散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃トハ藥莢ヲ用ヒ數十個ノ彈丸カ空氣ノ壓搾力ニ依リ一時ニ迸出スル銃ノ謂ニシテ數個ノ彈丸ヲ裝填シ發射シ得ルモ單ニ一個而已效力ヲ有スル單發空氣銃ハ狩獵法施行規則第四條一號後段ノ銃ニ該當セス

二 狩獵免狀ヲ受クヘキ場所ハ本籍地ニ非スシテ現住所タルヘキコトハ狩獵法施行規則第五條ニ據リ明カナリ

三 狩獵行爲トハ法定ノ獵具ヲ使用シテ野生ノ鳥獸ヲ捕獲スルモノノ謂ニシテ獵具ノ使用ナル行爲若ハ捕獲ナル行爲モ亦狩獵行爲ナリ故ニ網ヲ手傳フテ張ル場合ハ使用ナル行爲ノ一部ニシテ網ニ罹レル鳥獸ヲ手傳フテ捕獲スル場合ハ捕獲行爲ノ一部ヲ分擔スルモノナレハ之等ノ補助者ハ其免狀ヲ携帯セサルヘカラス然リト雖モ所謂勢子ト稱スルモノニシテ狩獵ノ補助行爲ヲ爲スモノナルモ直接ニ獵具又ハ捕獲ニ從事セスシテ單ニ鳥獸ヲ追ヒ出スニ過キサルヲ以テ默認ニ附セラルルモ差岡ナシ

四 狩獵法施行規則第一條ノ獵鳥中括弧内ノ保護鳥ノ略解

瑠璃椋鳥、體ノ上部瑠璃色ニシテ鹿兒島縣奄美大島ニ栖息シ本洲ニ栖息セス、星鴉、頭部ノ邊ニ白キ星ノ如キ斑點アリ本洲ニ栖息スルモ其數甚タ少シ、虎鶉、全身ニ虎ニ似タル半月形ノ斑點アリテ普通ノ鶉ヨリ稍ヤ大ナリ、黑鶉、雄ト雌ト著シク羽色ヲ異ニス雄ハ體ノ上部及喉胸ニ互リ黑色ニテ腹ハ白色ナリ雌ハ普通ノ鶉ノ如ク體ノ上面橄欖色ヲ負ヘル褐色ニシテ兩翼ノ裏面ハ黃色、體ノ下面ハ雌雄共ニ白地ニ三角形ノ黑點アリ

五 捕獲サレ易キ保護鳥略解

赤腹、體ノ上部橄欖褐色ニシテ脇及腹ハ濃キ狐色也
椋鳥、體ノ上部及胸部黑色ニシテ嘴及脚ハ黃色也

六 和名ノ混同サレ易キ獸類

獺ハ胸ニ月ノ輪ヲ有スル熊トハ全然種類ヲ異ニシ體軀ハ矮少ニシテ爪ハ著シク鉤曲シ穴ヲ掘リテ栖息スル獸ニシテ狸ヨリ稍ヤ大ナリ

七 (削除)

八 狩獵免狀ノ紛失漸次増加ノ傾向アリ惡辣ナル狩獵者ニシテ初メ下附ヲ受ケタル免狀ヲ濫ニ他人ニ交付シ紛失セリト詐リテ再下附ヲ受ケ巧ミニ税金ヲ二人ニテ分擔スルモノ他縣ニハ不熟趣キニ付キ紛失届出人ニ對シテハ特ニ注意ヲ要ス

九 雉、鶇、鴨、鵝、三月頃營巢ヲ初メ八九月頃巢立スルモノ普通ナリト雖モ地上ニ營巢スル爲メ他ノ敵鳥獸ニ襲レ易ク爲メニ

數回ノ産卵ヲ爲シ九、十月ニ至リ漸ク雛ヲ連レテ徐々ニ暖地ニ移動スルモノ多ク此親子群集スル九、十月ニ於テ捕獲

スルハ最モ容易ナレハ隨テ密獵者モ此季節ニ多キモノノ如シ(雉、鶇、鴨、鵝ノ狩獵期間ハ十一月ヨリ二月迄ノ四ヶ月)

一〇 保護鳥タル椋鳥ハ十一、十二、一月頃盛ニ大數群集スル習性アリテ最モ捕獲シ易キ季節ナルヲ以テ燒鳥ト稱シテ此

季節ニ料理等ノ食料ニ上ルモノ多シト謂フ

一一 或ル獵友會員ノ言ニヨレハ十數年前ヨリ乙種免狀ヲ受ケ出獵スルモノ一度モ免狀又ハ鳥獸ノ検査ヲ受ケタルコトナシ

ト云フ此言信シ難シト雖モ今後職務上狩獵者ニ邂逅セシ場合ハ免狀ハ勿論捕獲鳥獸ヲ嚴重ニ検査アリタシ保護鳥獸ニ

疑ハシキモノヲ領置セシ場合ハ獵夫ヲシテ騰ヲ取り去ラシメテ鑑定ノ爲メ送附サルルトキハ腐敗スルコト尠シ

一二 愛玩用飼養ノ爲メ鳥獸又ハ雛卵ノ捕獲採取ヲ許可スヘキ標準左ノ如シ

捕獲者ハ性行善良ニシテ曾テ狩獵法關係法規ノ前科ナキモノニシテ賣買ヲ營業トスル疑ナク自家飼養ヲ目的トスルモ

鳥獸ハ一種類ニ就キ二匹以内卵ハ三個以内トス(同一種類ヲ現ニ飼養スルモノハ其種類而已許可セス)

捕獲期間ハ半ヶ月以内

十三 有害鳥獸驅除ヲ許可スヘキ標準左ノ如シ

捕獲者ハ性行善良曾テ狩獵法令ノ前科ナキモノ

被害アル場合

鳥獸ノ種類ハ主トシテ野猪、野兔、雀類トス

捕獲期間ハ一ヶ月以内トス

捕獲時期 獸類ニ就テハ狩獵期間外ノ時期トシ鳥類ニ就テハ二百十日ヨリ狩獵ノ初期迄ノ時期トス

鳥類ニ就テハ其ノ年威銃執行ノ效ナキ場合(普通雀ニ就テハ威銃執行ノ有無ヲ論セス)

被害ノ其大ナル場合ニハ前項ノ制限ニ不拘實地再調ノ上捕獲ヲ許可スルコトアルヘシ

一四 多數ノ保護鳥獸ヲ捕獲セルモノヲ檢舉シ又ハ狩獵法第十五條ノ犯罪ニシテ重要ト認ムヘキ違反者ヲ檢舉セシモノニ

ハ賞與ヲ爲スコトアルヘシ

大正十年十二月二十二日
保第一二六九四號

狩獵取締ニ關シテハ各警察官ノ活動ニ俟ツノ外一般ニ對シ野生鳥獸愛護思想ノ喚起ニ努メ各自ヲシテ自治的ニ法令ノ實行
ヲ要シ候得共未ダ其觀念ニ乏シク依然密獵ヲ爲スモノ不尠ヤニ聞及ヒ候ニ付時恰モ狩獵期ノ酣ニ有之候條左記事項ニ付キ
嚴重取締相成度候也

記

一 獵裝シタルモノニ出逢ヒタルトキ又ハ銃聲ヲ聞キタル場合ニハ免狀竝ニ捕獲鳥獸ノ検査ヲ行ヒ鳥獸ニシテ禁鳥獸ナル

ヤ狩獵鳥獸ナルヤ疑ハシキモノアルトキハ現物ヲ假領置ノ上其旨主務課ニ通報スルコト

一 銃砲火藥類ノ販賣ニ注意シ殊ニ營業者ニ於テ火藥類購求者ニ對シ狩獵免狀又ハ許可證ノ所持ヲ確メスシテ内々火藥類

ヲ販賣スルモノナルヤ殊ニ鷄冠石、鹽酸加里ヲ買入ルル煙火製造人ハ之ヲ爆藥ニ使用シ又ハ讓渡スコトナキヤニ注意

スルコト

一 昨年又ハ其以前ニ免狀ヲ受ケタルモノノコシテ本年之レヲ受ケサルモノノ行動ニ注意スルコト

一 獵期中ハ特ニ山間部地方ノ戸口調査ヲ行ヒ銃器其他獵具ヲ所持スルモノアルヤ否ヤヲ視察シ所持スルモノアラハ其舉

動ニ注意スルコト

一 野生鳥獸商又ハ料理屋割烹店其他特種部落或ハ鷄肉商ニ付キ野生鳥獸ノ取引先ニ注意スルコト

一 歴シ又ハ箱落ニテ聽ノ捕獲ヲ爲サン爲メ密カニ各所ニ配置スルモノアルヤノ聞ヘアリ注意ノコト

一 雉ヲ獵期明クノ三月以後ニ於テ笛ニテ呼ビ密獵ヲ爲スモノ多キ爲メ近年著シク同鳥ノ減滅ニ類シタル狀況アルヲ以テ

- 三月以後ノ出獵者ニ對シテハ捕獲鳥獸ノ検査ニ最モ注意スルコト
- 農業上ニ害ヲ爲ス猪、兔、鳥、雀ニ就テハ此獵期中ニ狩獵者ヲシテ捕獲スルコトニ各狩獵會及各農會ニ注意シ獵期以外ニハ該驅除ノ必要ナキニ至ラシムルコト
- 狩獵期外ノ威銃ハ散彈ヲ込メテ夏獵ヲ爲スノ疑アルヲ以テ可成此時期ニ驅除セシメテ威銃ヲ爲スモノナキニ至ラシムルコト

●御獵場、御料地ニ於ケル有害鳥獸驅除方

(明治三十四年七月十日 農商務省訓令第一五號)

御獵場、御料地若クハ御料牧場ニ於ケル有害鳥獸ノ驅除ニ付テハ宮内省主獵(局長)、「御料」局長若クハ主馬頭ヨリ照會アリタルトキハ狩獵法施行規則第二十三條第二項ノ期間内ニ於テ其照會ニ應スヘシ此場合ニ於テ同規則第二十六條第一項ノ報告ハ御獵場ニ在リテハ該場監守長、御料地ニ在リテハ「御料」局長、同局支廳長、若クハ事務所長、御料牧場ニ在リテハ該牧場長ヨリ之ヲ受ケヘシ

●御料地除害鳥獸獵鑑札紛失届出ニ對スル取扱方

(明治三十四年十二月二十日 通達保第四一〇一號)

御料地除害鳥獸獵鑑札盜難又ハ遺失ニヨリ同職員ヨリ届出ヲ受ケタルトキハ當部ヘ報告セラルヘシ

明治三十四年十二月十八日 御料局名古屋支廳長照會

貴縣ハ御料地内有害鳥獸驅除ニ從事ノ職員ニハ御料地除害鳥獸獵鑑札下渡相成居候處右盜難ニ罹リ又ハ之ヲ遺失シタル場

合ニハ速ニ携帶者ヨリ御所轄警察署ヘ届出候ニ就テハ其届出ニヨリ該鑑札ハ爾後無効ノ旨御管下ヘ公示方御取計ヲ相煩ハシ候様致度此段及御依頼候也

●外國人ニ對スル狩獵免狀下付方

(明治三十七年二月 通達保第六八九號)

外國人ニ對スル狩獵免狀下付方ノ件ニ付キ別記之通り農務局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ラルヘシ 農發第九號

本邦ニ一時滞在スル外國人ニシテ狩獵免狀ノ下付ヲ願出ツルトキ狩獵法第十一條ニ定ムル租稅ヲ納メサルコト明瞭ナル場合ニハ同法施行規則第二條第二項ノ證明書ヲ願書ニ添附セシムルコトヲ要セサル義ニ付御了知相成度此段依命及通牒候也 明治三十七年二月十七日

農商務省農務局長農學博士 辰 田 常 明
岐阜縣知事川路利恭殿

●狩獵出願者納稅方ノ件

(明治三十四年九月十八日 岐阜縣訓令第四十五號)

明治三十四年(六月)農商務省令第七號狩獵法施行細則第二條第二項ニ依リ狩獵出願者ヨリ納稅額ノ證明ヲ請フ者アルトキハ市町村役場ニ於テ調査ヲ遂ク證明スヘシ

●狩獵法第十一條ノ納稅額算出方ノ件

(明治三十四年十月二十八日 通達保第三五八八號)

警部長ヨリ各署長ヘ
狩獵法第十一條ニ規定スル納稅者及ヒ其家族ニ對スル適用上ニ就キ今回別紙ノ通り農務局長ヨリ通牒有之候條爲念及通達候也

農發第一五八號(明治三十四年十月二十五日農務局長通牒)

狩獵法第十一條ニ規定セル所得稅云々ヲ納ムル者又ハ其ノ家族ノ適用ニ就テハ往々御問合セノ向モ有之右ハ左記ノ通り御承知相成度此段爲念御通牒候也

- 一 狩獵法第十一條ノ所得稅納稅額ハ假令戶主及家族カ合算シテ納稅スル場合ト雖モ分割シテ計算スヘシ例之ハ戶主ノ所得稅ハ六拾圓ニシテ家族ノ所得稅ハ四拾圓ナルトキ之レテ合算スレハ百圓トナルヲ以テ一等ニ該當スヘキモ分割シテ計算スルヲ以テ戶主及家族ハ二等免狀ヲ受クヘシ又戶主ノ所得稅ハ貳圓ニシテ家族ノ所得稅ハ壹圓ナルトキハ前例ノ如ク分割シテ計算スヘキニ依リ戶主及家族ハ三等免狀ヲ受クヘシ
- 一 戶主ノ所得稅納稅額ト家族ノ所得稅納稅額カ異ナル場合ニ於テ戶主ノ納稅額カ家族ノ納稅額ヨリ多キトキハ家族ノ免狀ハ戶主ノ納稅額ニ依リテ等級ヲ定メ家族ノ納稅額カ戶主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戶主ノ免狀ハ戶主ノ納稅額ニヨリ等級ヲ定ムヘシ假令ハ戶主ノ所得稅ハ百圓ニシテ家族ノ所得稅ハ參圓ナルトキ家族ハ一等免狀ヲ受クヘシ又戶主ノ所得稅ハ參圓ニシテ家族ノ所得稅ハ百圓ナルトキハ戶主ハ二等免狀ヲ受クヘシ
- 一 戶主ト家族トノ何レカノ一カ全ク所得稅ヲ納メサル場合ハ前項ニ準ス例之ハ戶主カ所得稅百圓ヲ納メ家族カ所得稅ヲ全ク納メサルトキハ家族ハ一等免狀ヲ受クヘシ之レニ反シ家族カ所得稅百圓ヲ納メ戶主カ全ク所得稅ヲ納メサルトキハ戶主ハ三等免狀ヲ受クヘシ

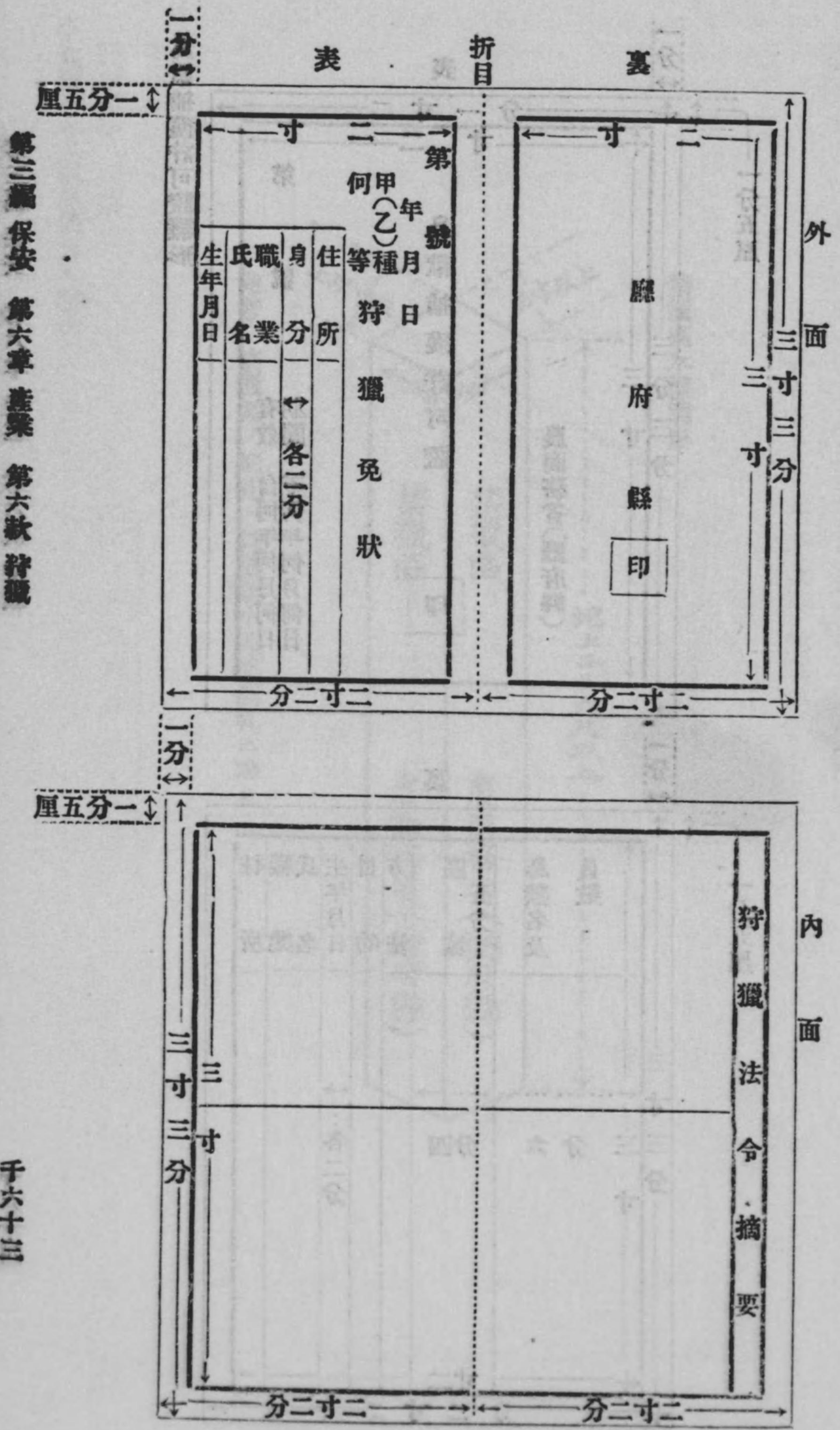
●狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票雜形

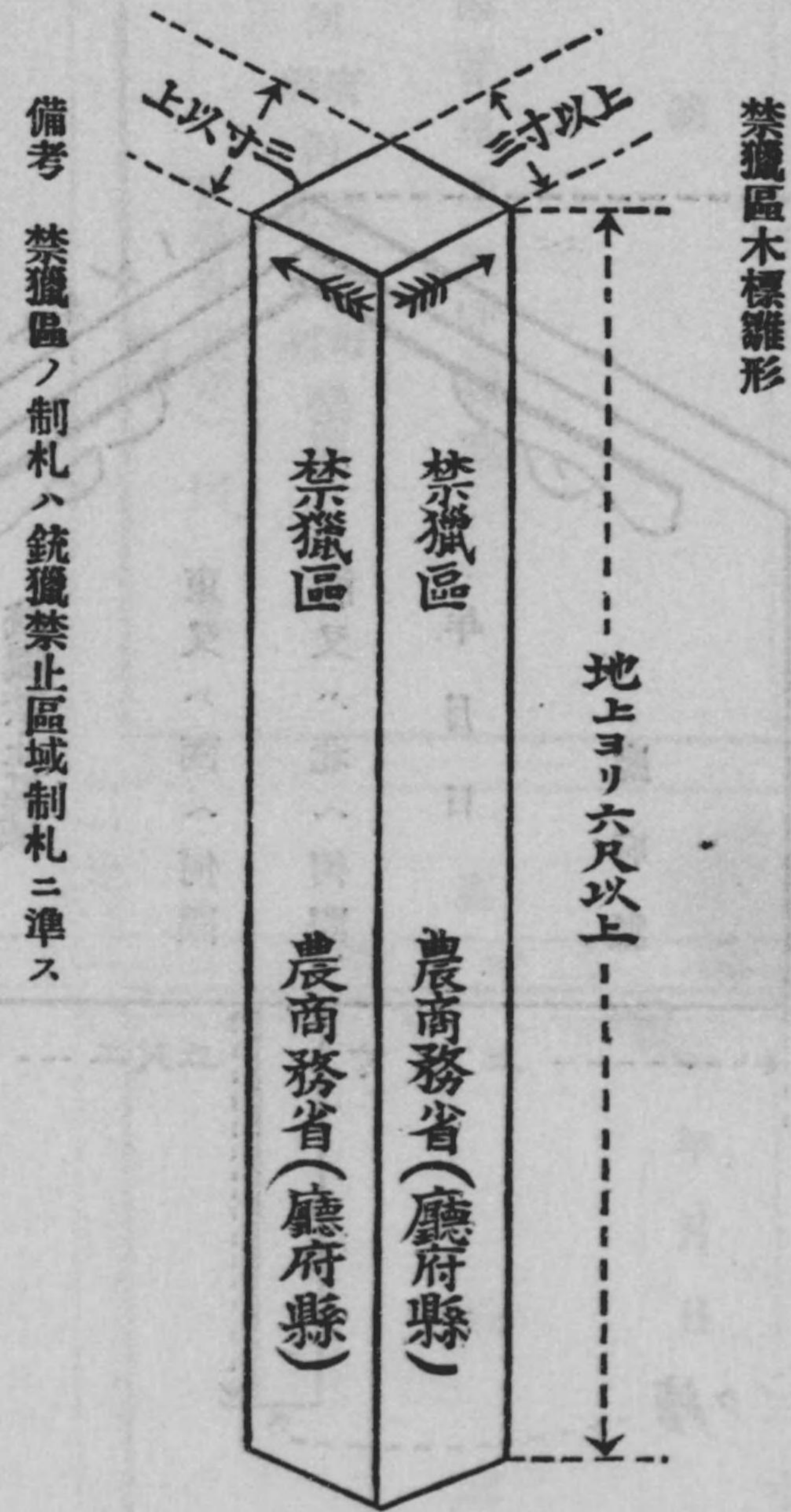
附註 大正一〇年三月農發第三三號改正

(大正八年八月十八日農商務省告示第二百二十號)

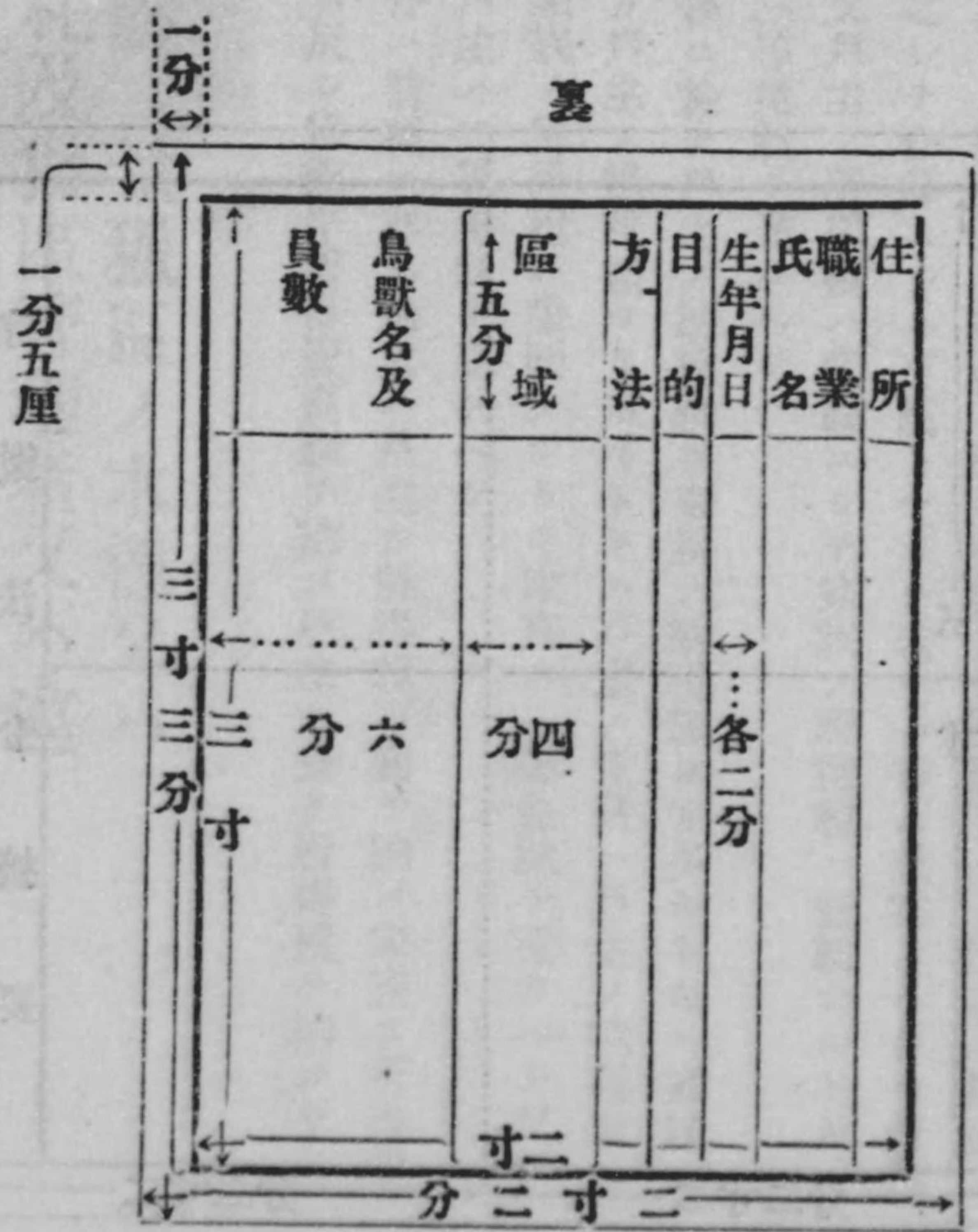
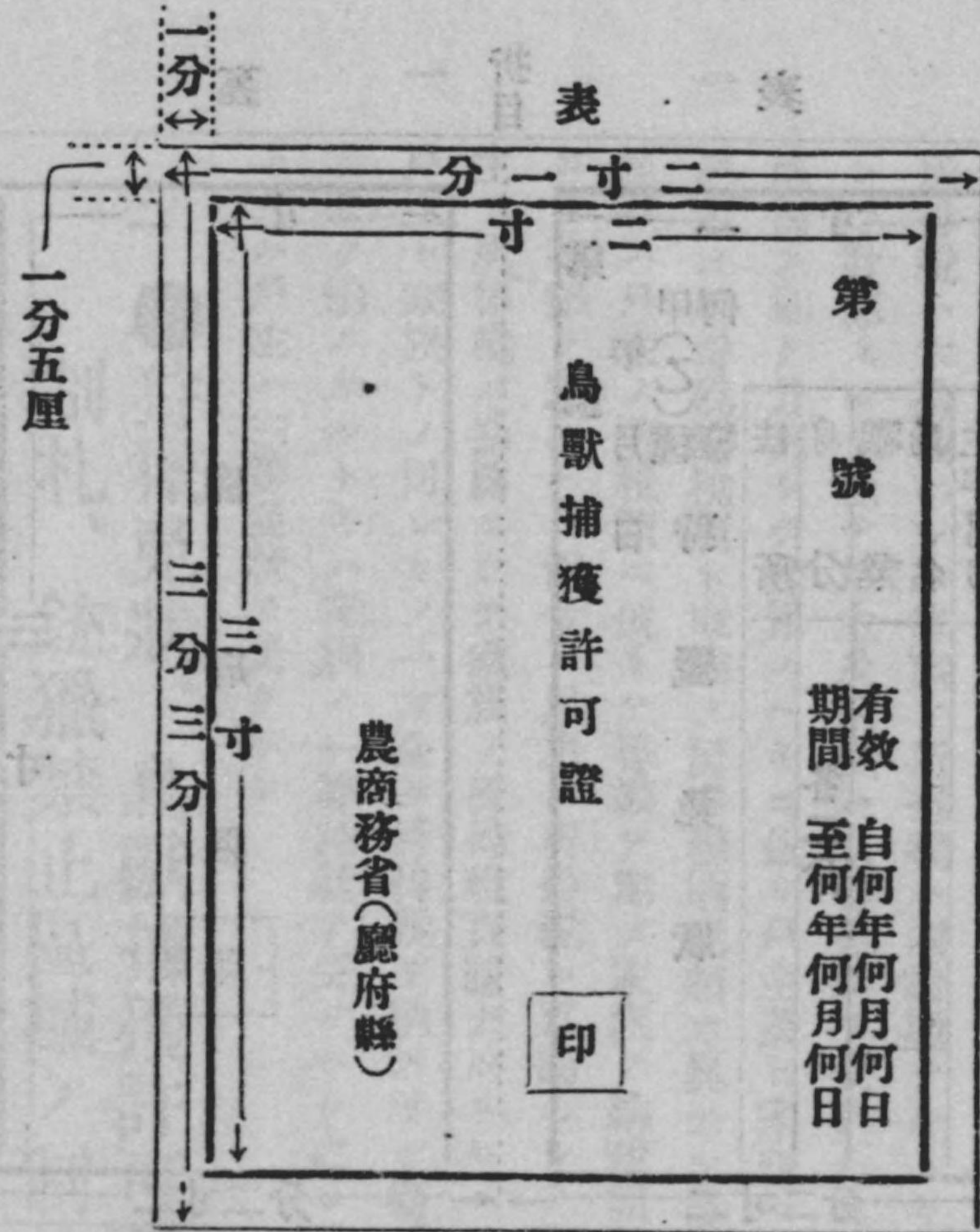
狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票ノ雜形

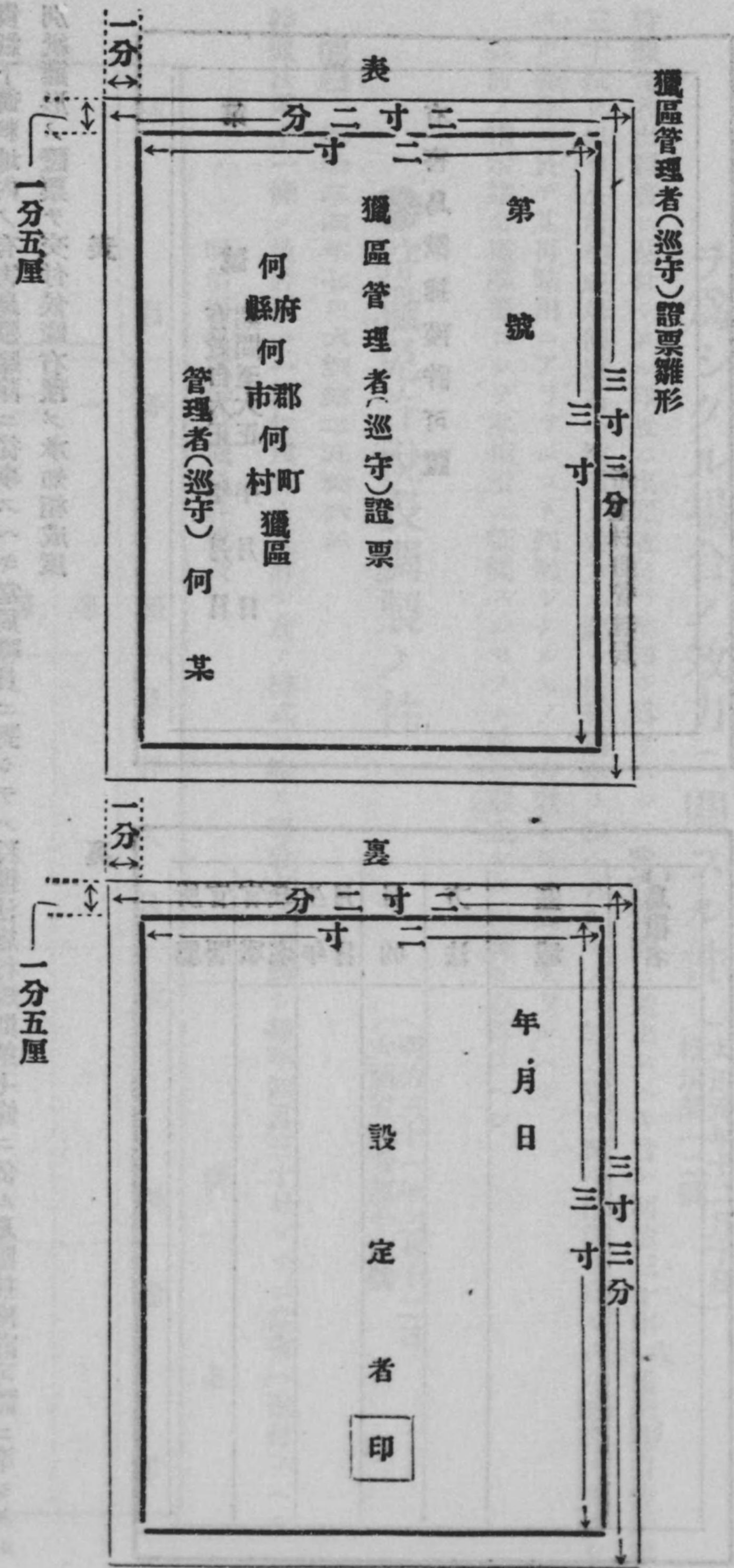
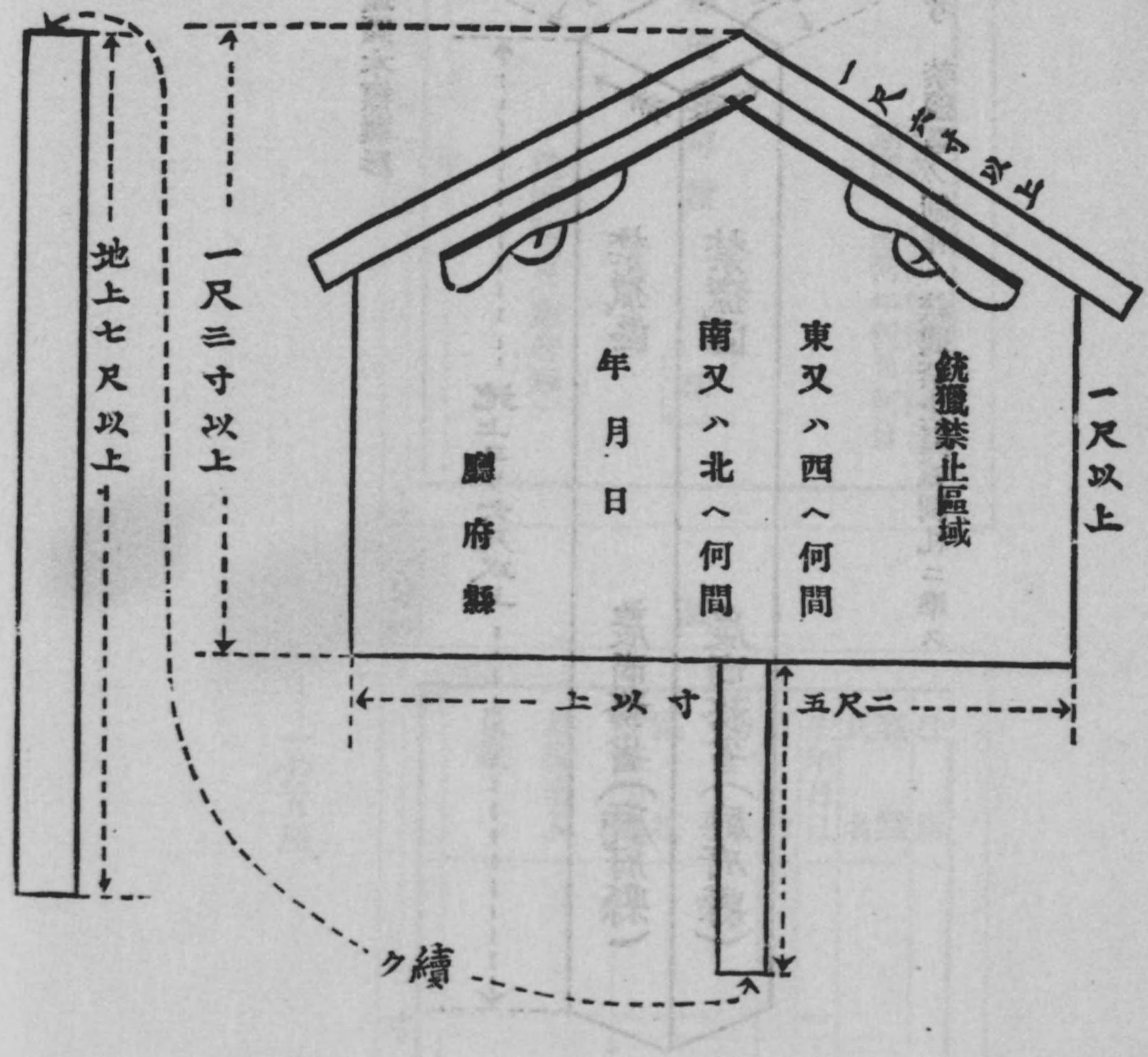
左ノ通定ム
狩獵免狀雜形(甲種ハ綠色、乙種ハ白色)





鳥獸捕獲許可證雜形





合 計	乙 種		
	計	一	二
		等	等

右報告候也

年 月 日

官 氏

名 印

一 法第十六條該當ノモノハ甲種又ハ乙種ノ一等ニ編入シ其備考欄ヘ「内何人法第十六條該當ノモノ」ト記入ス

ハシ

●狩獵法令違反及過失殺傷調ノ件

(昭和二年二月三日 保第七二號通牒)

大正十五年四月十六日ヨリ昭和二年四月十五日迄ニ於ケル狩獵法及同法施行規則違反事件及銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷事件左記様式ニ依リ本年七月三十一日現在ヲ同八月十日當部著ノ豫定ヲ以テ報告相成度

記

一 狩獵法及同法施行規則違反事件調 自 年 年 至 年 年

警 察 署

違 反 檢 舉	法 條 件 數	處 分		備 考
		警 察 檢 事 局	判 決 (即決)	
		送檢說諭	無罪	
		起訴	二十圓以上三十圓以下	
		起訴不裁	三十圓以上五十圓以下	
		猶豫不裁	五十圓以上一百圓以下	
		無罪	一百圓以上三百圓以下	
		未裁	三百圓以上未決	
計				

備考

右表備考欄ニハ起訴猶豫、不起訴及無罪ノ理由ヲ簡略ニ記載スルコト

二 銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷事件調 自 年 年 至 年 年

警 察 署

計	殺 害		殺 傷 事 由 ノ 概 要
	傷	害	
		殺傷者ノ年齢	

備考 各事件一件毎ニ記載ノコト

●鳥獸類ノ讓渡讓受ニ關スル件

(大正十年二月三日 保第一五六六號警察部長通牒)

狩獵法第十二條ノ許可ヲ得テ捕獲セシ鳥獸類ノ讓渡讓受ハ同第十三條前段ノ如ク禁止セルコト明カニシテ其後段但書ニ於テ警察官署ノ許可スヘキ場合ハ能ク事實ヲ調査シ萬止ムヲ得サル以外ハ容易ニ許可セサル様取扱ハレ度若シ許可ヲ與ヘタル際ハ必ス指令ヲ下附相成度此旨及通牒候也

●有害鳥獸ノ種類ニ關スル件

(大正九年十月二十一日 農第一三六九六號農商務次官通牒)

有害鳥獸驅除ハ往々必要以外ノモノニ付テモ許可セラルル傾アリ爾今左記二十種ノ範圍内ニ於テ個々ノ場合適當ノ種類ノミ許可相成度前記以外ノ鳥獸ニ關シテハ其ノ都度本省ニ照會ノ上許可相成度此旨及通牒候也

記

花雞、椶鳥、河原鷄、輕鴨、鴉、鳩、五位鷺、雀、鳩、鶉、鴨、金翅雀、鷓雉、熊、猪、兔、語鼠、栗鼠、土龍鼠、野鼠

●狩獵及漁業ニ關スル件

(昭和二年一月十二日 警第七九七號)

警察部長ヨリ各課長、各警察署長宛

從來警察官吏ニシテ狩獵免許ヲ得テ狩獵ヲ爲シ或ハ漁業ノ鑑札ヲ受ケ漁業ヲ爲スモノアリシカ爲ニ職務ニ忠實ヲ缺キ執行ヲ怠ルノミナラス往々部民ノ誤解ヲ招ク等其ノ弊害不尠候ニ付爾今警察官吏ハ絕對狩獵又ハ漁業ヲ爲サシメサルコトニセラルヘシ

第七款 漁業

●漁業法

(明治四十三年四月二十一日 法律第五十八號)

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條 公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條 公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條 漁具ヲ設置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條 前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス

民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス

第八條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ト看做ス

第九條 裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當

スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス

第十條 漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面専用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條 入漁權者ハ設定行為又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ専用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ専用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條 入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利目的タルコトヲ得ス

第十四條 入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條 漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 設定行為ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條 入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得
入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス
第二十條 入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政

官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條 水産動物ノ蕃殖保護船舶ノ航行碇泊留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十五條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 免許漁業原簿ノ登録ハ登記ニ代ハルヘキモノトス登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登録シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス
競賣ニ依リ賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定力確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス

第二十八條 漁業權ハ登録シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第二十九條 漁業者ハ左ニ掲グル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

- 一 漁場ノ標識ノ建設
- 二 魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備
- 三 漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條 漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入り漁業ヲ爲スコトヲ得
第三十一條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り支障木竹ヲ伐採シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條 前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 地方長官ハ水産動物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一 水産動物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止

二 水産動物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止

三 漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止

四 漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限

五 水産動物ノ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止

六 水産動物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收竝犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徴ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條 汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條 爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 主務大臣ハ遼河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遼河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十

四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條 漁業ニ従事スル者ノ雇傭並雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條 海軍艦艇乗組將校、警察官吏、港務官吏稅關官吏、又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用ス

第四十二條 一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條 漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同施設ヲ爲スヲ以テ目的トス
漁業組合ハ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル専用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ
組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十四條 漁業組合ハ相互ニ共同シテ其目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合聯合會ヲ設クルコトヲ得
漁業組合聯合會ハ法人トス

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス
第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三
者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、
事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益
ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 決議ノ取消
- 二 役員ノ解職
- 三 組合又ハ聯合會ノ解散

第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ
必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ

三百圓以下ノ科料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百
圓以下ノ科料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ科料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 漁業者又ハ水産動物ノ製造者ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産
業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水産組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條 水産組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組
合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水産組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條 水産組合及水産組合聯合會ハ法人トシ重要物産同業組合法ヲ準用ス

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第
二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタ
リトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ
之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手
續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

- 二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者
 - 三 専用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者
- 前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
- 第五十九條 汽船トロールノ漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業流ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス
- 第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
- 第六十一條 漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カレルコトヲ得ス
- 第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス
- 附則
- 第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 本法ハ鷹虎及鷹豚獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未ダ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ

第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登録シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登録スルコトヲ得ヘキモノニ限り之ニ依リ登録シタルモノト看做ス

第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ専用漁業免許後一年間ニ限り登録ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限り登記ナキモ其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

● 漁業法施行規則

(明治四十三年十一月十二日)

(農商務省令第二十五號)

附則 大正一五年六月農林令第一四號改正

第一章 總則

第一條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一二該當スル場合ニ於テハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一 専用漁業ニ關スルトキ

第三編 保安 第六章 產業 第七款 漁業

- 二 入漁權ニ關スルトキ
 - 三 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
 - 四 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ
- 前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得農林大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ
- 第二條 農林大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第三條 漁業ニ關スル行政行為ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス
- 第四條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ届出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得
- 第五條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス
- 第六條 本則ニ於リ行政官廳ノ爲スヘキ公告ハ慣行ノ公布式ニ依ルモノトス
- 第七條 漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ出願スヘシ
- 願書ニハ左ニ掲ケル書面ヲ添付スヘシ
- 一 許可ヲ受ケムトスル事由書
 - 二 占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面
 - 三 許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面

四 漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意書若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

第八條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ地方長官ハ之ヲ公告シ若シ漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ

第九條 地方長官ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第十條 本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業、專用漁業及特別漁業ヲ謂フ

第十一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ第十四條各號ニ掲ケル漁業ヲ謂フ

第十二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 壘網類漁業 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 二 落網類漁業 落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 三 柵網類漁業 側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 四 建網類漁業 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 五 出網類漁業 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 六 張網類漁業 壘網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ
- 七 魚籠類漁業 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ養若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤ヲ建設シテ陷穽ノ裝置若ハ魚罾ヲ設ケルモノ

第十三條 區劃漁業ノ種類左ノ如シ

第三編 保安 第六章 産業 第七款 漁業

- 一 第一種 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ築ヲ建設シテ爲ス養殖業
 - 二 第二種 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
 - 三 第三種 前二種ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
- 第十四條 左ニ掲クル漁業ハ行政官廳ノ免許ヲ受ケヘシ
- 一 第一種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業
 - 二 第二種 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業
 - 三 第三種 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業
 - 四 第四種 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業
 - 五 第五種 一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業
 - 六 第六種 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業
 - 七 第七種 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
 - 八 第八種 一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鰯漁業
 - 九 第九種 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業
- 第十五條 前三條ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農林大臣別ニ之ヲ告示ス
- 第十六條 左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス
- 一 一定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
 - 二 區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
 - 三 専用漁業ニ在リテハ専用スル區域
 - 四 特別漁業中第一種ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域、第二種ニ在リテハ追込場ノ區域、第三種及第四種ニ在リテハ網ノ使用區域、第五種及第六種ニ在リテハ網場ノ區域、第七種ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域、第八種ニ在リテハ漬場

第九種ニ在リテハ築磯ノ區域

第十七條 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價值ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス

漁業權者及登録シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキ亦前項ニ同シ前項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セス

第十八條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ北海道、沖繩縣、並沖繩縣及島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ區又ハ町村内ノ一部ニ之ヲ適用ス

第十九條 第十七條第一項第二項ノ規定ハ漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十條 從來ノ慣行ニ因ル専用漁業權者ハ其ノ漁業ノ種類ヲ増加シ又ハ漁業ノ區域ヲ擴張スル變更ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ス

第二十一條 地勢上漁業組合毎ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ區分カ著シク困難ナルトキハ關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ専用ヲ出願スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ専用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書ニ通テ作り之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 専用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
- 二 漁獲物ノ種類
- 三 漁業時期
- 四 漁業權存續期間

第二十三條 前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖ニ通テ添附スヘシ

前項ノ記載事項ノ外定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具ノ建設又ハ敷設ノ形状ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ

第二十四條 免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面カ他人ノ占有ニ係ルトキハ其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ免許ノ願書ニ添附スヘシ

第二十五條 二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ

前項ノ規定ニ依リ代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ

第二十六條 代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

代表者ノ變更ハ前項ノ届出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十七條 前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利者ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス

第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依リ代表者ハ免許ヲ受ケタルオ漁業權ニ付其ノ共同者ヲ代表スル者ト看做ス

第二十九條 漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 免許ノ番號
- 二 免許ノ年月日
- 三 漁業權又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 四 漁場ノ位置
- 五 漁業ノ種類及名稱

六 漁獲物ノ種類

七 漁業時期

八 漁業權ノ存續期間

九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項

第三十條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ通テ作リ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ若シ登録シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ尙其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖ニ通テ添附スヘシ

第二十三條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス

第三十一條 漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書ニ通テ作リ存續期間満了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ之ヲ準用ス但シ慣行ニ因リ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第三十三條 漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ當該官廳ハ之ヲ公告シ且通達ナク登録シタル權利者ニ通知スヘシ但シ地方長官ノ免許シタル漁業ニ關シ農林大臣ノ爲シタル處分ノ通知ハ地方長官之ヲ爲スヘシ

第三十四條 漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ其ノ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ登録シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十六條 免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之

チ申請スヘシ
 前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スルニ至リタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ
 休業認可ノ期限内漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ
 第三十七條 漁業權ヲ抛棄シタルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
 前項ノ届出ニハ登録シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ
 第一項ノ届出アリタルトキハ行政官廳ハ之ヲ公告スヘシ

第三章 土地ノ使用

第三十八條 漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ
 一 土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、地番、種目及面積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的、時期及期

間

二 立木竹若ハ土石ノ除去ノ制限ニ付テハ其ノ種類、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

第三十九條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ行政官廳ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告スヘシ

第四十條 漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲メニモ效力ヲ有ス

第四十一條 漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、地番、種目、面積及現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第四十二條 第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官トス但シ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ト流場トチ管轄スル地方長官異ナルトキ又ハ流場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ノ爲

ナルトキハ之ヲ農林大臣トス

前項但書ノ場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ノ指定スルコトヲ得

第四十三條 漁業第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地又ハ支障土竹若ハ障礙物ノ所在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ出願スヘシ

第四十四條 漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り又ハ支障木竹ヲ伐採シ若ハ障礙物ヲ除去セムトスル者ハ常該官廳ノ許可證ヲ携帯スヘシ

第四章 蕃殖保護及漁業取締

第四十五條 漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署ニ於テ調査又ハ試験ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス蕃殖、學術、研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ

第四十六條 水産動植物ヲ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第四十七條 漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水産動植物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ス

第四十八條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第四十九條 行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業ニ付命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域ヲ設クルトキハ其ノ漁業ノ妨害トナルヘキ漁業ノ制限若ハ禁止ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十條 左ニ掲グル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 藻手繩網漁業
- 二 藻漕網漁業
- 三 藻打網漁業
- 四 藻曳網漁業
- 五 潛水器漁業

六 空釣繩漁業

前項ノ漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ告示スヘシ
 地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ
 第五十一條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帯スヘシ
 第五十二條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建設スヘシ
 第五十三條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ
 第五十四條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五章 裁決

第五十五條 漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ漁業權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ又ハ漁業權者、入漁權者間ノ争ニ關スルトキハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ
 第五十六條 裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
 二 申請ノ目的及理由
 三 立證
 申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ
 第五十七條 申請書ニハ相手方ノ數ニ應ジ前條書類ノ副本ヲ添附スヘシ
 第五十八條 行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第五十九條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章 罰則

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第四十六條ノ規定ヲ犯シタル者
 二 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動植物ヲ採捕シタル者
 前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス
 第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 一 第四十八條又ハ第五十條第一項ノ規定ヲ犯シタル者
 二 禁漁區又ハ第九條ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者
 第六十二條 第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第六十三條 本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第六十四條 本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモノト看做ス
 第六十五條 本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●岐阜縣漁業取締規則

(大正三年六月二十四日 岐阜縣令第二十九號)

附則 大正三年七月縣令第三三號、八年九月第四〇號、一二年一二月第四五號、一三年六月第五一號、一四年六月第二六號、一五年六月第三六號、同年七月第一四號改正

第一章 總則

第一條 知事ノ免許又ハ許可ヲ受クヘキ漁業ニ關スル願書ハ第一號書式ニ據ルヘシ
 漁業ニ關スル出願申請又ハ届出ハ漁業登録令ニ依ルモノヲ除クノ外其ノ漁業所轄ノ町村役場市役所支廳ヲ經由スヘシ
 第二條 漁業ニ關シ農商務大臣ニ出願申請又ハ届出ヲ爲ス場合ハ別ニ副本一通ヲ添付スヘシ
 第三條 知事ノ免許又ハ許可ヲ受クヘキ漁業ノ出願ハ漁業時期ヨリ少クトモ三箇月以前ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續ヲ爲シタル場合ニ於テ許可漁業ノ出願ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第四條 本規則ニ名稱ヲ掲記シタル河川、川筋ハ左ノ區域ニ依ル

- 木曾川 惠那郡落合村長野縣管轄界ヨリ右岸海津郡大江村三重縣管轄界マテ
- 長良川 郡上郡西川村 上之保川 合流ヨリ海津郡大江村三重縣管轄界マテ
- 揖斐川 揖斐郡徳山村ヨリ右岸海津郡石津村左岸海津郡大江村三重縣管轄界マテ
- 飛彈川 武儀郡金山町 益田川 合流ヨリ加茂郡古井村木曾川合流マテ
- 糸貫川 本巢郡山添村藪川分派ヨリ右岸本巢郡本田村左岸同郡合渡村長良川合流マテ
- 上ノ保川 郡上郡高鷲村ヨリ右岸同郡西川村左岸同郡川合村吉田川合流マテ
- 吉田川 郡上郡奥明方村ヨリ同郡西川村上ノ保川合流マテ
- 龜尾島川 郡上郡西川村ヨリ同郡相生村長良川合流マテ
- 板取川 武儀郡板取村ヨリ同郡安曾野村長良川合流マテ
- 武藝川 山縣郡北山村ヨリ同郡春近村長良川合流マテ
- 津保川 武儀郡上ノ保村ヨリ稻葉郡芥見村長良川合流マテ
- 羽川 郡上郡嵩田村大字高砂ヨリ同郡同村長良川合流マテ
- 藪川 本巢郡山添村糸貫川分派ヨリ本巢郡川崎村揖斐川合流マテ

- 牧田川 養老郡時村ヨリ同郡池邊村揖斐川合流マテ
 - 水門川 安八郡大垣町ヨリ同郡福東村牧田川合流マテ
 - 津屋川 養老郡養老村ヨリ海津郡城山村揖斐川合流マテ
 - 大江川 海津郡海西村及同郡今尾町ヨリ同郡大江村揖斐川合流マテ
 - 矢作川 惠那郡上村長野縣管轄界ヨリ同郡下原田村愛知縣管轄界マテ
 - 益田川 益田郡高根村ヨリ武儀郡金山町馬瀨川合流マテ
 - 馬瀨川 大野郡清見村ヨリ武儀郡金山町益田川合流マテ
 - 和良川 郡上郡西和良村ヨリ同郡東村馬瀨川合流マテ
 - 可兒川 土岐郡日吉村ヨリ可兒郡土田村木曾川合流マテ
 - 高原川 吉城郡上賣村ヨリ同郡船津町宮川合流マテ
 - 宮川 大野郡宮村ヨリ吉城郡船津町高原川合流マテ
 - 莊川 大野郡莊川村ヨリ同郡白川村富山縣管轄界マテ
 - 杭瀬川 揖斐郡宮地村ヨリ安八郡多藝島村牧田川合流マテ
 - 根尾川 本巢郡根尾村ヨリ同郡山添村糸貫川藪川分派マテ
- 本規則ニ各川ト稱スルハ前項ニ掲記セサル河川川筋ヲモ包含スルモノトス
- 第五條 本規則ハ公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニモ適用ス
- 第六條 本規則ハ漁業者ニアラスシテ水産動植物ヲ採捕スル者ニモ適用ス
- 第七條 官有土地水面ニ於テ定置漁業區劃漁業又ハ第八條第二號乃至第五號ノ漁業ヲ爲スモノハ使用料ヲ納ムヘシ但シ從來料金ヲ納付セスシテ本文ノ漁業ヲナシタル慣行アル場所ニ於テ其ノ慣行ニ從ヒ漁業ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ使用料額及納付期日ハ知事之ヲ定ム

第二章 漁業許可

第八條 左ニ掲クル漁業ハ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ行フ事ヲ得ス但シ專用漁業トシテ免許アリタル者ニシテ其漁場内ニ於テ營ム場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 鵜飼漁業

二 膝持網漁業(アッコ網ヲ含ム)

三 鮎受網漁業

四 口徑六尺以上ノ地獄網漁業

五 コザボリ漁業

第九條 前條ノ漁業ヲ許可シタルトキハ第二號雜形ノ鑑札ヲ下附ス

第十條 漁業ノ許可ヲ受ケタルモノハ左ノ各號ニ從フヘシ

一 漁業ヲ爲ス際ハ鑑札ヲ携帯スヘシ但シ本條第三號ノ場合ニ再下附又ハ書替下附ヲ受クルマテハ所屬市町村長ノ證明書ヲ携帯シ漁業ニ従事スルコトヲ得

二 鑑札ハ本人又ハ使用人カ携帯スルノ外他人ニ貸與シ又ハ讓渡スルコトヲ得ス

三 鑑札ヲ亡失シ毀損シ又ハ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之カ再下附又ハ書替ヲ願出ツヘシ

四 許可期間満了シ又ハ廢業シ若ハ許可ノ效力消滅シタルトキハ三十日以内ニ鑑札ヲ添へ知事ニ届出ヘシ但シ鑑札名義人死亡若ハ行衛不明トナリタルトキハ相續人又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

五 漁業監督吏員警察官吏縣稅檢査員河川監督吏員ニ於テ鑑札ノ呈示ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業ヲ許可スルニ當リ條件又ハ制限ヲ付シ若ハ本規則ニ依リ許可シタル漁業ヲ制限シ停止シ又ハ漁業ノ許可ヲ取消スルコトアルヘシ本規則其ノ他ノ法令ニ違背シ又ハ許可ノ制限若ハ條件ニ違背シタルトキ亦同シ

漁業ノ爲ニスル工業施行者ハ工作物作用ノ爲他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル虞アリト認ムルトキハ工事ノ變更又ハ豫防ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 漁業許可ノ期間ハ十箇年以内トス

第三章 制限禁止

第十三條 鵜飼漁業者ハ十二人以下トシ其ノ使用スル船ハ一人一艘ニ限ル

第十四條 河川ヲ遮斷シテ漁者ヲ爲ストキハ其ノ漁場ニ於ケル平均水深以上ノ箇所ニ於テ魚道ヲ設ケ平水面ニ於ケル河川流中ノ五分ノ一以上開通スヘシ

第十五條 築流ノ時期ハ左ノ各號ニ據ルモノトス

一 揖斐川、根尾川又ハ飛騨川ハ毎年七月一日ヨリ十月十五日マテ

二 長良川ノ内郡上郡嵩田村下田橋ヨリ下流ハ毎年十月一日ヨリ十一月三十日マテ

三 宮川、高原川、益田川ハ毎年八月一日ヨリ十月三十一日マテ

四 前三號以外ノ各川及長良川ノ内郡上郡嵩田村下田橋ヨリ上流ハ毎年七月一日ヨリ十一月三十日マテ

第十六條 左ニ掲クル魚ヲ捕獲シ又ハ其ノ捕獲シタルモノヲ販賣若ハ所持スルコトヲ禁ス

一 體長六寸以下ノ鯉

二 體長八寸以下ノ鰻

三 體長四寸以下ノ鯽

四 體長四寸以下ノ「アマゴ」

第十七條 粥川ニ於テ鰻魚ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

第十八條 左ノ箇所及其ノ箇所内川筋ト連接一體ヲ爲ス水面ニ於テ指定ノ期間水産動植物ヲ採捕スルコトヲ禁ス

川筋

箇

所 期

間

長良川

右岸本巢郡種積村大字別府字タリ二千九百八十五番地ノ二地先
左岸稻葉郡鏡島村大字江崎字四檀千二百六十九番ノ一地先ヨリ
右岸本巢郡種積村大字種積字河原畑四千五百九十九番地先
左岸稻葉郡日置江村大字高河原字村添百九十四番ノ一地先マテ

毎年九月十五日ヨリ十月三十一日マテ

板取川

右岸武儀郡安曾野村大字安宅字若神六百九十八番地ノ一地先
左岸武儀郡下牧田村大字長瀬字月ヶ瀬百四十番ノ一地先ヨリ
右岸武儀郡安曾野村大字安宅字若神六百六十番ノ一地先
左岸武儀郡洲原村大字立花字櫻谷千四十三番地マテ
右岸武儀郡板取村字下島六千五百五十五番地先
左岸武儀郡板取村字葦瀬六百五十三番ノ二地先ヨリ
右岸武儀郡板取村字下島六千三百三十四番地先
左岸武儀郡板取村字葦瀬六百四十四番ノ六地先マテ

毎年五月十五日ヨリ六月三十日マテ

毎年自五月一日至八月三十一日

揖斐川

右岸安八郡下宮村大字齊田字河並五百九十二番ノ一ノ二地先
左岸本巢郡川崎村大字大月字外畑九百七十一番地先ヨリ
右岸安八郡下宮村大字柳瀬字下新田千四百九十五番ノ一地先
左岸本巢郡鷺田村大字呂久字町下千九番地先マテ
右岸揖斐郡藤橋村大字鷺見字原谷八十七番ノ一地先
左岸揖斐郡藤橋村大字東杉原字尾曾八百十五番地先ヨリ
右岸揖斐郡藤橋村大字鷺見字杉尾百八十一番地先

終 年

毎年九月十五日ヨリ一月十五日マテ

木曾川

左岸揖斐郡藤橋村大字東杉原字毛目月七百二十八番地先マテ
右岸羽島郡下羽栗村大字無動寺字堤間三百六十九番地先
左岸愛知縣葉栗郡北方村大字北方字東大日三番六日社地先ヨリ
右岸羽島郡下羽栗村大字圓城寺字堤外千六百四十二番ノ二地先
左岸愛知縣葉栗郡北方村大字北方字神明三番畑地先マテ

毎年九月一日ヨリ十二月三十一日マテ

益田川

左岸益田郡下原村大字福來字中川渡二千三百二十六番地先
左岸同郡同村大字中切字釜平七百二十八番地先ヨリ
左岸同郡同村大字福來字中川渡二千三百二十一番地先
右岸同郡同村大字中切字釜平七百四十番地先マテ
右岸益田郡川西村大字西上田字北垣内千五百九十九番地先
左岸益田郡下呂村大字東上田字河原崎五百七十六番ノ三地先ヨリ
右岸益田郡川西村大字西上田字島千四百二番地先
左岸益田郡下呂村大字東上田字島千四百二番地先マテ

終 年

飛騨川

右岸武儀郡金山町大字井尻字植松三千五百四十六番地先
左岸加茂郡西白川村大字田島字中神田二千百十八番地先ヨリ
右岸武儀郡金山町大字井尻字下夕野三千五百六十二番地先
左岸加茂郡西白川村大字田島字下川牧千九百六十四番地先マテ
右岸武儀郡坂ノ東村字高瀬、左岸加茂郡西白川村大字河岐地内
岐阜電力株式會社白石堰堤ヨリ上流百間、下流二百五十間

終 年

宮川

右岸吉城郡細江村大字野口字一ノたき平境地先
左岸同郡小鷹利村大字谷字平畑二千四百一十一番ノ二地先ヨリ
右岸同郡細江村大字野口字一ノたき平境地先

毎年六月一日ヨリ八月五日マテ

左岸同郡小鷹利村大字谷字有家ヶ谷二千四百四十三番ノ二地先マテ
右岸吉城郡國府村大字上廣瀬大字三川境地先

毎年六月一日ヨリ八月五日マテ

宮川

左岸同郡同村大字村山字新田七百八十七番地先ヨリ
右岸同郡同村大字上廣瀬字安城寺境地先
左岸同郡同村大字村山字池ノ上六百六十二番地先マテ
右岸吉城郡坂下村大字打保字じや付三百三番地先

毎年自五月一日至八月三十一日

左岸吉城郡坂下村大字鹽屋字高瀬七百四十六番地ヨリ
右岸吉城郡坂下村大字打保字井ノ下八百十六番地
左岸吉城郡坂下村大字鹽屋字イリマキ六百二十番地マテ
右岸海津郡西江村大字本阿彌新田字江東四番割千六百二十三番ノ一地先

毎年四月一日ヨリ十月三十一日マテ

大江川

左岸同郡大江村大字福江字中ノ割二千五百五十五番地先ヨリ
右岸同郡西江村大字萬壽新田字深濱落六百八十九番地先
左岸同郡西江村大字萬壽新田字七番割六百八十七番地先マテ
右岸同郡高須町大字高須町字三郎右衛門新田六百七十八番地先
左岸同郡今尾町大字平原字地底百九番ノ二地先ヨリ
右岸同郡高須町大字高須村字武士小路四十五番地先

毎年四月一日ヨリ十月三十一日マテ

三水川

左岸同郡高須町大字馬目字西方四百五十八番ノ二地先マテ
右岸同郡高須町大字高須町字馬目千四十五番ノ二地先
左岸同郡高須町大字馬目字堤下千二百十九番地先ヨリ
右岸同郡高須町大字菅野字二番繩二千六百三十五番地先
左岸同郡高須町大字内記字五ノ割二千五百五十三番地先マテ
右岸揖斐郡大野村大字下方字明覺寺九十六番地先
左岸揖斐郡大野村大字下方字西ノ里三百八十七番ノ二地先ヨリ
右岸揖斐郡川合村大字郡家字二タ又百九十番地先
左岸揖斐郡川合村大字郡家字米野二百十九番地マテ

毎年四月一日ヨリ十月三十一日マテ

前項ノ場所ニ於テハ禁漁期間中水中ノ砂礫又ハ土石等ヲ採取シ若ハ攪亂シ其ノ他魚族ノ棲息ヲ妨害スヘキ行爲ヲ禁ス
第十九條 前二條ノ箇所ヲ禁漁區トシ第三號標形ノ標本ヲ爲ス
第二十條 左ノ川筋及其ノ支流ニ於テ指定ノ期間鮎魚ヲ捕獲スルコトヲ禁シ且縣下ニ於テ毎年五月十日以前ニ鮎ノ生魚ノ販賣又ハ食用ヲ目的トスル所持ヲ禁ス

川筋 期間

- 長瓦川
- 糸貫川
- 津保川
- 武藝川
- 板取川
- 吉田川

第三編 保安 第六章 産業 第七款 漁業

上ノ保川 毎年三月一日ヨリ
鶴尾島川 毎年五月十日マテ

揖斐川

牧田川

藪川

根尾川

木曾川

矢作川

其他本縣ニ記載セサル各川

毎年三月一日ヨリ
五月三十一日マテ

高原川 毎年三月一日ヨリ
飛騨川 毎年六月三十日マテ

益田川

馬瀬川

第二十一條 左ノ川筋及其ノ支流ニ於テ指定ノ期間鮭又ハ「アマゴ」ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

川筋 期間

長良川

根尾川

絲貫川

藪川

武蔵川 毎年九月十一日ヨリ
板取川 毎年十月三十一日マテ
吉田川
鶴尾島川
上ノ保川
和瓦川
益田川
飛騨川
馬瀬川
揖斐川
津保川
粥川
牧田川
莊川
宮川
高原川

毎年九月一日ヨリ
十月三十日マテ

第二十二條 左ノ川筋及其支流ニ於テ指定ノ期間鹹魚ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

川筋 期間

長良川 (郡上郡武儀郡境界ヨリ上流) 毎年自四月三十一日
至五月三十一日

第三編 保安 第六章 産業 第七款 漁業

揖斐川 (岡島橋上流) 每年自四月三十一日 至五月三十一日

柏川 每年自四月三十一日 至五月三十一日

吉田川

龜尾島川

上ノ保川

和瓦川

飛驒川

益田川

馬瀬川

莊川

每年四月一日ヨリ 六月三十日マテ

第二十三條 漁具漁法ニ關シ左記各號ノ行爲ヲ禁ス

- 一 縣下各川ニ於テ毎年四月一日ヨリ七月三十一日マテノ間ニ登リ筌ヲ使用シ掘替(ノボリ)オチテ含ム)又ハ「タキウケ」ヲ爲シテ魚族ヲ捕獲スルコト但シ竹木又ハ岩石ヲ以テ河川ヲ遮斷セスシテ使用スル口徑一尺以下ノ登リ筌ハ此限リニアラス
- 二 長瓦川筋、上ノ保川筋、板取川筋、龜尾島川筋及吉田川、那比川筋ニ於テ毎年五月十一日ヨリ六月十五日マテノ間ニ鮎ノ友釣ヲ爲スコト
- 三 縣下各川ニ於テ定置漁業ノ外竹、笹、樹木、樹葉、繩、板等ヲ沈設シ其ノ他漁族ヲ威嚇スヘキ裝置ヲ爲シテ其ノ派上又ハ降下ヲ妨クルコト
- 四 縣下各川ニ於テ毎年十月一日ヨリ翌年六月三十日マテノ間ニ籠伏セ(魚寄セ、桶伏セ其他之ニ類似スルモノヲ含ム)硝子壘、四ツ手、細目袋付引網、ボウテウ網其ノ他五寸ニ二十節以上ノ密網若ハ之ニ類スル漁具ヲ使用シ又ハ瀬干ヲ

爲シテ魚族ヲ捕獲スルコト

- 五 長瓦川、板取川ノ内武儀郡上牧村面平小倉用水堰下ヨリ下流、武藝川ノ内武儀郡南武藝村跡部、山縣用水堰下ヨリ下流、又ハ津保川内ノ武儀郡小金田村小屋名山田用水堰下ヨリ下流以外ニ於テ鵜飼漁業ヲ爲スコト但シ鵜ノ餌飼ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス
- 六 長瓦川筋郡上郡當田村大字下田ヨリ長瓦川合流マテノ間ニ於テ毎年五月十一日ヨリ八月十五日マテノ間ニ中獲網漁業若ハ五月十一日ヨリ十月十五日マテノ間ニ張網漁業又ハ長繩針漁業ヲ爲スコト
- 七 大江川、益田川、宮川又ハ其ノ各支流ニ於テ魚寄ヲ目的トシ竹木岩石等ヲ沈設シ又ハ河底ニ穴ヲ掘リ魚族ヲ捕獲スルコト
- 八 大江川ニ於テ毎年四月一日ヨリ八月三十一日マテ底筌ヲ使用スルコト
- 九 郡上郡内ノ河川ニ於テ鮎筌ヲ使用スルコト
- 十 縣下各川ニ於テ毎年一月一日ヨリ空釣漁業(イカリ掛ケ及ドボンコ)及モリヒシヤス漁業ヲ爲スコト
- 十一 水中ニ電流ヲ通シテ爲ス漁法

第四條 保護及監督

- 第二十四條 區置漁業、區劃漁業、特別漁業又ハ許可漁業ノ内藤持網漁業、鮎受網漁業、地獄網漁業、コシボリ網漁業ヲ爲ス者ハ其ノ漁場若ハ漁場ニ最モ接近シタル場所ニ第四號標形ノ標識ヲ建設スヘシ
- 第二十五條 漁業權又ハ漁業ノ許可消滅シ若ハ毎年漁業時期終了シタルトキハ遲滞ナク工作物ヲ撤シ原形ニ復スヘシ但シ本人死亡シ若ハ行衛不明ノ場合ハ相續人又ハ家族ニ於テ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十六條 鮎筌類漁業ハ其ノ漁場ノ前面二十間以内ヲ保護區域トシ其ノ區域内ニ於テ現ニ其ノ漁業ニ從事スル間他ノ漁業ヲ爲シ又ハ魚族ヲ散逸セシムヘキ行爲ヲ爲スコトヲ禁ス
- 第二十七條 養殖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ本規則ニ於テ制限禁止シタル行爲ヲナサントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ

知事ノ許可ヲ受ケヘシ但シ養殖ニ供スル魚苗トシテ本則第十六條ニ禁止シタル行爲ヲ爲シ若ハ特別ノ事由ニ依リ同條ニ規定シタル魚類ヲ販賣セムトスル場合ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一 目的
- 二 種類
- 三 場所
- 四 時期
- 五 方法
- 六 許可期間

前項ノ行爲ヲナストキハ許可指令書ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處シ且本則ニ違反シテ使用シタル漁具又ハ漁獲物及其ノ製品ハ之ヲ沒收ス但犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

一 第八條ニ違反シテ漁業ヲ爲シタルトキ

二 第十條、第十四條、第十五條、第十六條、第十八條第二項、第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十三條、第二十四條、第二十五條、第二十六條、第二十七條第二項ニ違反シタルトキ

本規則ニ規定シタル違背行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第六章 附則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年三月三號 岐阜縣令第十七號 漁業取締規則其ノ他本令ニ牴觸スルモノハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本則施行以前ニ許可ヲ受ケタル者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス但シ許可期間ハ前許可ヲ受ケタル所ニ依ル

○第一號書式

一 定置、區劃又ハ特別漁業ニ就テハ明治四十四年三月農商務省告示第七十九號ニ準シ調製シ其ノ官有水面ニ係ルモノニシテ特定ノ行爲ヲ施スモノニアリテハ漁場ノ面積ノ一項ヲ加ヘ且前記ノ通りノ下ニ官有水面使用ノ上ノ文字ヲ記入スヘシ

二 許可漁業ニ在リテハ左ノ離形ニ依ルヘシ

康持網漁業(鮎受網漁業)許可願

一 漁場ノ位置及區域 別紙漁場圖ノ通

一 漁場ノ面積 (民有土地水面ニ係ルトキハ其ノ面積ヲ區分附記スヘシ)

一 漁業ノ名稱

一 漁獲物ノ種類

一 漁業時期

一 許可期間

前記ノ通(官有水面ヲ使用シテ漁業ヲ爲ストキハ官有水面使用ノ上ト記スヘシ)漁業ノ許可相受度別紙工事設計書及漁業場ノ圖面(漁業場ノ敷地カ自巳ノ所有ニ係ルトキ又ハ占有ニ係ルトキハ之ヲ證スル書面若シ他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ關係人ノ承諾書)相添此段相願候也

年 號 月 日

住 所

氏

名 印

生 年 月 日

千 百 五

知事宛

附屬書類ノ表示

- 一 漁業場ノ圖 一通
- 一 慣行證據書 何通
- 一 承諾書 何通

以上

備考

圖面ハ明治四十四年三月三十一日農商務省告示第二百十三號ニ依リ調製スヘシ

轉付漁業許可願

- 二 漁業場ノ區域
- 二 漁業ノ名稱
- 二 漁獲物ノ種類
- 一 漁業時期
- 一 許可期間

前記ノ通漁業ノ許可相受度別紙履歷書相添此段相願候也

年 號 月 日

住 所

氏

生 年 月 日

名 〇

知事宛

附屬書類ノ表示

- 一 履 歷 書 何 通
- 一 何 々 何 通
- 以 上 何 通

履歷書雜形

住 所
族 籍

氏

生 年 月 日
名

- 一 本籍何郡何村何番地(月)主 又ハ戶主某(長男)(弟)等
- 一 住所本簿ニ同シ又ハ何郡何村何番地(戶)寄留

職 業

- 一 何年何月ヨリ(祖父)(父)某何郡何村ニ於テ何漁業ニ從事等漁業從事ノ經歷ヲ詳記スヘシ
- 一 賞罰ノ有無
- 一 身代限り及家資分散處分ノ有無

年 號 月 日

右

氏

名 〇

○第二號雛形

木製

豎三寸

面 裏		面 表	
年號月日	許第 號	何々漁業許可鑑札	
許可期間 自何年何月何日 至何年何月何日	岐 阜 縣 郡	住 氏 所	生 年 月 日 名
漁場 何々		分五寸二橫	

○第三號雛形

木製方四寸

以上赤色

表

地上高九尺

禁漁區	從是下流(上流)
每年	自何月何日
至何月何日	(上流)
禁漁區	從是下流(上流)
每年	自何月何日
至何月何日	(上流)

備考 單ニ禁漁區ト記スモノハ總テ漁業禁止ヲ云フ

裏

年 月 日
岐 阜 縣

○第四號雛形

木製方四寸

何川筋何郡市町村大字何	縱何何間
内々漁場(漁業場)	橫何何間
年月日免許(許可)	住 氏 所
名	

● 漁業名稱

沿道 大正六年一二月農告第三四五號改正

(明治四十四年三月八日 農商務省告示第四百十八號)

明治四十三年農商務省令第二十五號漁業法施行規則第十二條第十三條及第十四條ニ該當スル漁業ノ名稱左ノ如シ

定置漁業

一 罾網類漁業

鯨大敷網

鯨大敷網

鯨大敷網 一名麻苧罾網

鯨大敷網 一名鮪罾網

鯨大敷網

鯨大敷網 一名鯉罾網(京都府下及兵庫縣下ノ鯉中網ヲ含ム)

鯨大敷網

柔魚大敷網

前八種以外ノ大敷網(罾網ヲ含ム)

根拵網

小罾網 一名三艘張根拵網(小罾網ハ神奈川縣下ノ名稱ニシテ改瓦三艘張網ヲ含ム三艘張根拵網ハ静岡縣下ノ名稱)

小敷網

待網 一名額網(鹿島縣下川邊郡地方ノ名稱)

大罾網

小罾網

取大敷網

鯨大敷網

四艘張網(神奈川縣下及静岡縣下ノ名稱ニシテ神奈川縣下ノ三艘張網ヲ含ム)

二艘張網(静岡縣下ノ名稱)

鯉張揚網

鮪大罾網 一名鮪大網(和鮪建網及夏鮪建網ヲ含ム)

鯨大罾網

鯨大罾網

前三種以外ノ大罾網(和歌山縣下及三重縣下ノ八角網ヲ含ム)

筒伏網 一名鯉建網

鯉建網

鯉角網 一名鯉建網

鯉角網 別名鯉建網、鯉起網

鯉角網 一名鯉建網

鯉角網 一名鯉建網

鯉角網 一名鯉建網

鯉角網 一名鯉建網

鯉角網 一名鯉建網

鯉角網 一名鯉建網

- 鯨角網一名鯨建網
- 柔魚角網一名柔魚建網
- 前十種以外ノ角網
- 鯨行成網一名鯨建網
- 鮭行成網一名鮭建網
- 鯨行成網一名鯨建網
- 鯨行成網一名鯨建網
- 鯨行成網一名鯨建網
- 鯨行成網一名鯨建網
- 玉筋魚行成網一名玉筋魚建網
- 柔魚行成網一名柔魚建網
- 前八種以外ノ行成網
- 鮭金折網
- による網(愛媛縣下及高知縣下ノ名稱)
- 鯨網戸網
- 好網戸網
- 鯨網戸網
- 鯨網戸網
- 柔魚網
- 前三種以外ノ網

二

- 鯨守網
- 鯨網(石川縣下ノ名稱)
- 河豚てんこ網
- 天主張網
- 底入桁建網(大分縣下ニ於テ張網ト稱ス)
- 落網類漁業
- 鯨網一名鯨小蓋網
- 鯨網
- 鯨網
- 鯨網
- 鯨網
- 鯨網
- 鯨網
- 鯨網
- 柔魚網
- 前八種以外ノ網別名猪口網
- 小蓋網、もつたれ網(新潟縣下ノ小敷網ヲ含ム)
- 鯨落網(鳥取縣下ニテ鯨笠ト稱ス)
- 柔魚落網
- 前二種以外ノ落網(京都府下ノ落網附綿網及福井縣下ノ地獄網ヲ含ム)
- 鯨器補網

三 桁網類漁業

銚子網

鯛桁網

鱈桁網

鱈桁網

鱈桁網

鱈桁網

前五種以外ノ桁網

沖建網(福岡縣下及大分縣下ノ名稱)

角建網(愛知縣下ノ名稱)

おいご建網

壺網一名底囊網

張網(兵庫縣下ノ名稱ニシテ三重縣下ノ尻網^{モシドリ}ヲ含ム)

四 建網類漁業

鱈曲網

鱈曲網

鱈曲網

前三種以外ノ曲網

鱈建網

飯建網(京都府下ノ飯張網ヲ含ム)

鱈建網

いさき建網

鱈建網

にべ建網

鱈建網

めじか建網一名小前網

鱈建網

前九種以外ノ建網

蛙建網(字ヲ張リタル刺網)

鱈刺網一名鱈底打網

鱈刺網一名鱈配網

鱈刺網一名鱈ノ塔

やまこみづん切網

五 出網類漁業

鱈建網

網代網

建切捕網(三重縣下及宮崎縣下ノ小網網ヲ含ム)

張切地曳網(鹿児島縣下大島地方ノ待網ヲ含ム)

張切網

鱈建大網(静岡縣下ノ名稱)

立網

錨折網

鑛出網(福井縣下ノ鑛網ヲ含ム)

六 張網類漁業

鱈沖建網

魚來籠網

鱈瓢網

樫木張網一名樫木魚(長崎縣下ノばつしや網ヲ含ム)

囊網一名越中網

無雙網一名劔先網

立囊網

伏網

胴網

長囊網

鮭股引網

張網(滋賀縣下ノ名稱)

白魚間手網

魴鱈建干網

建干網(熊本縣下ノ建網ヲ含ム)

七 エリ 餌築類漁業

餌別名養建、養圃、養卷、ぐれ、八陣、養網

網(秋田縣下ノ毛繩ヲ含ム)

水晶形器械網

養羽瀨

養卷羽瀨

筌羽瀨

八重養

八重床

海御養

八重筵

笹干見

石干見一名すくひ(沖繩縣下ノかきヲ含ム)

養建持網(秋田縣下ノもつば及つかげヲ含ム)

張切網

網代漁(千葉縣下及茨城縣下ノ名稱)

築(静岡縣下ノ落簀、神奈川縣下ノ繩築、長野縣下ノ半瀬ノ切築及新潟縣下ノ打切築ヲ含ム)

かつせり築

網築(福井縣下ノ天ノ網ヲ含ム)

張築

白魚築

網戸漁(大分縣下ノ名稱)

鮭鱒網張網

鮭鱒網(廣島縣下ノ切川、岡山縣下ノもんじり、東京府下及神奈川縣下ノしらチ含ム)

鮭鱒留(茨城縣下ノ網留及竹留チ含ム)

鮭留地曳網

鮭鱒堰

鱒堰

瀬張堰(福井縣下ノ張網及長長野縣下ノ鱒全瀬ノ切築チ含ム)

張待網(島根縣下ノ樂手網チ含ム)

しらす待網(大阪府下ノ名稱)

堰四手網(新潟縣下ノ持網及徳島縣下ノ氷魚堰チ含ム)

魚堰(埼玉縣下ノ寶園、徳島縣下ノ漁魚堰、宮崎縣下ノ待堰、新潟縣下ノ待網、宮城縣下ノ殿手縣下及福島縣下ノ寶留、秋田縣下ノ川留、石川縣下ノかわぎす網、山口縣下ノ網堰、寶堰、樂堰チ含ム)

鮎網

堰(大阪府下ノ竹もんじり、愛媛縣下ノうゑ、廣島縣下ノ筍、島根縣下及大分縣下ノ筍、石川縣下ノもじ、山口縣下ノもじ堰、静岡縣下ノもじり、鳥取縣下ノ下り筍、群馬縣下ノ鮭鱒瀬張筒、奈良縣下ノもんじり一名さがりチ含ム)

鮎鱒

鮎鱒

いさざ瀧

鮎淀

石籠

區劃漁業

一 第一種漁業

海苔築建養殖業

青苔築建養殖業

牡蠣築建養殖業

ちめき築建養殖業

牡蠣養殖業

眞珠介養殖業

藻類養殖業

二 第二種漁業

魚類養殖業

魚鱈類養殖業

蝦類養殖業

三 第三種漁業

介類養殖業

特別漁法

一 第一種漁業

鮎漁業

第三編 保安 第六章 産業 第七款 漁業

二 第二種漁業

海豚漁業

三 第三種漁業

鮎地曳網

飯地曳網

鯛地曳網

鱈地曳網

鯧地曳網

鮪地曳網

めぢか地曳網

鱈地曳網

鮪地曳網

鯧地曳網

鱈地曳網

鯧地曳網

鱈地曳網

網車曳網一名高網地曳網

藏場地曳網

前十五種以外ノ地曳網

鮪待建網

灘網一名小籠待建網

鯛地滑網一名地葛網

四 第四種漁業

鯛船曳網一名鯛掛曳網

鯛船曳網

鮪船曳網

飯船曳網

鯧船曳網

鮪船曳網

前六種以外ノ船曳網

鱈船曳網

鯧船曳網

鮪船曳網

鯛船曳網

五 第五種漁業

鯧船追込網一名ふかせ網(高知縣下ニ於テ鯧縛網ト稱ス)

鯧待網

鮪待網

受網

六 第六種漁業

第三編 保安 第六章 産業 第七款 漁業

六 鮎敷網

鮎敷網(鮎四張網ヲ含ム)

鮎敷網(熊本縣下ノ打網ヲ含ム)

鮎敷網(高知縣下及鹿兒島縣下ノ八田網ヲ含ム)

鮎敷網(鮎四張網一名鮎四艘張網ヲ含ム)

五 いさぎ敷網

いさぎ敷網

海野敷網

前八種以外ノ敷網

八艘張網

網草網

替網八田網

替網八田網

替網(熊本縣下ノ名稱)

いさぎ網一名四張網

鮎落網

鮎起網(青森縣下ノ鮎立網ヲ含ム)

七 第七種漁業

鮎飼付

鮎飼付

鮎飼付

鮎飼付

八 第八種漁業

鮎漬

九 第九種漁業

築瀨一名松葉礁

こしやうたひ築磯一名たもり磯

鯛埋

● 漁業ニ關シ出願又ハ申請手数料ノ件

(明治四十三年十一月十二日 勅令第四百三十一號)

- 第一條 漁業ニ關シ左ニ掲クル出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
- 一 漁業法第四條又ハ第六條ニ依ル漁業ノ免許願 每一件 金三圓
 - 二 漁業法第五條ニ依ル漁業ノ免許願 每一件 金五圓
 - 三 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可願 每一件 金二圓
 - 四 地先水面專用ノ漁業權ノ處分ノ認可申請 每一件 金二圓
 - 五 漁業權存続期間ノ更新申請 每一件 金三圓
 - 六 免許漁業ノ休業ノ認可申請 每一件 金一圓
 - 七 漁業法第五十六條ニ依ル裁決ノ申請 每一件 金五圓

- 八 免許漁業原簿ノ閲覧ノ申請 每一件 金十錢
- 九 免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本下附ノ申請 每一件 金一圓
- 一〇 免許漁業原簿ノ謄本 每一件 金五十錢
- 一一 漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ全部ノ抄本 每一件 金三十錢
- 一二 漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ一部抄本 每一件 金五十錢
- 一三 漁場圖ノ謄本 每一件 金五十錢
- 一四 手数料ハ收入印紙ヲ願書又ハ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ
- 附則 本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第四條 本令施行前ノ出願又ハ申請ノ手数料ニ關シテハ仍從前ノ金額ニ依ル

●漁業ニ關スル出願又ハ申請ニ關シ提出スル願書

類ハ土木工區事務所ヲ經由ノ件 (大正十五年八月十一日 岐阜縣訓令甲第百二十四號)

支廳 市役所 町村役場 (支廳管内 ヲ除ク)

●漁業ニ關スル願書類調査ノ件

(大正十五年八月二十四日 15土第495八號通牒) 内務部長ヨリ岐阜大垣美濃町大井 高山太田土木工區事務所主幹宛

本年八月十一日本縣訓令甲第一二四號ヲ以テ支廳市役所町村役場ニ對シ標記出願書類ハ總テ當該事件ノ地籍所屬ノ土木工區事務所經由方訓令相成候ニ付貴所ニ於テ願書受理ノ上ハ左記事項御調査ノ上意見ヲ附シ進達相成度此段及通牒候

- 一 灌溉 排水 用水引入水行又ハ對岸關係ニ付故障ノ有無
- 一 木材管流及舟筏路ニ對スル故障ノ有無
- 一 堤防並河川ノ工作物ニ對シ障害ノ有無
- 一 使用料及算出ノ基礎(同川通川敷使用料若ハ隣地田畑何番賃貸料米等ヲ記入スルコト)
- 一 川敷使用出願地ノ川名 郡町村大字 字 段別(字毎ニ段別表示スルコト)
- 一 既設免許箇所トノ距離

●漁業監督吏員設置規程

(昭和二年四月九日 岐阜縣令第十四號)

- 第一條 漁業監督ノ爲明治四十四年三月勅令第二十七號ニ依リ漁業監督吏員ヲ設置ス
- 第二條 漁業監督吏員ハ上官ノ命ヲ受ケ法律命令ノ定ムル所ニヨリ漁業監督事務ニ從事ス
- 第三條 漁業監督吏員ニ携帶セシムヘキ證票ハ左ノ様式ニ依ル

表	漁業監督吏員證票
裏	印割

用紙厚紙 縱二寸 橫一寸五分

第四條 漁業監督吏員ノ給料手當其ノ他請給與及勤務等ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●梁留瀨流細等許可ノ際通知方ノ件 (明治二十八年一月十七日 警發第二八號内務部長へ)

木曾長良揖斐ノ三大川ニ梁留瀨流細其他工事ノ出願ヲ許可セラレタル場合ハ同時ニ其箇所及設計ノ概略等所轄警察署ニ御通知相成様致度此段及御照會候也

道テ已ニ御許可相成箇所ニシテ今後繼續施行スヘキ工事アルトキハ此際御取纏前同様御通知相成度候様致度此旨申添候也

●網棚「エリ」設置出願認可取扱ノ件 (明治二十一年七月 通保第四八七號)

本年(六月)本縣令第五十三號(改正五十七號)ヲ以テ諸川ニ於テ魚漁ノ爲メ網棚又ハ「エリ」ヲ設ケントスルモノハ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘキ旨發令相成候ニ付テハ向後右願出ニ對シ許可ヲ與ヘラレタル箇ハ網棚及「エリ」設置ノ箇所期限人保證人ノ住所氏名等其都度本縣第二部土木課ヨリ所轄警察署又ハ分署ニ向テ通報可相成答ニ付此旨心得ラルヘシ

●河川法實施區域瀨流細及エリ設置不相成件

(明治三十三年六月四日 内務省通牒内二第二一三四號)

河川法實施區域内河川ニ於テハ爾今瀨流細及エリ設置ノ儀許可不相成事ニ相成候間右様御了知相成度此段及通牒候也

●長良川筋御獵場區域内ニ於テ魚族ノ棲息ヲ妨クル行為禁止ノ件 (明治四十三年六月十一日 岐阜縣令第二十號)

長良川筋左記御獵場區域内ニ於テ魚族ヲ捕獲シ又ハ水中ヲ攪亂シ若ハ瓦礫ヲ投入スル等魚族ノ棲息ヲ妨クル行為ヲ禁止ス

違フ者ハ貳拾圓未満ノ科料若ハ三十日未満ノ拘留ニ處ス
前項ノ違背行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ處罰ス但シ状況ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
明治三十三年十一月十一日 岐阜縣令第八十一號ハ之ヲ廢止ス

嵩田御獵場

(右岸郡上郡嵩田村大字上田字下平露洞口境) 地先ヨリ

(左岸同 郡下川村大字大原字上ケ野三千九十一番ノ壹山地)

(右岸同 郡嵩田村大字上田字千谷口渡船場マテ)

立花御獵場

(右岸武儀郡洲原村大字立花字御堂ノ上渡船場ヨリ)

(左岸同 郡安曾野村大字曾代字杉ヶ鼻)

古津御獵場

(右岸稻葉郡長良村大字古津字池ノ尻境) 地先ヨリ

(左岸同 郡日野村字堤外三千百九十八番ノ一畑地)

右岸同 郡長良村大字 古津字小島山 境地先マテ
志段見字高川原
左岸同 郡日野村字 後洞境
舟伏境

明治二十六年三月四日
法律第五號
其川内...
...

第八款 取引所、市場及保險

●取引所法

(明治二十六年三月四日
法律第五號)

附註

明治三十二年法律第五八號、大正三年三月第三三號、一一年四月第六〇號改正

第一章 取引所ノ設立

第一條 實買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若クハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ實買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ他ノ株式會社組織ノ取引所ヲ合併スル場合ニ限り政府ノ認可ヲ受ケ其ノ存在シタル地區内ニ支所ヲ設クルコトヲ得支所ノ數ハ其ノ合併ニ依リ消滅スル取引所及支所ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條ノ二 有價證券ヲ實買取引スル市場ハ取引所ト看做シ本法ニ依ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ノ土地商業ノ情況及實買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ會員ニ限り實買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引員ニ限り實買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ取引所ノ實買取引ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得

第二十二條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スル株式會社組織ノ取引所ハ倉庫業ヲ除クノ外前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得但シ
該物件又ハ餘柄ノ一部ニ付賠償ノ責ニ任セサル場合ニ於テ其ノ一部ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 取引所ノ會員及取引員

第十條 取引所ノ取引員トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第十一條 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ニ非サレハ取引所ノ會員、又ハ取引員トナルコトヲ得ス
無能力者、復權セサル家資分散者及破産者並本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ會員トナルコトヲ得ス

懲役若ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ刑法第二編第十六章乃至第十九章第二十三章第三十五章乃至第三十九章、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第二百六十條乃至第二百六十二條第八章第九節第三編第二章第一節第二節第四節乃至第六節、通貨及證券模造取締法、明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十二號商法第三編第九章、同年法律第一百號、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ取引員トナルコトヲ得ス前項ニ該當スル者亦同シ

合名會社、合資會社又ハ株式合資會社ニ在リテハ其ノ無限責任社員ノ全員カ帝國臣民タルモノ、株式會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬シ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ノ全員カ帝國臣民タルモノニ非サレハ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス無限責任社員又ハ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員中前二項ニ該當スル者アル場合亦同シ

第十一條ノ二 會員前條第一項、第二項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取引所ヨリ脱退ス
農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ會員トナリタル者又ハ前條第一項、第二項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ會員トナリタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ取引所ヨリ脱退セシムルコトヲ得
取引員前條第一項、第三項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ
農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ取引員タルノ免許ヲ受ケタル者又ハ前條第一項、第三項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ

免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條ノ三 取引員取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ

第十一條ノ四 會員又ハ取引員ハ第二項但書ノ場合ヲ除ク外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルチ間ハス二以上ノ場所ヲ以テ同一取引所ノ實質取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス

何人ト雖取引所ノ實質取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ會員又ハ取引員ニシテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトチ間ハス取引所ニ對シ其ノ實質取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引員ハ其ノ免許ヲ受ケルトキ免許料ヲ納ムヘシ

免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ取引員ノ營業ヲ停止シ千圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ取引員ヲ除名スルコトヲ得

第十五條ノ二 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ取引員トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得
第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ取引員カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ取引員トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三 取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス
取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許ヲ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脱退ノ場合ニ之ヲ準用ス
前三項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲
サシムルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員及商議員會

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上

監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條 第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ト同種
ノ物件ヲ取引スル株式會社組織ノ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十六條ノ二 役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ取引員ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理
事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルト認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發
見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得

第十六條ノ三 農商務大臣ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得

第十七條 株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルチ間ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於

ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ス

株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員トノ間ニ資金ノ供
與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ス

第十七條ノ二 取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ商議員會ヲ置キ取引所ニ關スル重要ナル事項ヲ付議スヘシ

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二箇月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他
ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ス(本條中有價證券ノ賣買取引ノ期限ニ關スル規定ハ大正十四年
四月一月ヨリ之ヲ施行)

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコ
トヲ得

第二十二條 取引所ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スルトキハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二十四條 取引所ハ賣買取引高ニ應ジ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條ノ二 取引所ノ賣買取引ノ委託者ハ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因ル債權ニ關
シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第三編 保安 第六章 產業 第八款 取引所、市場及保險

千百三十三

第二十五條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル會員又ハ取引員ハ取引所之ニ一箇月以上ノ營業停止ヲ命ジ又ハ之ヲ除名スヘシ

第二十六條 取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ公定相場ヲ決定シ之ヲ公示スヘシ

取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各會員又ハ各取引員ノ賣買高チ公示スヘシ

第二十六條ノ二 差金取引ヲ爲ス取引所類似施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リテ取引ヲ爲スコトヲ得ス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散

二 取引所ノ停止

三 取引所一部ノ停止若ハ禁止

四 役員ノ解職

五 會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及取引員ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受ケヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ二 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十二條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者

二 取引所ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者

三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者

四 免許ヲ受ケスシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十二條ノ四 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虛偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行者ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第八十六條ノ適用ヲ妨ケス

第三十二條ノ六 會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第三十二條ノ七 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用

第三編 保安 第六章 產業 第八款 取引所、市場及保險

千百三十五

附則

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモノハ此ノ限ニ在ラス

○大正十一年法律第六十號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年七月勅令第三百五十二號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

第十八條ノ改正規定中有價證券ノ賣買取引ノ期限ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ他ノ規定ヨリ後ニ之ヲ施行スルコトヲ得但シ其ノ施行ノ期日ヲ大正十四年四月一日ヨリ後ト爲スコトヲ得ス(大正十一年七月勅令第三百五十二號ヲ以テ同十四年四月一日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ營業スル仲買人ハ其ノ營業部類ニ付本法ニ依リ其ノ取引所ノ取引員タル免許ヲ受ケタルモノト看做ス本法施行前ニ爲シタル取引所ノ賣買取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

取引所法施行規則

(大正三年六月二十九日 農商務省令第十六號)

大正十一年七月農令第一五號、一四年四月商令第三號改正

第一條 取引所ヲ設立セムトスルトキハ發起人ハ發起認可申請書ニ定款、業務規程及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ

地方長官ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一 株式會社組織ノ取引所ニ付テハ發起人各自ノ引受クヘキ株式ノ數、會員組織ノ取引所ニ付テハ發起人各自ノ贖金額

二 資本又ハ贖金ノ使用ノ概算及收支ノ見込

三 賣買取引スヘキ物件ノ其ノ地方ニ於ケル集散ノ狀況及取引所ニ於ケル賣買高ノ見込

四 取引所ノ地區

第二條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ商法第二百二十四條ニ定メタル調査終了ノ後 發起人株式ノ總數ヲ引受ケサ

リシトキハ創設總會終結ノ後總役員ハ設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘ

シ

一 定款及業務規程

二 株主名簿

三 検査役ノ報告ニ關ス裁判アリタルトキハ其ノ決定ノ寫本

四 創立總會ノ決議錄

第三條 發起人會員ノ募集ヲ終リタルトキハ設立總會ヲ開キ總會員ノ半數以上ノ同意ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選任ス

ヘシ

前項ニ依リテ選任セラレタル總役員ハ設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘ

シ

一 定款及業務規程

二 會員ノ氏名又ハ名稱、營業種目及營業所ヲ記載シタル書面

三 各會員ノ贖金額及其ノ拂込額ヲ記載シタル書面

第四條 取引所ヲ設立セムトスル地ニ於テ一年以上引續キ賣買取引スヘキ物件ノ商業ヲ營ム商人各物件毎ニ三十人以上發

第三編 保安 第六章 產業 第八款 取引所、市場及保險

起人ト爲リタル場合ニ非サレハ取引所發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第五條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 名稱及所在地

三 會員ノ離金ニ關スル事項

四 會員ノ入退ニ關スル事項

五 會計ニ關スル事項

六 會議ニ關スル事項

七 役員ノ職務權限、定數、任期及任免ニ關スル事項

八 解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産ノ處分ニ關スル事項

第六條 設立免許ノ申請ハ發起ノ認可ヲ受ケタル後六月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

設立ノ免許ヲ受ケタル後一年内ニ業務ヲ開始セサルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 取引所繼續ヲ出願セムトスルトキハ其ノ免許年限滿了前三月以上六月内ニ地方長官ヲ經由シテ其ノ願書ヲ商工大
臣ニ差出スヘシ

第七條ノ二 商工大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

第七條ノ三 商工大臣ハ會員組織ノ取引所ニ付左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一 設立ヲ免許シタルトキハ目的、名稱、所在地及免許ノ年月日

二 役員ノ選任ヲ認可シタルトキハ氏名及認可ノ年月日

三 繼續ヲ免許シタルトキハ免許ノ年月日

四 解散シタルトキハ其ノ年月日及清算人ノ氏名

五 清算力結了シタルトキハ其ノ年月日

第八條 取引員ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ會社ニ在リテハ定款、貸借對照表、財産目錄、株主名簿及役員ノ履

歷書ヲ、其ノ他ノモノニ在リテハ履歷書及資産調書ヲ添附シ取引所ヲ經由シ之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

取引所ハ前項ノ願書ニ其ノ意見書ヲ添附スヘシ

取引所其ノ取引員ノ員數ヲ制限シタルトキハ缺員アル場合ニ非サレハ第一項ノ願書ヲ商工大臣ニ差出スコトヲ得ス

第九條 取引所取引員免許狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通知シ免許料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル請書

及身元保證金ヲ差出サシメタル後之ヲ交付スヘシ

前項ノ請書ハ取引所之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

取引員ノ免許ヲ出願シタル者取引所力免許狀ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十五日内ニ請書及身元保證金ヲ差出ササルトキハ

免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第十條 取引員免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ取引所ヲ經由シテ其ノ再下付ヲ申請ヘスシ

取引員其ノ氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキハ取引所ヲ經由シテ免許狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第十一條 取引員死亡、解散、廢業、除名其ノ他ノ事由ニ因リ取引員タル資格ヲ失ヒタルトキハ取引所ハ遲滞ナク其ノ事

由ヲ具シ免許狀ヲ添ヘ之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第十一條ノ二 取引所力會員又ハ取引員ノ身元保證金及實買證據金ニ代用スルコトヲ得ヘキ有價證券ノ種類及代用價格ヲ

決定シ又ハ變更シタルトキハ其ノ有價證券ノ時價ヲ附記シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ代用價格ハ國債證券及地方債證券ニ在リテハ時價以下ニ、其ノ他ノ有價證券ニ在リテハ時價ノ九割以下ニ之ヲ定

ムヘシ其ノ有價證券ノ時價力代用價格ヲ下リタルトキハ遲滞ナク之ヲ變更スヘシ

第十二條 役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ但シ再選ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 取引所清算市場ニ於ケル實買取引ノ標準物ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ一部ヲ商工大臣ニ差出シ其ノ一部ヲ

會員又ハ取引員ニ交付シ之ヲ其ノ營業所ニ保管セシムヘシ

第三編 保安 第六章 產業 第八款 取引所、市場及保險

千百四十一

前項ノ標準物ハ之ニ依リテ爲シタル賣買取引ノ受渡期日後六箇月ヲ經過スル迄取引所之ヲ保管スヘシ

第十四條 取引所ハ其ノ取引銀行、所有有價證券ノ種類其ノ他財産保管ノ方法ヲ定メ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

商工大臣必要ト認ムルトキハ前項保管方法ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 會員又ハ取引員ハ委託手数料率及受託契約準則ヲ定メ取引所ヲ經由シテ商工大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

取引所ハ前項ノ認可申請書ニ其ノ意見書ヲ添附スヘシ

商工大臣必要ト認ムルトキハ委託手数料率又ハ受託契約準則ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 取引所法第二十五條第二項ニ依ル處分ハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 取引所法第八條及第二十二條ノ規定ニ依ル業務ニ關スル細則ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十八條 賣買成立ノ値段ヲ以テ公定相場トス

取引所ハ公定相場及其ノ平均値段ヲ毎日市場ニ公示スヘシ

取引所ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ公定相場ノ一部ヲ公示セサルコトヲ得

第十九條 取引所ハ毎日相場表ヲ發行スヘシ

第二十條 各會員又ハ各取引員ノ賣買高ハ賣買取引ノ種類、物件若ハ銘柄及受渡期日ノ區別ニ從ヒ賣付及買付ニ別チ毎日取引所之ヲ揭示スヘシ

商工大臣ハ賣買高ノ公示方法ノ變更ヲ命シ又ハ其ノ公示ヲ要セサル銘柄若ハ賣買取引ノ種類ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 取引所其ノ受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク履歴書ヲ添附シ左ノ事項ヲ申告スヘシ

一 氏名、住所、職業

二 報酬

三 在職期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間

受渡物件ノ格付ヲ爲ス者退任シタルトキハ取引所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ申告スヘシ

取引所ハ其ノ物件ヲ取引スル取引所ノ會員又ハ取引員ヲシテ受渡物件ノ格付ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 取引所ハ左ノ書類ヲ作成シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一 相場表

二 賣買高表

三 毎期ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及事業報告書

四 毎期末日現在株主及其ノ持株

五 毎期末日現在取引員又ハ會員表

前項第一號及第二號ノ書類ハ賣買市場ニ於ケル賣買取引及七日以内ノ期限ヲ以テ履行期トス爲ス清算市場ニ於ケル賣買取引ニ付テハ毎月末日其ノ他ノ賣買取引ニ付テハ每受渡期日ニ之ヲ作成スヘシ

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ取引所ハ遲滞ナク其ノ事項ヲ商工大臣ニ報告スヘシ

一 取引所其ノ會員又ハ取引員ニ付取引所法第十一條ノ第二項若ハ第四項又ハ第十五條ノ第二項ニ掲ケタル事由ヲ

二 取引所法第十五條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキ

三 賣買取引ノ違約ヲ生シタルトキ及其ノ賠償ヲ爲シタルトキ

四 臨時ニ市場ヲ開始シ又ハ休止シタルトキ

五 有價證券ノ賣買取引ヲ開始、中止又ハ廢止シタルトキ

六 市場ノ立會ヲ停止シ又ハ會員若ハ取引員ノ賣買取引ヲ差止メタルトキ

七 仲裁判斷ヲ爲シタルトキ

八 役員其ノ任期中ニ於テ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ退任シタルトキ但シ解職ノ場合ヲ除ク

第三編 保安 第六章 產業 第八款 取引所、市場及保險

千百四十一

- 九 取引所、役員又ハ會員若ハ取引員カ其ノ職務又ハ業務ニ關シ訴訟ノ當事者ト爲リタルトキ及其ノ判決アリタルトキ
- 十 會員又ハ取引員カ國稅徵收法ニ依リ滯納處分ヲ受ケタルトキ若ハ間接國稅犯則者處分法ニ依リ處分ヲ受ケタルトキ
- 十一 取引所ノ役員、受渡物件ノ格付ヲ爲ス者又ハ會員若ハ取引員カ犯罪ノ嫌疑ノ爲メ起訴セラレタルトキ
- 十二 株式會社組織ノ取引所カ商法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキ
- 十三 會員カ入退シタルトキ
- 十四 會員又ハ取引員タル會社ノ目的、資本金若ハ無限責任社員、取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員ニ變更アリタルトキ
- 十五 商議員就任又ハ退任シタルトキ
- 十六 商議員會ニ於テ決議ヲ爲シタルトキ

附則

第二十四條 本則ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 明治三十二年農商務省令第十八號、明治三十五年農商務省令第十一號及明治三十九年農商務省令第三十三號ハ之ヲ廢止ス

取引所令

(大正十一年七月三十一日 勅令第三百五十三號)

- 第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トス
- 農商務大臣必要ト認ムルトキハ資本金ノ變更又ハ株金ノ拂込ヲ命スルコトヲ得
- 株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ半額以上ニシテ少クトモ十萬圓ノ拂込ヲ終リタル後ニ非サレハ業務ヲ行フコトヲ得ス

- 第一條 會員組織ノ取引所ノ資本金ハ會員ノ贖金ヲ以テ之ニ充ツ
- 會員組織ノ取引所ハ營利ノ目的ヲ以テ業務ヲ行フコトヲ得ス
- 第三條 取引員ノ免許料ハ三百圓トス
- 第四條 身元保證金ノ額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ會員ニ付テハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得ス取引員ニ付テハ其ノ取引所ノ資本金ノ千分ノ五以上ニシテ農商務大臣ノ指定スル金額ヲ下ルコトヲ得サルモノトシ其ノ千分ノ五ノ金額カ一萬圓未滿ナルトキハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス
- 資本金ノ額カ二千萬圓ヲ超ユルトキハ其ノ超過金額ニ付テハ農商務大臣ハ其ノ定ムル別段ノ率ニ依リ身元保證金ノ額ヲ指定スルコトヲ得
- 支所ヲ設ケル取引所及取引員ノ營業ノ部類ヲ數個ニ分ツ取引所ニ在リテハ農商務大臣ハ本支所及部類毎ニ資本金ヲ區分シテ前二項ノ規定ニ依ル金額ヲ指定スルコトヲ得
- 身元保證金ハ取引所ノ定ムル所ニ從ヒ有價證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 農商務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ有價證券ノ種類又ハ其ノ代用價格ヲ變更セシムルコトヲ得
- 取引所身元保證金ヲ受取りタルトキハ遲滞ナク之ヲ供託スヘシ
- 第五條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ賣買手數料ノ率ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 取引所ハ毎日一定ノ時ニ於テ市場ヲ開クヘシ
- 開市及休業ニ關スル事項ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 取引所ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ立會ノ停止又ハ會員若ハ取引員ノ市場ニ於ケル賣買取引ノ差止ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 賣買取引ノ期限ハ棉花、綿絲又ハ綿布ニ在リテハ十二箇月、青豌豆、鵲豆、馬鈴薯澱粉又ハ砂糖ニ在リテハ六箇月、大豆粕ニ在リテハ五箇月、小麥、大豆、小豆又ハ鱘肥料ニ在リテハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 實買取引ハ實物市場ニ於ケル實買取引及清算市場ニ於ケル實買取引ノ二種トス

第十條 實物市場ニ於ケル實買取引ニ在リテハ差金ノ授受ニ依リ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 有價證券ノ清算市場ニ於ケル實買取引ニシテ七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノニ限リ

受渡其ノ他ノ決済ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ實買成立ノ日ヨリ一箇月以内之カ繰延ヲ爲スコトヲ得

第十二條 取引所ハ清算市場ニ上場セムトスル有價證券ノ各銘柄ニ付農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ國債證券及地方債

證券ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ會員又ハ取引員ヲシテ實買證據金ヲ納メシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十四條 第四項及第五項ノ規定ハ實買證據金ニ付テハ準用ス

實買證據金ニシテ農商務大臣ノ指定スルモノニ付テハ取引所ハ會員又ハ取引員ヲシテ少クトモ其ノ半額迄ハ現金ヲ以テ之ヲ納メシムヘシ

第十四條 清算市場ニ於ケル實買取引ニ限リ業務規程ノ定ムル所ニ依リ標準物ヲ定メ格付受渡ノ方法ヲ用キルコトヲ得受渡格付表ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十五條 清算市場ニ於ケル實買取引ノ單位ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ

前項ノ單位ハ米ニ付テハ百石、株式ニ付テハ十株ヲ下ルコトヲ得ス但シ米ニ付テノ單位ニ關シテハ地方ノ狀況ニ依リ特別ノ必要アル場合ニ限リ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

取引所實物市場ニ於ケル實買取引ノ單位ヲ定メムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 受渡其ノ他ノ決済及其ノ繰延ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ取引所ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

受渡其ノ他ノ決済及其ノ繰延ニ關スル事務ハ取引所自ラ之ヲ行フヘシ

受渡場所ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十七條 取引所ハ業務規程ヲ設ケ實買取引ノ方法ニ關スル細則ヲ定ムヘシ

業務規程ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ業務規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十八條 株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ十分ノ一ニ相當スル營業保證金ヲ供託シタル後ニ非サレバ取引所法第二十

二條ノ規定ニ依ル業務ヲ行フコトヲ得ス營業保證金ニ不足ヲ生シ農商務大臣ノ指定シタル期間内ニ其ノ不足額ヲ供託セ

サル場合ニ於テ其ノ期間經過後ニ爲ス實買取引ニ付亦同シ

營業保證金ハ有價證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得其ノ種類及代用價格ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十九條 取引所ハ商議員會ヲ設置シ左ニ掲クル事項ヲ諮問スルコトヲ要ス

一 資本金、會員、取引員、商議員會又ハ實買取引ニ關スル定款ノ變更

二 業務規程ノ變更

三 會員又ハ取引員ノ加入又ハ處分

四 市場ノ臨時開閉又ハ立會停止

五 上場物件ノ銘柄ノ決定又ハ廢止

六 實買取引ノ標準物ノ決定又ハ廢止

七 實買手数料ニ關スル事項

八 實買證據金ニ關スル事項

九 實買取引ノ違約ニ關スル事項

十 定款又ハ業務規程ニ於テ特ニ定メタル事項

第二十條 商議員會ハ役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選シタル者及役員ノ互選シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選スル商議員ノ數ハ役員タラサル會員又ハ取引員ノ總數ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第三編 保安 第六章 産業 第八款 取引所、市場及保險

千百四十五

但し役員タラサル會員又ハ取引員ノ總數カ百名ヲ超ユルトキハ其ノ超過員數ニ付テハ定款ヲ以テ別段ノ率ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ商議員ノ數ハ役員ノ互選スル商議員ノ數ヲ下ルコトヲ得ス

第二十一條 支所ヲ設ケル取引所及會員又ハ取引員ノ營業ノ部類ヲ數個ニ分ツ取引所ニ在リテハ役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選スル商議員ハ本支所及部類毎ニ之ヲ互選スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ數ハ本支所及部類毎ニ役員ノ互選スル商議員ノ數ヲ下ルコトヲ得ス

第二十二條 商議員會ニ會長一人及副會長若干人ヲ置ク

會長及副會長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ商議員中ヨリ之ヲ選舉ス

會長ハ會務ヲ整理シ會議ノ議長ト爲ル

副會長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

第二十三條 商議員會ノ議事ハ議事ニ關スルコトヲ得ル商議員ノ過半數カ出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス但し

第十九條第三號、第四號、第九號及第九號ニ掲ケル事項ニシテ臨時急施ヲ要スルモノニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ商議員ノ互選スル總代ノ過半數及議長タル會長又ハ副會長ノ出席アルヲ以テ足ル

第二十四條 商議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十五條 役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選スル商議員ハ其ノ屬スル本支所及部類ニ關係ナキ事項ニ付テハ議事ニ關與スルコトヲ得ス議長トシテ行フ職務ニ付亦同シ

第二十六條 商議員ノ任期、選舉方法及定數其ノ他商議員會ノ組織及會議ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

天正十四年三月三十一日迄ニ爲ス有價證券ノ實買取引ノ期限ハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

取引所ハ本令施行後一箇月以内ニ本令ニ依リ業務規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ
本令施行ノ際現ニ存スル營業細則ハ前項ノ認可ヲ受ケル迄本令ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル業務規程ト看做ス
本令施行ノ際現ニ定期取引市場ニ上場スル有價證券ノ銘柄ハ本令第十二條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但し七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

家畜市場法 (抄録)

(明治四十三年三月十八日)
法律第一號

附則 明治四五年四月法第二〇號改正

第六條 家畜市場ニ於テハ其ノ場内又ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ニ非サレハ之ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第七條 家畜ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ業トスル者若ハ屠肉販賣ノ目的ヲ以テ家畜ノ買入ヲ爲ス者ハ家畜市場附近ノ區域

内ニ於テハ市場開催日及其ノ開催日前後ノ期間中其ノ市場ノ取扱フ家畜ヲ賣買交換スルコトヲ得ス但し命令ノ定ムル所

ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ區域及期間ハ地方長官之ヲ指定ス

第九條 地方長官必要アリト認ムルトキハ常設家畜市場ニ付其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ關シ指定シタル區域内ノ牛馬宿ニ於

ケル賣買交換ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十條 前三條ノ區域及期間ノ指定、變更又ハ取消ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十一條 家畜市場開設者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ市場ノ取扱フ家畜ノ賣買交換ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ家畜市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ臨檢シ市場

開設者若ハ仲立業者ノ帳簿、書類其ノ他ノ物品ヲ検査シ又ハ市場若ハ其ノ附屬ノ場所ニ在ル家畜ヲ診斷シ又ハ其ノ移動

ヲ停止セシムルコトヲ得

第十五條 家畜市場ノ休場又ハ廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

家畜市場開設許可ノ際指定シタル期間内ニ開場セザルトキハ之ヲ休場ト看做ス

第十六條 家畜市場開設者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ主務大臣若ハ地方長官公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ家畜市場ノ開設許可ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官公益上必要アリト認ムルトキハ家畜市場及其ノ附屬建設物ノ位置、構造、設備又ハ市場業務規程ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條 許可ヲ受ケスシテ家畜市場ヲ開設シ又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル停止若ハ制限ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第六條、第七條第一項、第十一條、第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者、第九條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者又ハ第十四條ノ規定ニ依ル停止ノ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢検査ノ際當該官吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者未成年者又ハ禁止産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 家畜市場開設者又ハ家畜ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條 本法ハ皇室、政府、北海道地方費又ハ府縣ノ行フ家畜ノ賣買交換ニ之ヲ適用セス

●家畜市場法施行規則 (抄録)

(明治四十三年十二月一日 農商務省令第二十六號)

附則 大正元年一月縣令第二三號改正

第六條 家畜市場開設者市場管理者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第七條 家畜市場開設者ハ臺帳ヲ調製シ入場シタル家畜ヲ一頭毎ニ其ノ種類、産地、飼養地、性、毛色、高サ(羊豚ニ在リテハ重量)、年齢及用途ヲ記入スヘシ賣買交換シタル家畜ニ在リテハ尙賣買若ハ交換當事者ノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ家畜ノ價額ヲ記入スヘシ

第八條 常設家畜市場ニ於テ賣買交換シタル家畜及其ノ代金ハ市場業務規程ノ定メタル日ニ於テ家畜市場開設者ヲ經テ之ヲ授受スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ家畜市場開設者ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ賣買若ハ交換當事者其ノ義務ヲ履行セザルトキハ家畜市場開設者其ノ責任ニ任スヘシ

第九條 家畜市場ニ於テハ獸醫ヲシテ市場若ハ其ノ附屬地ニ牽入ルル家畜ノ健康検査ヲ行ハシムヘシ

第十三條 家畜市場ノ仲立業者タラムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ家畜市場ノ仲立業者タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 一年以上ノ禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後滿三箇年ヲ經サル者但シ特ニ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 家畜市場法、本則又ハ牛馬商取締規則ノ規定ニ違背シテ處罰ヲ受ケ其ノ情狀重キ者
- 四 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者
- 五 三箇年以上畜産業又ハ牛馬商ニ從事シタル經驗ナキ者